

文化情報学部履修要項

目 次

I. 文化情報学部について	2
II. 人材養成目的	3
III. 養成する能力 Diploma Policy	3
IV. カリキュラム Curriculum Policy	4
V. 履修の要領	7
科目説明	24
VI. 開講科目一覧	31
2024年度以降生	32
2017～2023年度生	44
免許資格関係について	58
充実した学生生活を過ごすために	61
同志社大学学則	63
学部一般内規	74
外国留学に関する諸規程	76
学業履修について	78
路線の不通または暴風警報・特別警報発表に伴う授業・試験の実施について	83

I. 文化情報学部について

文化情報学部 VISION

「人間の時代／Human age」という言葉に示されるように、現代は人類が強大な力をもち、かつてない物質的繁栄を享受する一方で、その同じ力によって地球環境を破壊しかねないような時代です。そして、その力の源泉であり、かつ、人間の行動に深く影響しているのは、習慣、技術、経験則、道具、動機、価値観、信念など、人々が長い期間にわたって培ってきた様々な文化です。

そのため、持続可能な社会制度を実現し、人々に真の幸福をもたらす事業を計画実行していくためには、こうした文化に関する情報（＝文化情報）を取得・蓄積し、人間は何を求め、何を好み、何を幸せと感じ、どういう場合にどういう行動に出るのかを理解することがきわめて重要です。データサイエンスは、大規模なデータを数理学と情報学、統計学に基づいて解析し、データから新たな価値を引き出す学問ですが、この理由により、文化はデータサイエンスの最前線に位置しており、また最重要ターゲットでもあります。

文化情報学部では、2005年の発足時にすでに、こうした文化情報の重要性とデータサイエンスのポテンシャルに着目し、研究の目標として、

- (1) 学術研究に基づく確かな文化情報を社会に供給する
 - (2) データサイエンスの分野横断的な強みを生かし、文化研究の方法論的な基礎を供給する
- という二つを掲げ、教育の面では、
- (3) 学生も教員もこれらの目標に向かって共同作業することを中心に据えた教育課程を実施してきました。

2024年度から実施する新しい教育課程は、この理念をより鮮明に反映し、本学部の強みと独自性がさらに効果を発揮するものとなります。

そこでは、各学生は教育機関の単なる利用者としてではなく、研究機関の一員として扱われます。そのため、学生は社会から恩恵を受けるだけのTAKERとしての社会参加から、社会に恩恵をもたらすGIVERとしての社会参加に移行し、青年期の最重要課題である「社会において自分をどう生かしていくか」という問題への思考を早くからめぐらせることとなります。

また、徹底した探究型のカリキュラムを通じて、学問的探究の態度と能力を習得することとなり、他人から教えられるだけでなく、自ら必要な情報を求め、確かなデータ源・情報源を探り当てることのできる、自主的で自律的な学習者としての人生を歩み出します。

しかも、文化とデータサイエンスの融合という最前線の学問分野において、理系の学生も文系の学生も、未知の領域に分け入って研究を行う楽しさを経験することで、それまでもっていた誤った苦手意識と専門意識から解放され、自らの殻を破る能力を身に付けます。こうして、本学部では、どんな分野にでも手を伸ばして学習する知的バイタリティにより、社会情勢の激しい変化に柔軟に対応できる人物を輩出します。

本学部は、こうしたビジョンのもと、他の高等教育機関にない、独自の教育研究上の貢献を行って参ります。

Ⅱ. 人材養成目的

2024年度以降生

文化情報学部は、文化に関する確かな情報が社会問題の解決において枢要であることを理解し、課題の解決のために実践的にデータを利活用する学問としての「データサイエンス」の方法論に基づいて、新たな価値を析出・創造できる人物を養成することを目的とする。

2023年度以前生

文化情報学部・文化情報学科は、文化の諸事象を、データサイエンスを中心とした様々な科学的手法を駆使して研究し、文化の根底にある人間の本質の理解を目指した教育研究活動をとおして、文化事象に対する理解力、課題解決能力、情報の収集・分析・判断・発信能力および柔軟な発想力を身に付け、高い倫理観と責任感を有し、国内外の各分野において活躍できる人材を育成することを目的とする。

Ⅲ. 養成する能力 Diploma Policy

2024年度以降生

下記の資質・能力を備えた学生に学士（文化情報学）学位を授与します。

知識・技能

文化と人間に関する複雑な現象を的確に捉え、文献調査から、データの収集、集計および分析など、文理の枠を越えた様々な研究技法を習得し、目的に応じて使い分けができる。

思考力・判断力・表現力

主体的な研究の計画と遂行を通じて身につく精確な思考力と判断力、さらに、研究成果の発表・発信を通じて身につく高い水準の表現力を有している。

主体性・多様性・協働性

文理の枠にとらわれず、他者の視点からも学ぶ発想力と未知の分野に踏み込んで研究・学習する知的バイタリティにより、社会の変化に柔軟に対応できる。

2023年度以前生

下記の資質・能力を備えた学生に学士（文化情報学）学位を授与します。

知識・技能

文化と人間に関する複雑で捉えがたい現象に対し、データの収集から集計および分析などのデータサイエンス的な手法により知見を見出すことができる技能を備え、文化領域の幅広い知識に基づいた科学的探究を行えるようになる。

思考力・判断力・表現力

- ・文化と人間に関する複雑で捉えがたい現象に対し、文化領域の幅広い知識をふまえた形で本質的な問題を見出すことができるようになる。

- ・文化と人間に関する複雑で捉えがたい現象に関する問題に対し、仮説設定、データ生成、仮説検証に基づく科学的探究を行えるようになる。

主体性・多様性・協働性

文理の枠にとらわれず、他者の視点も取り入れる柔軟な発想により、文化と人間の本質を捉えることができるようになる。

IV. カリキュラム Curriculum Policy

2024年度以降生

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。

編成・運営方針

- ・文化を取り巻く現象について研究することを通じて、自ら問題を発見・解決し、確かな情報を社会に供給できる人物を育成するために、必修科目、選択科目、自由科目により構成される課題探究型のカリキュラムを設置する。
- ・必修科目では、文化に関するデータを読み解き論理的かつ多面的に捉えるための基礎的なリテラシーを身につけるとともに、研究室等での研究活動を通じて文化に関する課題や仮説を設定しながらその解決や検証を図るための調査や実験を遂行するためのカリキュラムを設置する。学生は20単位を履修する。
- ・選択科目は、文化情報学専門科目、文化情報学教養科目、外国語科目等により構成される。文化情報学専門科目では、文理融合による学術的発展が有望視される文化科学とデータ科学の分野および既に融合が進みつつある先端的な分野について学ぶためのカリキュラムを設置し、学生は50単位以上を選択履修する。文化情報学教養科目では、文理問わず幅広い教養を身につけることにより人間社会が抱えている問題に気づく感性を磨くためのカリキュラムを設置し、学生は32単位以上を選択履修する。外国語科目では、他者とのコミュニケーション能力を向上させるとともに、異文化への理解を深めるためのカリキュラムを設置し、学生は12単位以上を選択履修する。

知識・技能

- ・必修科目としてジョイント・リサーチ、リサーチ・セミナー、リサーチ・プロジェクトを3年次から4年次にかけて設置する。学生は、それまでに履修した科目等により培った学力を創造的に活用し現実的な状況に柔軟に対応するための知識・技能を身につける。
- ・選択科目のA群は文化情報学専門科目を構成し、文化情報学が対象とする幅広い文化科学の知識・技能を得ることを到達目標とする。学生は、人間の言葉や行動、文学や歴史、芸術、芸能など有形無形の文化現象とその代表的な研究手法を学び12単位以上を選択履修する。
- ・選択科目のD群は文化情報学教養科目を構成し、身の回りの京都・日本を強く認識するとともに、こうありたいという自分ひいては人間社会を具体的に想像できることを到達目標とする。学生は、文化情報学トピックス科目・クリエイティブ・ジャパン科目から6単位以上を選択履修する。
- ・選択科目のI群は、免許・資格の取得に必要な知識・技能を習得すること、および、個々人の興味に応じて知識・技能を補充することを到達目標とする。学生は、1年次から4年次にかけて必要単位を履修する。

思考力・判断力・表現力

- 必修科目としてジョイント・リサーチ、リサーチ・セミナー、リサーチ・プロジェクトを3年次から4年次にかけて設置する。学生は、物事の優先順位を見極め問題解決に至る道筋をつけられる思考力・判断力とともに、自らの貢献を分かりやすく他者に伝えられる表現力を身につける。
- 必修科目として文化情報学1、2、3、4を1年次から2年次にかけて設置する。学生は、講義だけでなく学生同士の議論を通じて文化情報学の現在を捉え、自身の将来に文化情報学をどのように位置づけるかを明らかにするとともに、その過程で生じる問いや答えを発信するためのアカデミック・スキルを身につける。
- 選択科目のB群は文化情報学専門科目を構成し、文化情報学の基盤を担うデータ科学の要素技術を習得することを到達目標とする。学生は、計算機科学・統計科学・数理科学の基礎的な内容を文化や人間に関する実例とともに学び12単位以上を選択履修する。
- 選択科目のE群は文化情報学教養科目を構成し、科学研究において必須となるデータに基づいて考える力を身につけることを到達目標とする。学生は、同志社データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）構成科目から6単位以上を選択履修する。
- 選択科目のG群は外国語科目を構成し、英語の実践的な運用能力を習得することを到達目的とする。学生は、1年次から2年次にかけて少人数クラスの英語演習科目を8単位以上履修する。

主体性・多様性・協働性

- 必修科目としてジョイント・リサーチ、リサーチ・セミナー、リサーチ・プロジェクトを3年次から4年次にかけて設置する。学生は、他者の意見を批判的に受け止められる主体性とともに、自分とは異なる考えを自分の考えと組み合わせることにより大きな問題に挑戦できる多様性・協働性を身につける。
- 必修科目として文化情報学1、2、3、4を1年次から2年次にかけて設置する。学生は、授業における学生同士の議論を通じて文化情報の受け手としてだけでなく送り手として社会と関わることの意義を認識するとともに、既存の枠組みから自由な発想を広げるために物事を様々な角度から考えることの重要性を理解する。
- 選択科目のC群は文化情報学専門科目を構成し、分野を跨いだ探究により新たな価値観を獲得することを到達目標とする。学生は、主に文化科学とデータ科学との融合がもたらす最先端の文化情報学を学び12単位以上を選択履修する。
- 選択科目のF群は文化情報学教養科目を構成し、人生を豊かにするための幅広い教養を身につけることを到達目標とする。学生は、建学の精神やキリスト教を学ぶ同志社科目をはじめ、ライフデザイン科目(2024年度以前生：キャリア形成支援科目)や国際教養科目など14単位以上を選択履修する。
- 選択科目のH群は外国語科目を構成し、英語以外の外国語の基礎的運用能力を習得することを到達目標とする。学生は、1年次から2年次にかけて少人数クラスの初修外国語演習科目4単位以上を履修する。

2023年度以前生

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設けます。

編成・運営方針

- 文化と人間に関する現象を科学的な方法によって調査し、問題発見・問題解決できる人物を育成するために、必修科目、選択科目Ⅰ・Ⅱ、自由科目によって構成される探究志向型のカリキュラムを設置する。

- 必修科目では文化と人間に関わる仮説設定および科学的調査の基礎的な知識・技能を（17単位）、選択科目Ⅰでは文化およびデータサイエンスの多様性をA～C群に分けて（56単位）、選択科目Ⅱでは、幅広い教養および外国語の基礎的運用能力をD～G群に分けて学ぶ（40単位）。

知識・技能

- 必修科目として文化情報学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを1年次から2年次にかけて設置し、科学的調査・観察・実験を実施するために必要な知識・技能の修得を行う。
- 選択科目ⅠのA群は、必修科目で行う研究の対象となる幅広い文化領域の知識を得ることを到達目標とし、1年次から3年次にかけて文化資源学科目、言語データ科学科目、行動データ科学科目からなる講義科目20単位以上を選択履修する。
- 選択科目ⅠのB群は、必修科目で行う研究の科学的方法のベースとなるデータサイエンスの知識・技能を習得することを到達目標とし、1年次から3年次にかけてデータ分析科目、基礎数理科目、情報・コンピュータ科目からなる講義・演習科目18単位以上を選択履修する。
- 選択科目ⅡのG群から、免許・資格の取得に必要な知識・技能を習得すること、および、個々人の興味に応じて知識・技能を補完することを到達目標とし、1年次から4年次にかけて必要単位を履修する。

（以上、知識・技能）

思考力・判断力・表現力

- 必修科目におけるジョイント・リサーチおよび卒業研究を通して、1年次から2年次において修得した知識・技能を活かして文理融合的な探究を実践できる能力を養う。
- 選択科目ⅡのE群から、英語の実践的な運用能力を習得することを到達目標とし、1年次から2年次にかけて少人数クラスの英語演習科目8単位以上を履修する。
- 選択科目ⅡのF群から、英語以外の外国語の基礎的運用能力を習得することを到達目標とし、1年次から2年次にかけて少人数クラスの初修外国語演習科目4単位以上を履修する。

（以上、思考力・判断力・表現力）

主体性・多様性・協働性

- 必修科目における文化情報学入門において、文化情報学の理念、多様性を学ぶと同時に、主体的に研究を進めるための基盤を構築する。また、ジョイント・リサーチおよび卒業研究を通して、他者の視点を取り入れながら共同作業を行う能力を涵養する。さらに、コロキウムおよびアドバンスト・コロキウムにおいて他者の研究発表に対して議論を深めることで、物事に対する多様な捉え方を受け入れることができる姿勢を身につける。
- 選択科目ⅠのC群は、様々な形での体験を通して、文化と人間に対する知的好奇心や学問的興味をもつと同時に、その科学的探究の重要性を理解することを到達目標とし、1年次から3年次にかけて各界の専門家による講義科目4単位以上を選択履修する。
- 選択科目ⅡのD群から、同志社建学の精神をはじめ、キャリア形成、人文科学、社会科学、自然科学など、幅広い教養を得ることで文理の枠にとらわれない柔軟な発想を身につけることを到達目標とし、1年次から4年次にかけて16単位以上を選択履修する。

（以上、主体性・多様性・協働性）

V. 履修の要領

2024年度以降生

卒業に必要な単位数

本学の学則および一般内規にしたがい、文化情報学部において4年以上在学し、所定の単位を修得した者には、「学士(文化情報学)」の学位が授与されます。文化情報学部が定めた卒業必要単位数は以下のとおりです。

卒業要件	必修科目	文化情報学専門科目			文化情報学教養科目			外国語教育科目		I群	合計
		選択科目 I			選択科目 II			選択科目 III			
	A群	B群	C群	D群	E群	F群	G群	H群			
20	12以上	12以上	12以上	6以上	6以上	14以上	8以上	4以上		124以上	
		50以上			32以上			12以上			

【設置科目】(2025年度生)

必修科目	単位
文化情報学1	2
文化情報学2	2
文化情報学3	2
文化情報学4	2
ジョイント・リサーチ	2
リサーチ・セミナー	2
リサーチ・プロジェクト I	4
リサーチ・プロジェクト II	4

選択科目 I	単位
A群	
現代文化概論	2
美術史学	2
ことばと文化	2
世界の諸言語	2
文化論入門	2
文献講読	2
文化・社会人類学	2
ことばの科学	2
認知科学入門	2
社会調査入門	2
コーパス言語学	2
言語研究の方法 I	2
言語類型論	2
計量社会学	2
図像学	2
統辞論	2
比較文化論	2
身体メディア論	2
環境社会学	2

選択科目 I	単位
B群	
統計学入門	2
離散数学入門	2
数理モデル入門	2
プログラミング入門	2
統計学	2
統計学演習	2
線形代数	2
コンピュータ概論	2
プログラミング基礎	2
多変量解析	2
多変量解析演習	2
微分積分	2
プログラミング応用	2
機械学習基礎	2
離散数学	2
確率解析	2
最適化法	2
情報セキュリティ	2
アルゴリズムとデータ構造	2
機械学習応用	2
数理統計	2
数理モデル	2
情報理論	2
情報アクセス技術	2
ベイズ統計	2
因果推論	2

時系列解析	2
数値シミュレーション	2
データベースシステム	2
インターネット技術	2

選択科目 I	単位
C群	
文化の計量分析入門	2
身体論5.0	2
社会システム論	2
AI・情報倫理	2
デジタル・ヒストリー入門	2
文献解析	2
デジタル・ヒストリー概説	2
時空間情報科学	2
社会調査法	2
認知情報学	2
計量文化解析	2
映像情報解析論	2
言語研究の方法2	2
会話情報学	2
情報グラフィックス論	2
社会調査演習	4
言語と脳科学	2
行動データ科学実習	2
ヒューマンコンピュータインタラクション	2
先端文化情報学1	2
先端文化情報学2	2
デジタルアーカイブ演習	2

選択科目 II	単位
D群	
文化情報学トピックス	2
クリエイティブ・ジャパン科目	

選択科目 II	単位
E群	
同志社データサイエンス・AI教育プログラム (リテラシーレベル) 構成科目	

選択科目 II	単位
F群	
全学共通教養教育科目 (クリエイティブ・ジャパン科目、同志社データサイエンス・AI教育プログラム (リテラシーレベル) 構成科目、外国語教育科目以外の科目)	

選択科目 III	単位
G群	
全学共通教養教育科目 (外国語教育科目) 英語	

選択科目 III	単位
H群	
全学共通教養教育科目 (外国語教育科目) 英語以外の外国語	

選択科目	単位
I群	
情報処理演習	1
教科教育法A (情報)	2
教科教育法B (情報)	2
教職実践演習 (中・高)	2
教育実習指導	1
教育実習B	2
教育実習C	4
教職概論	2
教育原理	2
発達と学習の心理学	2
教育制度と学校経営	2
学校教育社会学	2
教育課程論	2
道徳教育の理論と実践	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
教育方法とICT活用の理論と実践	2
生徒・進路指導の理論と方法	2
教育相談の理論と方法	2
スクールインターンシップ	2
人権教育論	2
日本文化史概説 (1)	2
日本文化史概説 (2)	2
西洋文化史概説 (1)	2
西洋文化史概説 (2)	2
東洋文化史概説 (1)	2
東洋文化史概説 (2)	2
生涯学習概論	2
日本の憲法	2
他学部設置科目	
同志社女子大学単位互換科目	
大学コンソーシアム京都単位互換科目	
早稲田大学交流協定認定科目	
テュービンゲン大学IES科目	

自由科目	単位
コンピュータグラフィックス	2
情報メディア	2
情報メディア実習	1
情報と社会	2
特別ニーズ教育論	2
学校図書館サービス論	2

科目群の概要と卒業要件

必修科目、選択科目とも、所定の履修年次以降に履修するようにしてください。

必修科目

必修科目は20単位すべてを修得する必要があります。

本学部の分野横断型、探究型の学びのコアとなる科目です。1、2年次で履修する「文化情報学1～4」では「文化情報学」の理念、学び、最新の研究動向などに触れ、分野融合の可能性について考察します。3年次以降は1、2年次までの学びをいかし、探究型の研究活動に入ります。4年次の「リサーチ・プロジェクト」では文化情報学の学びの集大成としての分野横断型研究を行います。

選択科目

文化情報学専門科目(A群～C群)

A群、B群、C群からそれぞれ12単位を含む合計50単位以上を修得する必要があります。

【A群】文化科学系科目群

研究対象となる文化現象とその本質について学ぶ科目です。人の営みすべてを「文化」として捉え、その本質について様々な概念、知見を修得します。

【B群】データ科学系科目群

文化を解析するために必要なデータ科学の知識・技能を修得する科目です。データ科学に関する実践的で高度な内容を学びます。

【C群】先端・融合系科目群

既存の学問分野を融合することによって成立する文化情報学に関わる最先端の研究動向や学融合的な応用理論を扱います。

文化情報学教養科目(D群～F群)

D群とE群からそれぞれ6単位、F群から14単位を含む合計32単位以上を修得する必要があります。

【D群】文化科学系教養科目群

文化情報学の学びに多様性を持たせるために、文化に関わる実践知や日々変化する科学技術や社会・文化における様々な課題について学ぶ教養科目です。文化情報学トピックス科目と全学共通教養教育科目(クリエイティブ・ジャパン科目)から選択できます。

【E群】データ科学系教養科目群

現代の「読み書きそろばん」と言われる数理・データサイエンス・AIのリテラシーを身に付ける教養科目です。

(注)文化情報学部では、同志社データサイエンス・AI教育プログラム(DDASH)のリテラシーレベル(DDASH-L)の取得を必須としています。そのため、DDASH-Lの必修科目2単位に加え、選択科目から4単位以上を修得する必要があります。

【F群】一般教養科目群

全学共通教養教育科目(クリエイティブ・ジャパン科目、同志社データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)、外国語教育科目を除く)から選択できます。

保健体育科目については、スポーツ・パフォーマンスIから4単位、その他の保健体育科目から4単位を限度として卒業必要単位に参入します。

その他(G群～I群)

G群から8単位、H群から4単位を含む合計12単位以上を修得する必要があります。

【G群】外国語教育科目・英語

全学共通教養教育科目 外国語科目・英語から選択 または 外部試験結果により単位を認定します。

【H群】外国語教育科目・英語以外

外国語科目・英語以外の外国語および日本語・日本文化教育科目 日本語（外国人留学生のみ履修することができる）から選択します。

H群については、一言語から4単位以上を修得する必要があります。

（注）大学院によっては、進学にあたってフランス語やドイツ語等が必要となる場合があるのでよく検討して履修すること。

（注）外国人留学生については、母語以外の外国語を履修すること。

【I群】免許・資格関係科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、早稲田大学交流協定による修得単位認定、外国協定大学における修得単位認定、チュービンゲン大学IES科目

I群の科目は卒業単位数に含めることができます。文化情報学部が提供するI群の科目は次表のとおりです。

コード	科目名
10809120	情報処理演習

（注）早稲田大学交流協定による修得単位、外国協定大学における修得単位については、必修科目、選択科目Ⅰ、選択科目Ⅱ、選択科目Ⅲの授業科目として認定することができる科目については、当該授業科目の単位として認定します。認定することができない場合は、I群の単位として認定します。

〈「ジョイント・リサーチ」を履修するための条件について〉

(1) 2年以上在学していること。*

※休学するとその期間は在学したことにならない（休学期間を除き2年以上在学する必要がある）。

〈「リサーチ・セミナー」を履修するための条件について〉

(1) 文化情報学Ⅰ、「文化情報学Ⅱ」、「ジョイント・リサーチ」の単位を修得していること。*¹

(2) 卒業必要単位のうち78単位以上を修得していること。*¹、*²

*¹ 外国協定大学派遣留学、同志社大学・早稲田大学学部交流学生として留学する学生、およびEUキャンパスプログラム、セメスタープログラムに参加する学生についてはこの限りではない。履修登録前に学部事務室で相談すること。

*² 卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入しない。「p.8 卒業に必要な単位数」に求められる各要件（「必修科目」「選択科目Ⅰ」「選択科目Ⅱ」「選択科目Ⅲ」「A～I各群」）を見据えて計画的に履修すること。特定の選択科目や群に偏りすぎるとこの条件を満たさないことがあるので注意すること。

〈「リサーチ・プロジェクトⅠ」を履修するための条件について〉

(1) 「リサーチ・セミナー」の単位を修得していること。*¹

(2) 卒業必要単位のうち100単位以上を修得していること。*¹、*²

*¹ 外国協定大学派遣留学、同志社大学・早稲田大学学部交流学生として留学する学生、およびEUキャンパスプログラム、セメスタープログラムに参加する学生についてはこの限りではない。履修登録前に学部事務室で相談すること。

*² 卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入しない。「p.8 卒業に必要な単位数」に求められる各要件（「必修科目」「選択科目Ⅰ」「選択科目Ⅱ」「選択科目Ⅲ」「A～I各群」）を見据えて計画的に履修すること。特定の選択科目や群に偏りすぎるとこの条件を満たさないことがあるので注意すること。

〈「リサーチ・プロジェクトⅡ」を履修するための条件について〉

「リサーチ・プロジェクトⅠ」の単位を修得していること。

【学位の取得に関する注意】

「ジョイント・リサーチ」を履修するためには2年以上在学している必要があります。「ジョイント・リサーチ」の単位を修得しなければ「リサーチ・セミナー」を履修できません。「リサーチ・セミナー」の単位を修得しなければ「リサーチ・プロジェクトⅠ」を履修できません。そして、「リサーチ・プロジェクトⅠ」の単位を修得しなければ「リサーチ・プロジェクトⅡ」を履修できません。これらの科目を同時に履修することはできませんので、これらの科目の単位を修得するためには少なくとも2年かかります。つまり、文化情報学部において学位を取得する（卒業する）ためには、4年以上在学することが必要です。

科目群の概要と卒業要件

必修科目、選択科目とも、所定の履修年次以降に履修するようにしてください。

必修科目

必修科目は17単位すべてを修得する必要があります。

必修科目には、文化情報学部で学べることを鳥瞰し、「ジョイント・リサーチ」で用いる手法を修得する準備のための科目のほか、3, 4年次には文化に対する深い洞察を求める科目が含まれます。

4年次の「卒業研究Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」では、4年間の学びの集大成として卒業論文を作成します。

選択科目Ⅰ(A群～C群)

A群から18単位、B群から18単位、C群から4単位を含む合計56単位以上を修得する必要があります。

【A群】文化クラスター科目群 ※2013～2016年度生は「文化クラスター科目」

・文化の分野を概観し、それらの理解を深める科目が含まれます。文化資源学科科目、言語データ科学科目、行動データ科学科目に分類し、多様な科目の履修により、広い視野を身につけられるように配慮しています。

【B群】データサイエンス科目群 ※2013～2016年度生は「データサイエンス科目」

・情報関連の基本的な知識を深める科目のほか、様々な分析手法を学ぶ科目が含まれます。データ分析科目、基礎数理科目、情報・コンピュータ科目に分類し、幅広く基礎学力の修得を可能にする履修を促しています。

【C群】体験型教養科目群 ※2013～2016年度生は「トピックス科目」

・さまざまな分野の担当者が、社会的に関心の高いトピックスを選び、人文・社会科学系において話題性のあるテーマを専門的に解説し、授業を行う「体験型教養科目」があります。

選択科目Ⅱ(D群～G群)

D群から16単位、E群から8単位、F群から4単位を含む合計40単位以上を修得する必要があります。

【D群】全学共通教養教育科目

同志社科目、キャリア形成支援科目、国際教養科目、クリエイティブ・ジャパン科目、人文科学系科目、社会科学系科目、自然・人間科学系科目、先端領域科目、複合領域科目、プロジェクト科目、保健体育科目、日本語・日本文化教育科目（日本語を除く）、(日本の伝統と美、日本の伝統と文化、日本の伝統と芸能、日本の伝統と能楽、日本の伝統と芸術を除き、外国人留学生のみ履修することができる)から選択できます。

保健体育科目については、スポーツ・パフォーマンスⅠから4単位、その他の保健体育科目から4単位を限度として卒業必要単位に算入します。

【E群】全学共通教養教育科目 外国語教育科目・英語

全学共通教養教育科目 外国語科目・英語から選択 または 外部試験結果により単位を認定します。

【F群】全学共通教養教育科目 外国語教育科目・英語以外の外国語

外国語科目・英語以外の外国語および日本語・日本文化教育科目 日本語(外国人留学生のみ履修することができる)から選択します。

F群については、一言語から4単位以上を修得する必要があります。

(注) 大学院によっては、進学にあたってフランス語やドイツ語等が必要となる場合があるのでよく検討して履修すること。

(注) 外国人留学生については、母語以外の外国語を履修すること。

【G群】免許・資格関係科目、他学部設置科目、同志社女子大学単位互換科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、早稲田大学交流協定による修得単位認定、外国協定大学における修得単位認定、チュービンゲン大学IES科目

G群の科目は卒業単位数に含めることができます。文化情報学部が提供するG群の科目は次表のとおりです。

コード	科目名	コード	科目名
10809120	情報処理演習	10809119	幾何学Ⅱ
10809110	代数学	10809111	教科教育法B(数学)
10809118	幾何学Ⅰ	10809125	経済原論

(注) 早稲田大学交流協定による修得単位、外国協定大学における修得単位については、必修科目、選択科目Ⅰ、選択科目Ⅱ(D群、E群、F群)の授業科目として認定することができる科目については、当該授業科目の単位として認定します。認定することができない場合は、G群の単位として認定します。

〈「ジョイント・リサーチⅠ」「ジョイント・リサーチⅡ」を履修登録するための条件について〉

【2017～2018年度生】

研究室配属が決まっていること

【2019年度生】

(1) 2年以上在学していること (2) 研究室配属が決まっていること

【2020年度以降生】

(1) 2年以上在学していること (2) 卒業必要単位のうち52単位以上を修得していること

(3) 研究室配属が決まっていること

※2年次の秋学期に研究室配属の手続きを行い、3年次より研究室へ配属されます。

〈「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」を履修登録するための条件について〉

① 卒業必要単位のうち100単位以上を修得していること。

(卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入しない。※1)

② 「コロキウム」「アドバンスト・コロキウム」の単位を修得していること。

「ジョイント・リサーチⅠ」を前年度までに履修登録したことがあること。※2

③ 3年以上在学していること。

※1 「p.11 卒業に必要な単位数」に求められる各要件(「必修科目」「選択科目Ⅰ」「選択科目Ⅱ」「A～G各群」)を見据えて計画的に履修すること。特定の選択科目や群に偏りすぎるとこの条件を満たさないことがあるので注意すること。

※2 外国協定大学派遣留学生、同志社大学・早稲田大学学部交流学生として留学する学生はこの限りではなく、「ジョイント・リサーチⅠ」「ジョイント・リサーチⅡ」と「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」の同時履修を認める場合がある。

2024年度以降生・2023年度以前生共通

進級判定や卒業判定に有効な単位数の考え方について

登録履修の際に総修得単位数と進級判定や卒業判定に有効な単位数の違いが理解できておらず、間違った登録履修を行ったため、進級・卒業ができない方がいます。以下の例から有効な単位数について理解し、自身の修得単位を点検してください。

<総修得単位数とは>

これまでに修得した単位数の総計。

<不足単位数の計算方法>

各種別の卒業必要単位数から、修得単位数を引くことで算出できます。

$$\boxed{\text{各科目群の卒業必要単位数}} - \boxed{\text{修得単位数}} = \boxed{\text{不足単位数}}$$

※ただし、修得済みの単位が全て卒業や進級に有効な単位の場合に限ります。

<進級判定や卒業判定に有効な単位数の計算方法>

卒業必要単位数（124単位）から、それに対して不足している単位数を引くことで算出できます。

$$\boxed{\text{卒業必要単位数}} - \boxed{\text{不足単位数}} = \boxed{\text{進級判定や卒業判定に有効な単位数}}$$

例1：【2017-2023年度生】3年次修了時 単位修得表

種 別	卒業必要単位数	修得単位数	不足単位数	進級・卒業判定に有効な単位数
必修科目	17単位	9単位	8単位 ①	
選択科目Ⅰ	56単位以上	48単位	8単位 ②	
文化クラスター科目群(A群)	18単位以上	30単位		
データサイエンス科目群(B群)	18単位以上	14単位	4単位	
体験型教養科目(C群)	4単位以上	4単位		
選択科目Ⅱ	40単位以上	50単位		
同志社科目他(D群)	16単位以上	38単位		
外国語科目(英語)(E群)	8単位以上	2単位	6単位 ③	
外国語科目(英語以外)(F群)	4単位以上	0単位	4単位 ④	
免許関係科目(G群)		10単位		
合計	124単位	107単位	①+②+③+④ 26単位	124-26=98単位

4年次で「卒業研究」を履修登録するための条件（進級要件）

卒業必要単位のうち100単位以上修得していること。

（卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入されない。）

進級するためには、総取得単位数で100単位以上の取得かつ進級判定に有効な単位数も100単位以上取得する必要がある。

上記のケースでは、総取得単位数は107単位であるが、進級判定に有効な単位数は98単位である。そのため、総取得単位数は100単位以上であるが、進級要件を満たす単位数には達していない。

※その他の進級要件は「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」の履修条件を確認すること。

例2：【2024年度以降生】3年次修了時 単位修得表

種 別	卒業必要単位数	修得単位数	不足単位数	進級・卒業判定に有効な単位数
必修科目	20単位	12単位	8単位 ①	
選択科目Ⅰ	50単位以上	48単位	2単位	
文化科学系科目群(A群)	12単位以上	10単位	2単位 ②	
データ科学系科目群(B群)	12単位以上	30単位		
先端・融合系科目群(C群)	12単位以上	8単位	4単位 ③	
選択科目Ⅱ	32単位以上	18単位	14単位 ④	
文化科学系教養科目群(D群)	6単位以上	2単位	4単位	
データ科学系教養科目群(E群)	6単位以上	6単位		
一般教養科目群(F群)	14単位以上	10単位	4単位	
選択科目Ⅲ	12単位以上	11単位	1単位 ⑤	
外国語科目(英語)(G群)	8単位以上	7単位	1単位	
外国語科目(英語以外)(H群)	4単位以上	4単位		
免許関係科目他(I群)		12単位		
合計	124単位	101単位	①+②+③+④+⑤ 29単位	124-29=95単位

4年次で「リサーチ・プロジェクトⅠ」を履修登録するための条件（進級要件）

卒業必要単位のうち100単位以上修得していること。

（卒業必要単位数を超えて修得した単位は算入されない。）

進級するためには、総取得単位数で100単位以上の取得かつ進級判定に有効な単位数も100単位以上取得する必要がある。

上記のケースでは、総修得単位数は101単位であるが、進級判定に有効な単位数は95単位である。

そのため、総修得単位数が100単位以上であるが、進級要件を満たす単位数には達していない。

※その他の進級要件は「リサーチ・プロジェクトⅠ」の履修条件を確認すること。

<まとめ>

自身の単位修得状況と比較し、各種別に設定されている卒業必要単位数から不足している単位数は、卒業までに最低限修得しなければならない単位数です。本ページでは進級判定を例に説明しましたが、「卒業必要単位のうち●●単位以上を修得していること」等の条件が付されている場合は同様の計算をします。科目登録の際も、十分留意し履修計画を立ててください。

科目の登録

科目登録は、『履修要項』と合わせて『登録要領』をよく読み、理解のうえ行うようにしてください。

最高および最低登録単位数

学期および年間で登録できる単位数は次のとおりです。必ずこの単位数以内で登録してください。

年間最高登録単位数	48単位
学期最高登録単位数	30単位
学期最低登録単位数	1単位

<注意事項>

●履修校地について

文化情報学部の学生は、原則として京田辺キャンパスで開講する授業科目・クラスを履修してください。京田辺キャンパス以外（今出川キャンパス、新町キャンパス、キャンパスプラザ京都など）で開講する授業科目・クラスを履修する場合は、学部の必修科目、あらかじめクラスが決まっている語学科目の履修に影響しないように注意してください。今出川校地で履修した科目の都合を理由に、京田辺校地における科目を遅刻・欠席したり、京田辺校地における科目のクラス変更を申し出ること是一切認められません。

両校地で開講されている科目については京田辺校地で開講されている科目を優先すること。

●履修中止対象外科目について

授業開始後1カ月程度授業を受講し、望ましい評価が得られないと判断した科目について、定められた期間内に履修の中止を認めます。ただし、必修科目については履修中止をすることができません。

●授業1週目（DO Week）と授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業1週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスからURLを確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学HPに掲載していますので、以下のURL、QRコード等から詳細を確認してください。

また、授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■DO Weekから始まる新たな学び

https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html



注意すべき科目と単位認定について

自由科目

- 自由科目は卒業必要単位数に算入されません。GPAにも算入されませんが、登録単位数には算入されます。文化情報学部の自由科目は下表のとおりです。

コード	科目名	備考
11610145	情報メディア	
11610243	情報と職業	2023年度以前生のみ登録可
11630323	コンピュータと数学	2023年度以前生のみ登録可
11610111	コンピュータグラフィックス	
11610220	情報メディア実習	
11610244	情報と社会	
10952242	特別支援と福祉の教育	2017年度以前生のみ登録可
15010150	特別支援と福祉の教育	2018年度生のみ登録可
15010151	特別ニーズ教育論	2019年度以降生のみ登録可
15040010	学校図書館サービス論	2018年度以降生のみ登録可

免許・資格関係科目

- 学部課程の履修と併行して、各種の免許・資格を希望する学生のために、本学では「教職課程」「博物館学芸員課程」「図書館司書課程」「学校図書館司書教諭課程」が設けられています。
- 文化情報学部の「教職課程」は、下記が取得できます。

	中学教諭I種免許状		高等学校教諭I種免許状			
	数学	社会	数学	情報	地理歴史	公民
2023年度以前生	○	○	○	○	○	○
2024年度以降生	—	—	—	○	—	—

- 免許・資格取得希望者は、必ず別冊の『免許・資格関係履修要項』を参照してください。
(免許・資格取得に必要な科目は『免許・資格関係履修要項』に記載されています。)

- 免許資格課程の履修にあたっては、各学部の卒業に必要な単位に加え、各免許資格課程で定められた所要単位を修得しなければなりません。
- 授業だけでなく、準備学習や復習など授業時間外の学習の重要性を考慮したうえで、所属学部および免許資格の登録制限単位の範囲内で、1年次から計画的に履修することが要求されます。

- 免許・資格取得を希望する人は教務課免許資格係で教職課程・司書課程などの課程登録手続きをしてください。
- 文化情報学部設置科目や他学部設置科目の履修可能な科目は、最高登録単位数以内であれば卒業単位数にも免許・資格単位数にも算入されます。(ただし、自由科目は卒業単位数に算入されません。)
- 免許・資格取得に必要な科目は、最高登録単位数を超えて履修することが出来ます。この場合、卒業単位数、GPAには算入されません。(ここでいうGPAとは、卒業必要単位におけるGPAで、教育実習A・B・Cを登録するためのGPAではありません。)

1 課程履修 (例.教職課程のみ)	18単位以内
2 課程履修 (例.教職課程と図書館司書課程)	22単位以内

*2課程とは教職課程と博物館学芸員課程のように異なった課程をさし、教職課程の2教科を意味するものではありません。
このような、卒業単位数、GPAに算入されない免許・資格取得に必要な科目は、「免許・資格登録科目」と呼ばれています。この科目は登録時の種別欄に「M」と入力して登録します。

合否評価科目

学業成績をA・B・C・D・Fの段階評価ではなく、「合格」「不合格」で評価される科目は、卒業必要単位数に算入される単位数に上限があります。上限単位数は2024年度以降生は6単位まで、2023年度以前生は4単位までです。合否評価科目はGPAに算入されません。

学則第9条の5対象科目

同志社大学学則第9条の5では、文部科学省令である大学設置基準に規定されている遠隔授業の卒業必要単位数への算入上限を規定しており、学修支援システムDUETやシラバスに掲載している「学則第9条の5対象」は履修中の科目、もしくは単位修得済の科目がその「対象」であるか「対象外」であるかを示すものです。

本学では、2023年度までは新型コロナウイルス感染症における特例措置等により、すべての科目を「学則第9条の5」の「対象外」としてしています。これにより、すべての修得単位が卒業必要単位数へ算入されるため、この表示に留意する必要はありませんでしたが、2024年度以降は特例措置の適用がなくなるため、この項目に留意して履修計画を立てる必要があります。

所属する学部によって卒業必要単位数への算入上限単位数が決まっており、各科目が「対象」か「対象外」かについてはシラバスで確認してください。詳細については以下URLもしくはQRコードから確認してください。

■「学則第9条の5対象」について

<https://duet-man.doshisha.ac.jp/student/article9-5.pdf>



科目ナンバリング

各科目には科目ナンバリングが定義されています。科目ナンバリングとは、授業科目に番号・分類を付与することで、学修の段階や順序が分かるように表示したものです。各科目の履修水準や学問分野を参考に履修するだけでなく、留学先の大学で授業を履修する際、本学授業科目との単位互換の目安として利用することもできます。必要に応じて活用してください。なお、科目ナンバリングについての詳細は、以下のURLを確認してください。

<https://clf.doshisha.ac.jp/numbering/numbering.html>

各科目の取り扱いについて

各科目群の取り扱いは以下のとおりです。

	必修科目・選択科目	自由科目	免許・資格登録科目	合否評価科目
登録単位数に算入	○	○	×	○
卒業必要単位数に算入	○	×	×	○
GPAに算入	○	×	×	×
免許・資格取得に有効	免許・資格の課程に認定されている科目は○	免許・資格の課程に認定されている科目は○	○	免許・資格の課程に認定されている科目は○

他大学単位互換科目

- **大学コンソーシアム京都単位互換科目**は、財団法人大学コンソーシアム京都に加盟している京都地域の私立大学、短期大学、国立大学の授業科目を履修できる制度です。単位互換制度の詳細については大学コンソーシアム京都HPに掲載されている『デジタルパンフレット』を参照してください。
- **同志社女子大学単位互換科目**は、同一法人内の大学である同志社女子大学の授業科目を履修できる制度です。単位互換科目の詳細については、同志社大学HPに掲載されている『同志社女子大学単位互換科目履修ガイド』を参照してください。

入学前修得単位の認定について

- 入学前に、他大学もしくは本学の他学部で修得された単位（科目等履修生として修得した単位を含みます）を、本学学部学則第9条の4にもとづき、授業内容を勘案したうえで、本学部の卒業単位として認定します。認定を希望する場合は、『登録要領』を参照し、所定の期間内に申請手続きをしてください。

在学留学・早稲田大学学生交流について

- 在学留学制度とは、同志社大学に在学したまま、本学と交流協定を結んでいる外国の大学へ留学することです。留学先の大学で修得した単位については、授業内容を勘案したうえで本学部の卒業単位として認定します。協定校や在学留学制度の詳細は国際交流センターで配布している『海外留学ロードマップ』を参照してください。
- 早稲田大学学部学生交流制度（国内留学）とは、同志社大学と早稲田大学が学生交流に関する協定を締結し、毎年相互に学部学生の派遣および受け入れをおこなっている制度です。早稲田大学で修得した単位については、授業内容・授業時間数を勘案したうえで本学部の卒業単位として認定をします。詳細は、7月末に発表される募集要項を参照してください。

外部試験結果による英語の単位認定について

- 「TOEFL-iBT」、「TOEIC[®] Listening & Reading Test」、「実用英語技能検定（英検）」、「国際連合公用語英語検定」において、一定水準以上の成果を修めた場合、申請により、G群（2023年度以前生はE群）の単位として認定する。

(1) 単位認定する試験の種類および基準

試験の種類	4単位認定基準	8単位認定基準
TOEFL-iBT	79点以上	100点以上
TOEIC [®] Listening & Reading Test(IPテストは含まない)	730点以上	850点以上
実用英語技能検定(英検)	—	I級
国際連合公用語英語検定	A級	特A級

(2) 単位認定申請手続き

申請は、春学期、秋学期の講義開始日から2週間以内（事務室開室時間）に限る。

(3) 認定について

- ① 認定を受けた試験において、在学中に試験結果を高めた場合は、申請により追加認定をする。

例えば、TOEIC® Listening & Reading Testで730点以上の成果で4単位の認定を受けた者が在学中に850点以上の成果を修めた場合、さらに4単位（合計8単位）を認定する。

但し、異なる試験で同レベルの成果を組み合わせることは認めない。

- ②試験結果は、試験実施日より1年以内のものに限り、試験実施日から1年超えるものは受け付けない。
- ③単位認定を受けた者が、英語科目を履修する場合は、それぞれの科目の配当年次にしたがって履修をすること。履修条件については、外国語の登録相談を受けること。
- ④単位認定を申請する者は、外部試験結果単位認定申請書に署名・捺印のうえ、合格証明書（原本）や成績書（原本）等を添えて提出すること。
- ⑤単位認定は、文化情報学部教授会が行う。
- ⑥認定を受けた者の成績原簿には、成績欄に「認定」と記入する。GPAには、算入しない。
- ⑦休学期間中の申請は、受け付けない。

以 上

大学院進学を希望するみなさんへ 「学部・奨励学生」制度について

制度の概要・趣旨

「学部・奨励学生」制度は、同志社大学大学院文化情報学研究科への進学を希望する本学文化情報学部生のための制度です。「学部・奨励学生」として認められた学生は、学部4年次から学部生の身分のまま文化情報学研究科博士課程（前期課程）1年次生と同じ条件で科目履修や研究を遂行することができます。「学部・奨励学生」には、定められた条件を満たすことで、本研究科へ入学後、前期課程を1年間で修了できる（「早期修了」）可能性が広がります。本制度を利用すれば、学部卒業から大学院修了までの過程にいくつかの進路選択^{(*)1}が可能となります。自身の学修計画にもとづいて進路を選択することで、より計画的に、修士学位の取得を目指すことが期待されています。

大学院受験と入学前単位認定

大学院への進学にあたっては、文化情報学研究科博士課程（前期課程）入学試験を受験しなければなりません。ただし、「学部・奨励学生」は、「一般入学」による受験とは別に設けられた「特別推薦制度」を利用することが可能です。

また、「学部・奨励学生」は、学部時代に大学院科目を先行して履修しますが、取得した大学院科目の単位は、大学院進学後、15単位^{(*)2}を上限に単位認定（「入学前単位認定」）を受けることが可能です。

（注）「特別推薦制度」によって大学院へ入学する場合、入学後、一部の奨学金において給付対象とならないことがあります。受験に関する詳細は『大学院入学試験要項』を確認してください。

(*)1 進路選択

「学部・奨励学生」の認定を受けた学生も、学部4年次では、「卒業研究」をはじめ、学部を卒業するために必要な単位の取得が必要であることには変わりはありません。その上で、大学院に設置された科目（「大学院科目」）を10単位以上並行して履修します。ここで履修する大学院科目の選択や単位の取得状況によって、次のような進路に分かれます。

- (1) 「学部・奨励学生」が、学部4年次に、『定められた大学院科目（「シンポジウムⅠ・Ⅱ」「文化情報学研究実験Ⅰ・Ⅱ」）』を履修し、かつ審査を経て合格となった場合、大学院進学後は、「大学院・奨励学生」として科目履修や研究を行うことが認められます。「大学院・奨励学生」は、「入学前単位認定」が受けられるほか、大学院1年次で修了に必要な要件を満たせば「早期修了」が可能です。
- (2) 「学部・奨励学生」が、学部4年次に、『定められた大学院科目（「シンポジウムⅠ・Ⅱ」「文化情報学研究実験Ⅰ・Ⅱ」）』を履修した場合でも、審査の結果合格とならない場合は、「大学院・奨励学生」の認定を受けることはできません。それでも、大学院入試では「特別推薦制度」を利用することは可能です。また、「入学前単位認定」を受けることも可能なため、大学院（博士前期課程）ではより研究に集中することが可能となります。
- (3) 上記(1)(2)で説明された「シンポジウムⅠ・Ⅱ」「文化情報学研究実験Ⅰ・Ⅱ」を、学部4年次に履修することは必須ではありません。学部4年次にこれらの科目を履修しない場合、大学院進学後、「大学院・奨励学生」となることはできませんが、上記の場合と同様、「特別推薦制度」を利用して大学院を受験することや「入学前単位認定」を受けることが可能です。

(*)2 2021年度以降生：上限15単位、2020年度以前生：上限10単位

- 制度についての詳細は、別冊の説明書を参照してください。
- 説明書が必要な場合は、文化情報学部事務室までお問合せください。

「学部・奨励学生」募集要項（概要）（※詳細は、年度毎に公表される『募集要項』で確認してください。）

「学部・奨励学生」として認定を受けるためには、年度毎に公表される募集要項にもとづいて申請し、審査に合格しなければなりません。申請の時期は、3年次・秋学期（9月頃）です。募集要項の概要は、次のとおりです。

1. 募集人数

20名程度

2. 申請資格

申請時において以下の資格をすべて満たすこと。

- (1) 本学文化情報学部にて2014年4月以降に入学し、申請時において、5セメスター以上の期間在学している者。（※当制度は、2013年度以前生には適用されません。）
- (2) 本研究科への進学を希望し、本学大学院文化情報学研究科教員からの推薦を受けた者。
- (3) 3年次春学期までに修得した科目のGPAが3.25以上の者。
- (4) 3年次秋学期終了時点で「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」以外の卒業必要単位数である116単位以上を修得する見込みの者。（※各科目群に定められた卒業要件の単位修得の状況は問わない。）

注1) 編入生や転入生、3年次までに休学期間を含む者は、個別に資格判定する。

注2) 「学部・奨励学生」に決定後、出願年度の3月末において上記(1)～(4)に定めた条件を満たすことができなかった場合は、その決定を取り消す。

3. 申請書類

「申請書」、「研究計画書」（いずれも所定様式）、他

学部・奨励学生の履修条件等

「学部・奨励学生」が、学部4年次において、本来の学部履修科目とは別に文化情報学研究科で開講される科目（「大学院科目」）を履修する際の履修条件等は次のとおりです。

- ① 文化情報学研究科が第1・2セメスターに開講する授業科目の中から、10単位以上を履修しなければならない。
- ② ①による履修は、『学部における「自由科目^(※3)」』として登録履修する。

(※3) 学部における当該年度の最高登録単位には含まれるが、学部の卒業要件単位数には算入されない。

大学院への進学

「学部・奨励学生」が「大学院・奨励学生」として大学院へ進学する場合は次の条件を全て満たすことが必要です。

- ① 学部4年次生の期間に「学部・奨励学生」として10単位以上を修得すること。
- ② 学部4年次に「シンポジウムⅠ・Ⅱ」「文化情報学研究実験Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得し、かつ所定の審査に合格すること。
- ③ 学部4年次生の年度末に学部卒業の要件を満たすこと。
- ④ 所定の入学選考に合格すること。

文化情報学部 科目説明

※2023年度以前生は入学年度の履修要項を確認してください。

- ・「履修条件科目」：当該科目の履修にあたって、先のセメスターで提供されている科目を事前に履修する、または同じセメスターで提供されている科目を同時に履修することが条件となる。

履修条件

履修条件が課される科目

「プログラミング応用」(3)
「多変量解析」(3)
「アルゴリズムとデータ構造」(4)
「機械学習基礎」(4)
「離散数学」(4)
「情報セキュリティ」(4)
「ベイズ統計」(6)
「数値シミュレーション」(6)
「因果推論」(6)
「データベースシステム」(6)
「微分積分」(3)
「数理モデル」(5)
「数理統計」(5)
「計量文化解析」(4)
「情報グラフィックス論」(4)
「社会調査演習」(4)

過学期までに修得済の科目

→ 「プログラミング基礎」(2)
→ 「統計学」(2)
→ 「離散数学入門」(1)
→ 「多変量解析」(3)
→ 「離散数学入門」(1)
→ 「AI・情報倫理」(1)
→ 「微分積分」(3)
→ 「微分積分」(3)
→ 「多変量解析」(3)
→ 「離散数学入門」(1)
→ 「線形代数」(2)
→ 「微分積分」(3)
→ 「微分積分」(3)
→ 「文化の計量分析入門」(1)
→ 「離散数学入門」(1)
→ 「社会調査法」(3)

履修条件が課される科目

「多変量解析演習」(3)
「統計学演習」(2)

同時履修または修得済の科目

→ 「多変量解析」(3)
→ 「統計学」(2)

- ・「履修推奨科目」：その科目の内容の理解が当該の科目の内容理解に大きく役立つため、事前の履修を推奨するもの（その科目の内容を知っていなくてもよいが、知っているにより内容の理解が深まる）。

履修推奨

必修科目

「文化情報学Ⅰ」(1年次・春)

講義および学生同士による議論を通じて「文化情報学とは何か」について考え、文化情報学における「文化」と「情報」が持つ意味、データサイエンスを用いて文化情報学的な研究をおこなうことの意義を理解する。

「文化情報学Ⅱ」(1年次・秋)

リサーチ・プロジェクトにおける研究やキャリアパスに関する発表を聴講し、学生同士による議論をふまえて質疑をおこない、文化情報学に関する理解を深めるとともに、学部における学びが2年次以降にどのように展開していくかを考える。

「文化情報学Ⅲ」(2年次・春)

専門分野が異なる複数の教員がそれぞれの文化情報学に関する最先端の研究を紹介し、分野の融合の可能性について学生を交えた議論をおこなう。文化情報学に関する理解をさらに深め、3年次以降の研究活動につなげていく。

「文化情報学Ⅳ」(2年次・秋)

専門分野が異なる複数の教員がそれぞれの文化情報学に関する最先端の研究を紹介し、分野の融合の可能性について学生を交えた議論をおこなう。文化情報学に関する理解をさらに深め、3年次以降の研究活動につなげていく。

「ジョイント・リサーチ」(3年次・春)

複数の異分野の教員で担当する探究型演習科目。各教員の専門分野が融合する領域において、これまでに学んだ文化科学の知識やデータ科学のスキルを活用し、グループで探究型演習を行いながら、新たな問題を発見・解決する能力を身につける。

「リサーチ・セミナー」(3年次・秋)

研究室に所属し、個々の学生の関心に基づいて先行研究の調査や課題の整理、予備実験の実施等を行う。実践的に研究の方法論を学び、リサーチ・プロジェクトへの布石とする。

「リサーチ・プロジェクトⅠ」(4年次・春)

文化情報学部での学びの集大成として、教員から指導を受けつつ、議論を交わしながら、学生主体の研究活動を実践する。研究活動を通じて、学生は、確かなデータ源・情報源を基にした学問的探究の態度と能力を習得する。

「リサーチ・プロジェクトⅡ」(4年次・秋)

文化情報学部での学びの集大成として、教員から指導を受けつつ、議論を交わしながら、学生主体の研究活動を実践する。研究活動を通じて、学生は、確かなデータ源・情報源を基にした学問的探究の態度と能力を習得する。

「現代文化概論」(1年次・春)

現代文化のなかでも映画とアニメーションを中心に、科学技術および国際社会との影響関係を検討する。技術の変遷および社会背景(戦争、ジェンダーギャップ等)が、映像表現にいかに関わるか確認しつつ、生産・流通・消費のネットワークを視野に入れて、映像文化を複合的に分析する訓練を積む。

「美術史学」(1年次・春)

美術作品は、芸術文化の重要な根幹をなすという観点から、講義を行う。例えば、日本の各時代の代表的な美術作品をとりあげて、その歴史の変遷を概観する。さらには、アジアやヨーロッパなど、他地域の文化との相互関連性などもふまえた上で、芸術文化の発展について考える。

「ことばと文化」(1年次・春)

人間の諸活動全般を「文化」と捉え、文化とことばの接点を探ることを目指して、講義を行う。文化情報学部で扱うことになるさまざまな文化の諸相のうち、ことばを切り口にした事象の理論的背景と日常的に観察される具体例を解説する。例えば、文化価値志向・文化相対論・男ことばと女ことばなどのテーマを取り上げる。

「世界の諸言語」(1年次・春)

世界の諸言語、およびその「多様性」と「普遍性」について、主に講義形式で学ぶ。あらゆる地域・共同体で話されている言語を、様々な観点(系統、歴史、音声、単語・文の構造など)から観察・分析し、言語間に存在する差異や類似性の理由について考察する。

「文化論入門」(1年次・春)

「技術(テクノロジー)」、「情報」、「理系/文系」といった言葉が、具体的に何を指すのか、いつごろからどういう経緯で生まれてきたのかを概説する。本講義では、これらの概念を「文化」という視点から歴史的哲学的に考察し、「情報」も「技術」もそもそも人間が生み出し用いるものであり、その意味では文化的背景(社会や歴史)と無関係ではないことを論じる。

「文献講読」(1年次・秋)

『源氏物語』や『百人一首』などの日本の古典文学作品について、変体仮名やくずし字で記された写本・版本をテキストとして読み解き、その文化的背景を講義する。それらのテキストの多くは、作品が成立してから現在に至るまで書写を重ね、諸本間で表記や語句の違いが生じていることも少なくない。本講義では、本文批判(Textkritik)の観点から原典復元を目指すのみならず、本文異同により作品にもたらされた表現世界の変化を具体的に説く。

「文化・社会人類学」(1年次・秋)

近代以降の人文社会科学は、自らの文化や社会の実態や歴史を科学的な視点で理解し説明しようとしてきた。人類学と社会学が取り扱うヒトに関わる主題に焦点を当てながら、人類の生態・社会的特性と文化的様相の具現を検討する。事例を挙げながら解説し理解を深め、メルロ＝ポンティの言う「他人によって自己を吟味し自己によって他人を

吟味することによって手に入れる側面的普遍」が醸成された文化"尺度"を理解する。

「ことばの科学」(1年次・秋)

ことばを科学的に分析するための前提となる基礎知識を解説し、言語研究のおもしろさを理解してもらう。ことばとは何か、ことばを科学するとはどういうことか、ことばを科学する意義とは何かを踏まえた上で、音・語・句・文の形式的性質を説明し、ことばを可能な記号列を生成するシステムとしてどのように分析できるのか議論する。ことばの普遍性を明らかにし、ことばから「人間とは何か」という問題にアプローチする。

履修推奨:「世界の諸言語」

「認知科学入門」(1年次・秋)

認知科学について、文化的な行動の説明および理解を目的に講義を行う。例えば、表象主義、知覚と行動、個人差などを取り上げる。

「社会調査入門」(1年次・秋)

社会調査の意義と諸種類に関する基礎的な知識を講義する。具体的には、社会調査の歴史・目的、調査方法、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計調査と事例研究、国勢調査などの公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基本的事項を取り上げる。

履修推奨:「統計学入門」

「コーパス言語学」(2年次・春)

文章や発話を大規模に集めてデータベース化した言語資料であるコーパスを用いた言語研究の方法論について講義と演習を行う。日英語の各種コーパスを用いた語句検索・分析の実践を通して、従来議論的となっていた言語現象について検証したり、有用な言語事実や言語使用のパターンを探し出したりするにはどのような工夫が必要かを学ぶ。

履修推奨:「ことばの科学」

「言語研究の方法I」(2年次・春)

言語分析に関する一般的な研究方法を取り上げ、入門的言語解析手法を修得するための講義を行う。例えば、言語における音・語・文・意味などの形式的言語現象を解析し、言語解析に関する基礎を学ぶ。最終的には、それぞれの言語に現れる特有の現象について、多様な言語現象を柔軟に捉える視点を養う。

履修推奨:「ことばと文化」

「言語類型論」(2年次・春)

この講義は、個別言語を比較・対照し、言語間に共通する特徴を探る。日本語、英語、中国語およびタイ語などを比べて、語形成や句形成さらに意味構成における諸問題を分析することを通して、自然言語の共通原理や規則を理解してもらうことを目標とする。この授業を通して、通言語学的一般化を図ることができるようになる。

履修推奨:「ことばの科学」

「計量社会学」(2年次・春)

既存の社会学諸分野にとらわれず、社会システム・諸社会現象への理解や行動科学に必要な統計的・数理的な基礎知識を中心に、講義を行う。例えば、広く計量社会科学研究の設計、既存資料の活用、データの収集・分析、モデリングなどに関する方法論とともに、因果推論、ゲーム理論、選択理論、選挙投票、社会ネットワークなどの諸社会科学領域に必要な計量的な方法について議論する。

履修推奨：「統計学」、「線形代数」

「図像学」(2年次・秋)

仏教はアジアにおいて多数の美術作品を生み出してきたが、それらには共通した決まりごと、つまり図像的特徴がある。仏教美術に表れたさまざまな図像的特徴について、比較研究という観点から、講義を行う。例えば、アジア諸国に伝わる仏像や、密教美術の曼荼羅に描かれた諸尊などをとりあげ、図像の伝播と継承の検証を通じて、仏教文化のひろまりについて考察する。

履修推奨：「美術史学」

「統辞論」(2年次・秋)

自然言語の記号列を生成するモデルの1つである生成文法理論の基礎を学び、言語表現の階層構造が生成され、意味解釈がおこなわれるメカニズムを概観する。理論モデルがどのような言語データや理論的問題に直面することによって修正・破棄されるのか、その歴史の変遷を辿り、理論モデルの妥当性を考察する。

履修推奨：「ことばの科学」、「言語研究の方法2」

「比較文化論」(2年次・秋)

いわゆる理系・文系と芸術は、人が世界を記述し、受けとめ、世界に働きかけるための三つのモードであり、それらは人間の三つの「文化」とすら言える。本講義では、さまざまな具体的事例に即して、三つのモード(文化)と、その思考法の違いを比較理解しながら、例えば、西洋近代以降の身体思想の変遷と、現代社会における人間性回復の可能性について論じる。

履修推奨：「文化論入門」

「身体メディア論」(2年次・秋)

原初的な感性メディアである「身体」を媒介として伝達される情報の発信・受信メカニズムや、情報媒体としての「身体」の果たす役割について、従来の学問分野を超えて様々なアプローチによって概観する。例えば、コミュニケーションにおける身体性、マルチモーダルインタラクション、ジェスチャーなどについて取り上げる。

履修推奨：「身体論5.0」

「環境社会学」(2年次・春)

人間社会と、それを取り巻く自然的、物理的、科学的環境との相互作用を社会的に考察し、その問題構造と変容過程を捉える視点を獲得する。また、将来世代に持続可能な社会を引き継ぐための社会的仕組みのデザインとその実践を用いた演習を行う。

データ科学系科目群

「統計学入門」(1年次・春)

データ科学の根幹をなす統計学について、基盤知識の習得を目的として講義を行う。記述統計の主要手法である要約と視覚化について事例の分析を通して身に付けさせる。合わせて、統計学の数理的な基礎となる確率と確率分布についても扱う。例えば、1変数データや2変数データの要約と視覚化、時系列データの記述と分析、様々な確率、確率の公理、ベイズの定理、確率変数、統計量などを取り上げる。

「離散数学入門」(1年次・春)

世界を数学的に把握する能力の涵養を目的に、集合および集合によって定義できる基礎的な数学的概念について講義と演習を行う。例えば、集合、冪集合、直積、関係、関数、順序集合などを取り上げる。

「数理モデル入門」(1年次・春)

人間の行動や社会を取り扱う文化科学の視点から高校までの数学を捉えなおすような数理モデルの入門的な講義を行う。例えば、感染症の拡がりを表す漸化式の数理モデルや、文化進化を表す確率的な数理モデルを取り上げる。これらの数理モデルを構築し分析することで、大学で学ぶ数理科学が人間にまつわる諸現象に深い理解を与え、現象の予測や制御を可能にすることについて解説する。

「プログラミング入門」(1年次・春)

基礎的な教養として、また就職の際のスキルとして年々重要度が高まっているプログラミングを行う上で必要最低限の事項を理解する。例えば、変数、演算子、繰り返し、分岐、配列など。

「統計学」(1年次・秋)

統計学入門の知識を前提に、実課題への適用を意識した統計学の知識の習得を目的として講義を行う。推測統計の基本概念を理解し、母集団と標本の設定の下で、点推定、区間推定、仮説検定について扱い、統計モデルとして単回帰モデル、分散分析モデルについても扱う。例えば、大数の法則、中心極限定理、母平均、母分散、母比率に関する検定、適合度・独立性の検定、回帰係数の検定、1元配置分散分析、2元配置分散分析などを取り上げる。

履修条件：「統計学演習」(同時履修)

履修推奨：「統計学入門」

「統計学演習」(1年次・秋)

統計学との同時履修の形で実施する。推測統計の手法を実データに適用することで手法の本質を理解することを目的として講義と演習を行う。表計算ソフトのセル計算や関数計算を駆使してシミュレーションやデータ解析を行う。例えば、乱数発生、モンテカルロシミュレーション、確率分布の確率計算、大数の弱法則・中心極限定理のシミュレーション、各種検定、分散分析を取り上げる。

履修条件：「統計学」(同時履修)

「線形代数」(1年次・秋)

線形代数について、統計学・機械学習・数理モデル等の基礎固めとしての立場から入門的な講義を行う。例えば、ベクトル・行列の計算、逆行列、行列式、ベクトル空間、行

列の対角化、固有値・固有ベクトルなどを取り上げる。線形代数で扱う行列の計算は統計学・機械学習・数理モデル等の理解において必須であり、本講義を通してそれらの数理科目へと接続する。

履修推奨：「離散数学入門」

「コンピュータ概論」(1年次・秋)

コンピュータの基本構成と動作原理について講義を行う。具体的には、コンピュータ上での数や文字など様々なデータの表現方法、データを計算するための論理回路、コンピュータを構成するハードウェア、ハードウェアを制御するOSなどの基礎を学習する。コンピュータの基本的な動作について理解を深めることで、コンピュータをより効果的に扱うことが可能となる。

「プログラミング基礎」(1年次・秋)

プログラミング言語で活用されているオブジェクト指向プログラミングの考え方の基礎を学ぶ。例えば、クラス、インスタンス、メソッド、プロパティ、再帰など。

履修推奨：「プログラミング入門」

「多変量解析」(2年次・春)

統計学、線形代数、微分積分の知識を前提とし、種々の多変量解析の方法の習得を目的として講義を行う。記述的多変量解析法を中心としながら、推測統計についても触れる。例えば、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析、分割表のモデリング、対応分析などを取り上げる。

履修条件：「統計学」

履修推奨：「線形代数」

「多変量解析演習」(2年次・春)

多変量解析と同時履修の形で実施する。データ解析専用のツールを用いて、多変量解析で学んだ知識と手法についての講義と演習を行う。実データの分析・結果の解釈を通して、手法の適切な利用について学び、与えられた課題に対して、1) 適切なデータを収集、2) 適切な手法を用いて解析、3) 適切な結果の解釈という一連のプロセスを経験することにより、多変量解析法の運用能力を培う。

履修条件：「多変量解析」(同時履修)

履修推奨：「プログラミング入門」

「微分積分」(2年次・春)

微分と積分の考え方について、文化科学と数理学の協働の観点から、講義を行う。例えば、微分と積分に共通する極限を取り上げる。無限大や無限小のような曖昧な対象を論理的に取り扱うことを通じて、捉えどころのない文化現象を精確に考えられる基礎力を与える。また、多変数関数の微分と積分を取り上げる。これにより時間的な移り変わりや空間的な広がりを伴う多種多様な要因からなる文化現象の数理的な記述について議論する。

履修条件：「線形代数」

履修推奨：「数理モデル入門」

「プログラミング応用」(2年次・春)

ウェブ開発の基本的な技術について、講義と演習を行う。HTML、CSS、JavaScriptの3つの主要な技術を中心に焦点を当てる。HTMLはウェブページの構造を定義し、CSS

はその外観とスタイルを制御し、JavaScriptは動的な機能を提供する。学生は演習を通じてユーザーフレンドリーで対話的なウェブサイトを設計し、構築する方法を学ぶ。

履修条件：「プログラミング基礎」

履修推奨：「コンピュータ概論」

「機械学習基礎」(2年次・秋)

計算機でものごとを学習させることの意味とそれによってどのような問題が解決できるのかについて学ぶ。例えば、教師なし学習(主成分分析、k-means、EMアルゴリズム、GAN)、教師あり学習(線形回帰、決定木、ナイーブベイズ、SVM、k近傍法、ランダムフォレスト、アンサンブル学習、ニューラルネットワーク)など。

履修条件：「多変量解析」

履修推奨：「微分積分」

「離散数学」(2年次・秋)

離散数学の道具を使って世界を把握する方法を学ぶ。例えば、同値関係と集合の分割、集合としての関数(関数の要件、関数の分類)、順序集合(全順序と半順序、同型写像)、グラフ理論の基礎概念(有向グラフ、無向グラフ、連結グラフ、オイラーグラフ、ハミルトングラフ、根つき木、順序木、二分木)、形式言語(有限オートマトン、文脈自由文法、正規表現)など。

履修条件：「離散数学入門」

履修推奨：「プログラミング基礎」

「確率解析」(2年次・秋)

確率論について、統計学・機械学習・数理モデル等の基礎固めとしての立場から入門的な講義を行う。例えば、公理的確率論、確率の性質、様々な確率分布、データ分析における確率、確率過程などを取り上げる。これらを通して、確率の基本的な扱い方からデータサイエンスや数理モデルでの使われ方を解説し、数理学を学ぶ際の基礎知識を与える。

履修推奨：「微分積分」、「統計学」

「最適化法」(2年次・秋)

与えられたシステムとデータに対して最も適切な判断を行うための方法論について、微分積分学、線形代数、幾何学などの数理的手法を用いた理論的背景と、応用計算機科学にもとづく実践的手法をそれぞれ学ぶ。例えば、数理最適化、線形計画法、半正定値最適化、凸最適化、非線形最適化、ネットワーク最適化、組合せ最適化、単体法、内点法など。

履修推奨：「離散数学」、「微分積分」

「情報セキュリティ」(2年次・秋)

教養としての情報セキュリティから様々な脅威に対する最新セキュリティ技術までを学ぶ。例えば、プライバシーや情報開示・情報操作、個人情報保護、情報セキュリティと法、セキュリティ・マネジメント、暗号技術など。

履修条件：「AI・情報倫理」

「アルゴリズムとデータ構造」(2年次・秋)

効率のよいプログラムを作成するために、データの操作手順であるアルゴリズムと、データを計算機上で表現するためのデータ構造について学ぶ。計算量の問題、アルゴリズム

ム（ソート、サーチなど）、データ構造（リスト、ヒープ、ハッシュ、ツリー、グラフ）など。

履修条件：「離散数学入門」

履修推奨：「離散数学」

「機械学習応用」（3年次・春）

機械学習アルゴリズムの理解に基づき、その知識を実際に活用する方法を講義と演習を通じて学ぶ。例えば、ニューラルネットワーク、深層学習、識別系AI、生成系AIなどを取り上げる。

履修推奨：「機械学習基礎」、「プログラミング基礎」

「数理統計」（3年次・春）

統計学、確率解析の知識を前提とし、推測統計の基礎的概念を数理的に定式化する。特に、推定、検定の理論について講義を行う。例えば、母集団、標本、統計量、大数の法則、中心極限定理、十分統計量、標本分布、推定量の性質、フィッシャー情報量、推定法、区間推定、正規母集団の母数の区間推定、比率、比率の差の区間推定検定の性質、尤度比検定、適合度検定、独立性の検定、正規母集団の母数の検定、比率、比率の差の検定などを取り上げる。

履修条件：「微分積分」

履修推奨：「確率解析」

「数理モデル」（3年次・春）

文化現象を記述する数理モデルについて、大学で学ぶ数理科学の応用という観点から、講義を行う。例えば、代表的な数理モデルである微分方程式では、微分積分による解析解の導出だけでなく、線形代数による線形安定性解析やスルクラインによる分岐解析を取り上げる。これにより、解析的には解けない系への接近法や、数理科学と計算機科学が相補的な役割を担うことについて議論する。

履修条件：「微分積分」

履修推奨：「確率解析」

「情報アクセス技術」（3年次・春）

情報アクセスの基本となる情報検索の概念とその実現手法について講義と演習を通じて学ぶ。例えば、情報アクセスの基礎（システムの構成要素、索引づけ、検索質問、検索モデル）、検索システムの評価、自然言語処理技術の利用、インタラクションなど。

履修推奨：「線形代数」、「プログラミング基礎」

「インターネット技術」（3年次・春）

デジタル通信の基礎となる技術を詳細に講義する。受講生は、TCP/IP、DNS、HTTPSなどのプロトコル、ルーティング、そしてデータの暗号化と認証について学ぶ。さらに、クラウドコンピューティング、IoT、5Gなどの最新のインターネット技術についても触れる。受講生は、これらの技術がどのように働き、ネットワークがどのように構築され、インターネットがどのように動作するかを理解する。

履修推奨：「コンピュータ概論」

「情報理論」（3年次・秋）

情報理論は、情報の量、保存、伝達、および解読に関する数学的な理論を研究する分野である。文化情報学部学生として知っておくべき、エントロピー、相互情報量、条件付き情報量、エラー訂正と検出、データ圧縮、そして情報の

伝送と受信に関連する基本的な原則とアルゴリズムを探究する。理論的な概念を学び、現実の問題を解決するために、これらの概念を理解適用するために講義を行う。

履修推奨：「離散数学」、「確率解析」

「ベイズ統計」（3年次・秋）

確かな文化情報を供給するために重要な役割を担うベイズ統計と呼ばれる統計科学の枠組みについて、数理科学と計算機科学の視点から、講義と演習を行う。ベイズ統計が、確率的に定式化されたモデルの条件付き確率や周辺確率を計算することにより行われること、および実際の確率の計算には、たとえばモンテカルロ法のような、計算機による数値的な方法が有用であることを解説する。

履修条件：「微分積分」

履修推奨：「プログラミング入門」

「因果推論」（3年次・秋）

統計学、数理統計の知識を前提とし、原因と結果の間の因果関係を把握するための手法として、統計的因果推論の基本原則と主な手法について講義を行う。因果推論は様々な分野で応用されており、医療や政策の効果評価、社会現象や人間行動の因果関係の理解などで重要な役割を果たしている。ここでは具体的な例を挙げながら主な手法について紹介する。例えば、交絡調整、層別解析、マッチング、傾向スコア、操作変数法、回帰不連続デザイン、差分の差分法などを取り上げる。

履修条件：「多変量解析」

履修推奨：「数理統計」

「時系列解析」（3年次・秋）

時間とともにランダムに変動する現象のデータ（時系列データ）の解析法について講義と演習を行う。

時間領域の解析手法を中心に扱うが、一変量時系列データについては自己回帰・移動平均モデル、多変量時系列データについてはベクトル自己回帰モデルについて扱う。非定常時系列データの解析手法についても触れる。理論的説明とともに解析例も示し、解析技能習得の助けとしたい。

履修推奨：「確率解析」、「数理統計」

「数値シミュレーション」（3年次・秋）

コンピュータを用いた問題解決法の一つとして数値計算にもとづくシミュレーションを学ぶ。例えば、数値計算（ニュートン法、関数補間、数値積分、微分方程式の数値解法）、モンテカルロ法（重点サンプリング、ギブスサンプリング、メトロポリス・ヘイスティングス法）、強化学習（Q学習）など。

履修条件：「微分積分」

履修推奨：「プログラミング基礎」

「データベースシステム」（3年次・秋）

データベースの基本概念、データベース言語SQLおよびデータベース管理システムの仕組みについて講義し、その演習を行う。例えば、データモデル、関係代数、データベースの正規化、SQL、データベース管理システム（障害回復、トランザクション）など。

履修条件：「離散数学入門」

履修推奨：「離散数学」

「文化の計量分析入門」(1年次・春)

本講義の目標は、計量分析の基礎的な考え方を理解することである。本講義では、社会学、文学、美学、音楽学、宗教学、心理学、言語学、論理学などの多角的な視点と、統計学と情報学を基にした計量的分析手法を探究する。

履修推奨 : 「統計学入門」、「身体論5.0」

「身体論5.0」(1年次・春)

あらゆる文化の発生基盤である「身体」について考える。さまざまな分野にわたる「身体」を契機とした諸問題を概観すると共に、人を取り巻く環境が急速に様変わりする社会の中で「身体」の意味がどのように更新されていくかを議論する。

「AI・情報倫理」(1年次・春)

Society 5.0における、より善い社会を形成するために必要となる人間の行動規範について学ぶ。例えば、情報倫理学、メディア・リテラシ、プライバシー問題、知的所有権、情報化社会の秩序遵守のための法律、公正な情報提示など。

「社会システム論」(1年次・秋)

人間の行動や社会を扱う文化科学について、社会システムやネットワークの観点から講義を行う。例えば、ネットワーク科学・計算論的社会科学・複雑系の分野において数理モデルやビッグデータによって解明されたSNS上での情報拡散・流行現象・感染症の伝播・人の移動・文化進化・科学の科学・生態系などの現象を取り上げる。これらの例を通して人の理解を深め、豊かな社会の構築へ向けた数学やデータサイエンスについて議論する。

「デジタル・ヒストリー入門」(1年次・秋)

デジタル・ヒストリー(歴史情報学)は、従来の歴史学を大きく変える可能性を秘めた新しい研究分野である。この講義では、デジタル・ヒストリーの基礎として、歴史の方法論と歴史のデジタル化の意義を学び、デジタル時代において「過去」を考える上での基本的な姿勢を身に付けることを目標にする。特に文化・科学に関する西欧と日本双方の歴史学の方法論と代表的な研究を振り返ることで、従来の伝統的な歴史学の基礎を学びつつ、それと接続するデジタル・ヒストリーとの関連性を考える。さらに、デジタル・ヒストリー自体の歴史を確認することで、デジタル・ヒストリーの学問としての位置づけを明確にする。

「文献解析」(2年次・春)

『源氏物語』や『百人一首』などの日本の古典文学作品は、書写の過程で起こる諸本間の本文異同により、複数の系統に分類されることが多い。また、先行する作品との表現の授受関係も複雑である。本授業では、そのような膨大で複雑なテキストデータ相互の関係を短時間で正確に把握するために情報科学の技術を導入し、その利点と問題点を説くとともに、得られた分析結果を通して、各作品について実証的な文学研究の観点から講義する。

履修推奨 : 「文献講読」

「デジタル・ヒストリー概説」(2年次・春)

この講義では、デジタル・ヒストリー(歴史情報学)の応

用として、現代におけるデジタルの歴史学の特徴と動向を学ぶ。デジタル・プロジェクトの具体例を通して、デジタル・ヒストリーの日本における受容と発展を確認する。特に、歴史学におけるデータの扱いと解析や、歴史の可視化の意義、仕組み、可能性を考える。

講義全体を通じて、歴史学としての方法論だけでなく、デジタル・ヒストリーで使用するさまざまな技術も検証することで、歴史学におけるデータの扱いと活用の仕方を学ぶ。それだけでなく、デジタル化を通じて可能となる歴史学の現代における役割、活用について学び、パブリック・ヒストリーの方法論の基礎的知識を得る。

履修推奨 : 「デジタル・ヒストリー入門」

「時空間情報科学」(2年次・春)

人類が関わる文化・社会の諸現象は、時代や地域という時空間的性質を持つ。講義では、時空間現象を扱う現象科学の考え方、実際に情報を処理・解析するシステムに関し、具体的な事例研究を通じて、時空間情報システムの構築・運用と現象評価の実践を行う。対象は実際の歴史・地理空間における現象だけでなく、写真や絵画・グラフィックなども時空間情報を伴った対象といえ、歌や物語も同様である。

履修推奨 : 「文化・社会人類学」

「社会調査法」(2年次・春)

現実の社会問題の理解・説明に必要な社会調査データの収集と分析に関する基礎理論と具体的な応用方法を講義する。具体的には、データに基づいた社会現象の法則発見と真理探究に必要な調査目的の確立、調査企画、標本設計、サンプリングと標本誤差、質問文・調査票の作成、調査の実施方法、調査データの整理、単純集計、データ分析の仕方などの基本を重点的に解説する。

履修推奨 : 「社会調査入門」、「統計学」

「認知情報学」(2年次・春)

人間の知覚・認知システムについて、情報処理という観点から講義を行う。例えば、知覚の特性とメカニズム、感性認知、意思決定などを取り上げる。

「計量文化解析」(2年次・秋)

本授業では、文化現象(例えば、音楽、絵画、社会、思想、物語など)を計量的に解析する知見と方法論を学ぶ。講義と演習を通じて、各自が関心を持つ分野の研究に対して、計量分析を適用するための応用力を身につける。実践的な計量分析手法の習得と、複数の学問が互いに関連することを理解することで、現実の問題に対する深い洞察力を養うことが期待される。

履修条件 : 「文化の計量分析入門」

履修推奨 : 「多変量解析演習」

「映像情報解析論」(2年次・秋)

現代の「動く映像」の出発点である映画とアニメーションにおける、(1)基本的な映画の規則や概念(ショットの概念、フレーム、モンタージュ等)(2)計量分析方法を学び、文理融合的な映像分析の手法を習得する。

「言語研究の方法2」(2年次・秋)

この授業では一般言語学の方法論に基づき、個別言語の音・語・文レベルの特徴を対象とし、より妥当性の高い記述方法を探ることを目標とする。特に、日本語における音韻・文法の記述の妥当性を説明し、如何に言語を記述すべきかを徹底的に議論する。この授業を通して、受講者は一般言語学的手法で言語事実が観察できるようになる。

「会話情報学」(2年次・秋)

ことばを理解・発することを行動の1つとして捉え、ことばが実際の会話の中でどのように理解され、その後の行動に影響を及ぼしているのかについて、言語学と情報学の観点から、講義と演習を行う。従来行われてきた人間同士の会話に関する研究から最先端の人間と人工知能との会話に関する研究までを俯瞰し、人間はどのように会話しているのか、人工知能等の科学技術をどのように取り入れていくべきかについて議論する。

履修推奨：「ことばの科学」、「AI・情報倫理」

「情報グラフィックス論」(2年次・秋)

情報グラフィックスは、古来より人類が引き継いできた重要な文化である。本授業では、主として数理論理学と認知心理学の観点から、その情報機能と認知機能について講義と演習を行う。例えば、チャートやグラフが情報を表示するメカニズムの特殊性、推論や理解を一定方向に駆動する性質、あるいは、情報グラフィックスに対する空間インデックスの配置とその認知機能、などを取り上げる。

事前履修：「離散数学入門」

履修推奨：「認知科学入門」

「社会調査演習」(2年次・秋)

社会調査入門、社会調査法で学んだ知識に基づいて、社会調査の企画から報告書の作成までの一連の具体的な手順について、逐次講義および演習を行う。例えば、調査の企画、仮説構成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査項目の設計、質問文・調査票の作成、調査の実施、実施報告の作成、統計分析ソフトを用いた調査データの入力・整理・集計、可視化、仮説検証分析、報告書の作成などの諸方法を演習する。

履修条件：「社会調査法」

履修推奨：「多変量解析」

「言語と脳科学」(3年次・春)

言語データの分析からどの程度まで言語に関わる脳内の神経生理学的メカニズムを探ることができるのか議論する。言語を生み出す脳の基本構造はどのようになっているのか、言語は脳内でどのように獲得されるのか、失語症などの言語障害に関連するデータから脳内の言語システムがどれだけわかるのか、脳機能イメージングを用いてどのような言語研究が可能なのかなどについて解説する。

履修推奨：「ことばの科学」、「統辞論」

「行動データ科学実習」(3年次・春)

文化研究への応用を念頭に、行動データを扱うために必要な知識やスキルについて講義と演習を行う。例えば、実験法、尺度構成、視線計測などを取り上げる。

「ヒューマンコンピュータインタラクション」(3年次・春)

人間とコンピュータがどのように相互作用するのか、人間にとって使いやすい機器はどのようなものか、ということについて講義を行う。具体的には、インタフェース設計に不可欠な人間の心理学的・生理学的な特性や、インタフェース設計の事例と人間中心設計の概念、ユニバーサルデザインについて学習する。

履修推奨：「コンピュータ概論」

「先端文化情報学Ⅰ」(3年次・春)

文化情報学に関係した話題について最先端の知見をふまえた授業を行う。

「先端文化情報学Ⅱ」(3年次・秋)

文化情報学に関係した話題について最先端の知見をふまえた授業を行う。

「デジタルアーカイブ演習」(2年次・秋)

国や自治体、図書館、博物館、文書館などが様々な文化情報を収集・保管しているデジタルアーカイブ(DA)について、受講者自身が主体的・創造的に構築・活用するリテラシーを身につけることを目的として、DAに関する知識と技術を学ぶ。例えば、オリジナルのデータ、ギャラリー、デジタルミュージアム等を制作することで、応用的な理論と技術、そして発想力を習得する。

VI. 開講科目一覧

開講科目一覧表の各欄について

期間 時間

その科目が実施される期間と週当たりの時間数を表しています。例えば、「春2」とは、春学期に週2時間（1コマ）の講義が実施されるということを意味しています。

配当 年次

その科目の履修が可能となる年次を表しています。

備考

先行登録などの記載がある科目は、必ず『登録要領』を参照してください。

グレー の科目

休講で本年度は開講されない科目、配当年次が該当していない科目で本年度受講できない科目を表しています。

他学部設置科目について

文化情報学部では、他学部設置科目を履修することが可能です。履修が可能な科目は、別紙『文化情報学部時間割表』に掲載しています。履修する場合は、その学部の『履修要項』を参照してください。（文化情報学部事務室で全学部の『履修要項』を閲覧できます。）

日本語・日本文化教育科目（外国人留学生のみ履修可能）の開講科目については、該当年度の「日本語・日本文化教育科目履修の手引き」を参照してください。

「見る」「聴く」「話す」「四肢を使って作業する」など、心身の機能障がいのため「社会的障壁」となる内容を含む科目（演習、実験、実習、語学など）については、「合理的配慮」として代替措置をとることが可能なものがあります。

登録前に、文化情報学部事務室までご相談ください。

2024年度以降生

必修科目

選択科目Ⅰ

■ A群 文化科学系科目群

■ B群 データ科学系科目群

■ C群 先端・融合系科目群

選択科目Ⅱ

■ D群 文化科学系教養科目群

※本冊子および該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」参照

■ E群 データ科学系教養科目群

※該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」参照

■ F群 一般教養科目群

※該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」参照

選択科目Ⅲ

■ G群 外国語・教育科目 英語

※該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」および「登録要領」参照

■ H群 外国語教育科目 英語以外の外国語

※該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」および「登録要領」参照

※ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語、イタリア語、日本語・日本文化
教育科目 日本語（外国人留学生のみ履修可）から1外国語を選択し、4単位以上履修すること

その他

■ I群 免許関係科目等

※本冊子および「免許・資格関係履修要項」等参照

開講科目一覧（2024年度以降生）

必修科目／選択科目Ⅰ A群 文化科学系科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否
	科目コード	クラスコード								
必修 科目	10808011		文化情報学Ⅰ	飯尾 尊優 RAPPO Gaetan 伊藤 謙佑 阪田真己子 下嶋 篤 杉尾 武志	春2	2	1～	必ず1年次で登録すること	水5	否
	10808012		文化情報学Ⅱ	飯尾 尊優 伊藤 謙佑 山縣 芽生	秋2	2	1～		月2	否
	10808021		文化情報学Ⅲ	深川 大路 阿部 真人 淵上ゆかり 星 英仁 飯尾 尊優 伊藤 謙佑 伊藤 紀子 中西 義典 大井 将生 阪田真己子 沈 力 宿久 洋	春2	2	2～		木5	否
	10808022		文化情報学Ⅳ	深川 大路 福田 智子 RAPPO Gaetan 波多野賢治 伊藤 謙佑 河瀬 彰宏 阪田真己子 佐野 明子 柴崎 祥太 下嶋 篤 杉尾 武志 鄭 躍軍 津村 宏臣 山内 信幸	秋2	2	2～		木5	否
			ジョイント・リサーチ			2	3～			
			リサーチ・セミナー			2	3～			
			リサーチ・プロジェクトⅠ			4	4～			
			リサーチ・プロジェクトⅡ			4	4～			

開講科目一覧
(2024年度以降生)

開講科目一覧 (2024年度以降生)

選択科目 I B群 データ科学系科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備考	時間割	他学部生 履修可否
	科目コード	クラスコード								
選択科目 I 【文化情報学専門科目】 A群	10808101		現代文化概論	佐野 明子	春2	2	1~		火2	可
	10808102		美術史学	森井 友之	春2	2	1~		火3	可
	10808103		ことばと文化	山内 信幸	春2	2	1~		水1	可
	10808104		世界の諸言語	藤代 節	春2	2	1~		火4	可
	10808105		文化論入門	岡田 暁生	春2	2	1~		火4	可
	10808106		文献講読	福田 智子	秋2	2	1~		金4	可
	10808107		文化・社会人類学	津村 宏臣	秋2	2	1~		金2	可
	10808108		ことばの科学	星 英仁	秋2	2	1~		木3	可
	10808109		認知科学入門	杉尾 武志	秋2	2	1~		火3	可
	10808110		社会調査入門	眞田 英毅	秋2	2	1~		月5	可
	10808111		コーパス言語学	伊藤 紀子	春2	2	2~	先行登録	木3	可
	10808112		言語研究の方法 I	山内 信幸	春2	2	2~		火3	可
	10808113		言語類型論	沈 力	春2	2	2~		水3	可
	10808114		計量社会学	鄭 躍軍	春2	2	2~		水2	可
	10808115		図像学	休講						
	10808116		統辞論	星 英仁	秋2	2	2~		水1	可
	10808117		比較文化論	岡田 暁生	秋2	2	2~		火2	可
	10808118		身体メディア論	阪田真己子	秋2	2	2~		月2	可
	10808119		環境社会学	淵上ゆかり	春2	2	2~		火4	可
選択科目 I 【文化情報学専門科目】 B群	10808201		統計学入門	狩野 裕	春2	2	1~		火3	否
	10808202		離散数学入門	下嶋 篤 佐々木 崇	春2	2	1~		金3	可
	10808203		数理モデル入門	阿部 真人	春2	2	1~		金2	可
	10808204		プログラミング入門	蒲原 智也 波多野賢治 飯尾 尊優 中畑 裕 太田 公子	春2	2	1~		月2	否
	10808205		統計学	柴崎 祥太	秋2	2	1~	「統計学演習」を単位修得済または同時に登録すること	金2	否
	10808206		統計学演習	柴崎 祥太 宿久 洋 山縣 芽生	秋2	2	1~	「統計学」を単位修得済または同時に登録すること	金3	否
	10808207		線形代数	広田 高輝	秋2	2	1~		水4	否
	10808208		コンピュータ概論	飯尾 尊優	秋2	2	1~		木4	可
	10808209		プログラミング基礎	蒲原 智也 笹田 大翔	秋2	2	1~		火2	否
	10808210		多変量解析	阿部 真人 狩野 裕	春2	2	2~	先行登録 「多変量解析演習」を単位修得済または同時に登録すること 「統計学」の単位を過学期までに修得済のこと	月2	否
	10808211		多変量解析演習	阿部 真人 山縣 芽生 柴崎 祥太	春2	2	2~	先行登録 「多変量解析」を単位修得済または同時に登録すること	月3	否
	10808212		微分積分	中西 義典	春2	2	2~	「線形代数」の単位を過学期までに修得済のこと	木4	可
	10808213		プログラミング応用	蒲原 智也	春2	2	2~	先行登録 「プログラミング基礎」の単位を過学期までに修得済のこと	火2	否
	10808214		機械学習基礎	中西 義典	秋2	2	2~	先行登録 「多変量解析」の単位を過学期までに修得済のこと	木3	可
	10808215		離散数学	深川 大路	秋2	2	2~	「離散数学入門」の単位を過学期までに修得済のこと	火3	可
	10808216		確率解析	阿部 真人	秋2	2	2~		月4	可
	10808217		最適化法	深川 大路	秋2	2	2~	先行登録	金5	可

(2024年度以降生)
開講科目一覧

開講科目一覧（2024年度以降生）

選択科目 I B群 データ科学系科目群／選択科目 I C群 先端・融合系科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否	
	科目コード	クラスコード									
選択科目 I 【文化情報学専門科目】	B 群	10808218	情報セキュリティ	笹田 大翔	秋2	2	2～	先行登録 「AI・情報倫理」を過学期までに 修得済のこと	火1	可	
			アルゴリズムとデータ構造	休講							
			機械学習応用				2	3～			
			数理統計				2	3～	「微分積分」の単位を過学期まで に修得済のこと		
			数理モデル				2	3～	「微分積分」の単位を過学期まで に修得済のこと		
			情報アクセス技術				2	3～			
			インターネット技術				2	3～			
			情報理論				2	3～			
			ベイズ統計				2	3～	「微分積分」の単位を過学期まで に修得済のこと		
			因果推論				2	3～	「多変量解析」の単位を過学期ま でに修得済のこと		
			時系列解析				2	3～			
			数値シミュレーション				2	3～	「微分積分」の単位を過学期まで に修得済のこと		
			データベースシステム				2	3～	「離散数学入門」の単位を過学期 までに修得済のこと		
選択科目 I 【文化情報学専門科目】	C 群	10808301	文化の計量分析入門	河瀬 彰宏	春2	2	1～		木4	可	
		10808302	身体論5.0	阪田真己子	春2	2	1～		金4	可	
		10808303	社会システム論	阿部 真人	秋2	2	1～		水2	可	
		10808304	AI・情報倫理	四方 奨 川崎 友巳 植平 朋行	春2	2	1～		水2	可	
		10808305	デジタル・ヒストリー入門	RAPPO Gaetan	秋2	2	1～		火2	可	
		10808306	文献解析	福田 智子	春2	2	2～		金4	可	
		10808307	デジタル・ヒストリー概説	RAPPO Gaetan	春2	2	2～		火2	可	
		10808308	時空間情報科学	津村 宏臣	春2	2	2～		木3	可	
		10808309	社会調査法	鄭 躍軍	春2	2	2～		火2	可	
		10808310	認知情報学	杉尾 武志	春2	2	2～		火3	可	
		10808311	計量文化解析	河瀬 彰宏	秋2	2	2～	先行登録 「文化の計量分析入門」の単位を 過学期までに修得済のこと	火5	可	
		10808312	映像情報解析論	佐野 明子	秋2	2	2～		金3	可	
		10808313	言語研究の方法2	沈 力	秋2	2	2～		金3	可	
		10808314	会話情報学	伊藤 紀子	秋2	2	2～		木3	可	
		10808316	情報グラフィックス論	下嶋 篤	秋2	2	2～	「離散数学入門」の単位を過学期 までに修得済のこと	水2	可	
		10808317	社会調査演習	鄭 躍軍 淵上ゆかり 宿久 洋 藤田 成隆 森本 栄一	秋2	4	2～	先行登録 「社会調査法」の単位を過学期ま でに修得済のこと	火3 火4	可	
			言語と脳科学				2	3～			
	行動データ科学実習				2	3～					
	先端文化情報学 I				2	3～					
	ヒューマンコンピュータインタラクション				2	3～					
	先端文化情報学 2				2	3～					
10808321	デジタルアーカイブ演習	大井 将生	秋2	2	2～			水3	可		

（2024年度以降生）
開講科目一覧

開講科目一覧（2024年度以降生）

選択科目Ⅱ D群 文化科学系教養科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否
	科目コード	クラスコード								
選択科目Ⅱ 【文化情報学教養科目】 D 群	10808403		文化情報学トピックス —環境と情報—	鄭 躍軍 淵上ゆかり 下嶋 篤	秋2	2	1～		月4	否
	10808404		文化情報学トピックス —京都の伝統文化—	福田 智子	秋2	2	1～		月3	否
	10808406		文化情報学トピックス —Open-Doors Program: Exploring New Orleans—	山内 信幸	秋集中	2	1～3		集中	否
	10808407		文化情報学トピックス —Short Program in Heinrich Heine University—	山内 信幸	春集中	2	2～		集中	否
	10808410		文化情報学トピックス —ビジネスで活用される アナリティクス—	宿久 洋	春2	2	1～		金5	否
	10808413		文化情報学トピックス —デジタルEU・欧州論 文化と社会—	鄭 躍軍	秋集中	2	1～	「ヨーロッパ・スタディーズEU キャンパスプログラム」参加学生 のみ登録可	集中	可
	10808414		文化情報学トピックス —インサイト産業と データサイエンス活用—	宿久 洋	秋集中	2	2～	・講義日程、授業時間はシラバス を参照すること ・履修中止期間については登録要 領を参照すること 「多変量解析演習」を登録した経 歴があるか、同時に登録すること	集中	否
	10808416		文化情報学トピックス —メディアの発達と 社会の変容—	真田 英毅	春2	2	1～		月4	否
	10808417		文化情報学トピックス —地域課題を解決する 新規事業開発—	泉川 大樹 波多野賢治	秋2	2	1～	先行登録 フィールドワークが実施される。 実施日、講義日程はシラバスを確 認すること。	金5	否
	10808418		文化情報学トピックス —どういう「つもり」？ 他者の心を理解する—	伊藤 謙佑	秋2	2	1～		木2	否

開講科目一覧（2024年度以降生）

選択科目Ⅱ D群 文化科学系教養科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考
	科目コード	クラスコード						
D 群 選択科目Ⅱ【文化情報学教養科目】	16000801	051	日本の伝統と美	⑤1 芦田 一寿	春2	2	1～	先行登録
	16000801	052	日本の伝統と美	⑤2 芦田 一寿	秋2	2	1～	先行登録
	16000802	001	日本の伝統と文化	① 芦田 一寿	春2	2	1～	先行登録
	16000802	002	日本の伝統と文化	② 芦田 一寿	秋2	2	1～	先行登録
	16000802	003	日本の伝統と文化	③ 榎木 良子	春2	2	1～	先行登録
	16000802	004	日本の伝統と文化	④ 榎木 良子	秋2	2	1～	先行登録
	16000802	051	日本の伝統と文化	⑤1 芦田 一寿	春2	2	1～	先行登録
	16000802	052	日本の伝統と文化	⑤2 芦田 一寿	秋2	2	1～	先行登録
	16000802	053	日本の伝統と文化	⑤3 榎木 良子	春2	2	1～	先行登録
	16000802	054	日本の伝統と文化	⑤4 榎木 良子	秋2	2	1～	先行登録
	16000803	051	日本の伝統と芸能	⑤1 中川 久公	春2	2	1～	先行登録
	16000803	052	日本の伝統と芸能	⑤2 中川 久公	秋2	2	1～	先行登録
	16000803	053	日本の伝統と芸能	⑤3 高 永珍	春2	2	1～	先行登録
	16000804	051	日本の伝統と能楽	⑤1 河村 晴久	春2	2	1～	先行登録
	16000804	052	日本の伝統と能楽	⑤2 河村 晴久	秋2	2	1～	先行登録
	16000806	001	Japanese Thought and Religion 1	① IGNACIO ARISTIMUNO	春2	2	1～	先行登録
	16000806	051	Japanese Thought and Religion 1	⑤1 IGNACIO ARISTIMUNO	春2	2	1～	先行登録
	16000807	001	Japanese Thought and Religion 2	① IGNACIO ARISTIMUNO	秋2	2	1～	先行登録
	16000807	051	Japanese Thought and Religion 2	⑤1 IGNACIO ARISTIMUNO	秋2	2	1～	先行登録
	16000808	001	Tradition and Art in Japan 1	① IGNACIO ARISTIMUNO	秋2	2	1～	先行登録
	16000808	051	Tradition and Art in Japan 1	⑤1 IGNACIO ARISTIMUNO	秋2	2	1～	先行登録
	16000809	001	Tradition and Art in Japan 2	① IGNACIO ARISTIMUNO	春2	2	1～	先行登録
	16000809	051	Tradition and Art in Japan 2	⑤1 IGNACIO ARISTIMUNO	春2	2	1～	先行登録
	16000810	051	Japan Today 1	⑤1 OMAR YUSEF BAKER	春2	2	1～	先行登録
	16000810	052	Japan Today 1	⑤2 OMAR YUSEF BAKER	秋2	2	1～	先行登録
	16000811	051	Japan Today 2	⑤1 OMAR YUSEF BAKER	春2	2	1～	先行登録
	16000811	052	Japan Today 2	⑤2 OMAR YUSEF BAKER	秋2	2	1～	先行登録
	16608001	001	京都科目	① 森田 玲	秋2	2	1～	先行登録
	16608001	051	京都科目	⑤1 森田 玲	春2	2	1～	先行登録
	16608002	002	京都科目	② 塩野 敬子	春2	2	1～	先行登録
	16608002	052	京都科目	⑤2 高林 佑丞	秋2	2	1～	先行登録
	16608003	003	京都科目	③ 小島富佐江	春2	2	1～	先行登録
	16608003	053	京都科目	⑤3 小島富佐江	秋2	2	1～	先行登録
	16608004	504	京都科目	⑤04 北見真智子	春2	2	1～	先行登録
	16608005	055	京都科目	⑤5 佐伯 順子	春2	2	1～	先行登録
	16608006	006	京都科目	⑥ 八木 匡	秋2	2	1～	先行登録
16608006	056	京都科目	⑤6 八木 匡	秋2	2	1～	先行登録	
16608007	057	京都科目	⑤7 北林 功	春2	2	1～	先行登録	
16608502	501	クールジャパン科目	⑤01 遠藤 徹	春2	2	1～	先行登録	
16608504	002	クールジャパン科目	② 廣瀬 純	春2	2	1～	先行登録	
16608504	052	クールジャパン科目	⑤2 廣瀬 純	春2	2	1～	先行登録	
16608506	503	クールジャパン科目	⑤03 荏開津 広	春2	2	1～	先行登録	
16609001	501	クリエイティブ・ジャパン科目	⑤01 竹谷多賀子	秋2	2	1～	先行登録	

開講科目一覧
(2024年度以降生)

開講科目一覧（2024年度以降生）

選択科目Ⅱ E群 データ科学系科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考
	科目コード	クラスコード						
E 群 選択科目Ⅱ【文化情報学教養科目】	16000724	001	Statistics for the Social Sciences and Humanities	① 李 玉哲	春2	2	1～	先行登録
	16000724	051	Statistics for the Social Sciences and Humanities	⑤1 MYGDALSKYY VOLODYMYR	秋2	2	1～	先行登録
	16002358	001	論理的思考の基礎（1）	① 下嶋 篤 佐々木 崇	春2	2	1～	先行登録
	16002358	002	論理的思考の基礎（1）	② 野坂 宜正 佐々木 崇	春2	2	1～	先行登録
	16002358	003	論理的思考の基礎（1）	③ 佐々木 崇 伊藤 謙佑	春2	2	1～	先行登録
	16002358	051	論理的思考の基礎（1）	⑤1 野坂 宜正 小川 雄	春2	2	1～	先行登録
	16002358	052	論理的思考の基礎（1）	⑤2 新 茂之 大槻 晃右	春2	2	1～	先行登録
	16002359	001	論理的思考の基礎（2）	① 佐々木 崇 河瀬 彰宏	秋2	2	1～	先行登録
	16002359	002	論理的思考の基礎（2）	② 下嶋 篤 佐々木 崇	秋2	2	1～	先行登録
	16002359	003	論理的思考の基礎（2）	③ 佐々木 崇 伊藤 謙佑	秋2	2	1～	先行登録
	16002359	051	論理的思考の基礎（2）	⑤1 野坂 宜正 小川 雄	秋2	2	1～	先行登録
	16002359	052	論理的思考の基礎（2）	⑤2 新 茂之 大槻 晃右	秋2	2	1～	先行登録
	16002360	001	論理的思考の応用（1）	① 佐々木 崇 伊藤 謙佑	春2	2	1～	先行登録
	16002360	002	論理的思考の応用（1）	② 佐々木 崇 野坂 宜正	春2	2	1～	先行登録
	16002360	051	論理的思考の応用（1）	⑤1 下嶋 篤 野坂 宜正	春2	2	1～	先行登録
	16002360	052	論理的思考の応用（1）	⑤2 小川 雄 大槻 晃右	春2	2	1～	先行登録
	16002361	001	論理的思考の応用（2）	① 佐々木 崇 野坂 宜正	秋2	2	1～	先行登録
	16002361	002	論理的思考の応用（2）	② 佐々木 崇 野坂 宜正	秋2	2	1～	先行登録
	16002361	051	論理的思考の応用（2）	⑤1 下嶋 篤 野坂 宜正	秋2	2	1～	先行登録
	16002361	052	論理的思考の応用（2）	⑤2 小川 雄 大槻 晃右	秋2	2	1～	先行登録

開講科目一覧
（2024年度以降生）

開講科目一覧（2024年度以降生）

選択科目Ⅱ E群 データ科学系科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考
	科目コード	クラスコード						
E 群 選択科目Ⅱ〔文化情報学教養科目〕	16008400	001	データサイエンス概論	① 宿久 洋 瀬領 真悟 野々村和喜 土屋 誠司 岡部 格明	春2	2	1～	
	16008400	002	データサイエンス概論	② 宿久 洋 瀬領 真悟 野々村和喜 土屋 誠司 岡部 格明	秋2	2	1～	
	16008500	001	データサイエンスⅠ	① 土田 潤	春2	2	1～	
	16008500	002	データサイエンスⅠ	② 竹野 倫彰	春2	2	1～	
	16008500	003	データサイエンスⅠ	③ 森本 栄一	春2	2	1～	
	16008500	004	データサイエンスⅠ	④ 大森 崇	春2	2	1～	先行登録
	16008500	005	データサイエンスⅠ	⑤ 竹野 倫彰	秋2	2	1～	
	16008500	006	データサイエンスⅠ	⑥ 江崎 剛史	秋2	2	1～	
	16008500	007	データサイエンスⅠ	⑦ 藤井 孝之	秋2	2	1～	
	16008500	051	データサイエンスⅠ	⑤① 阿部 貴行	春2	2	1～	
	16008500	052	データサイエンスⅠ	⑤② 山田 隆行	春2	2	1～	
	16008500	053	データサイエンスⅠ	⑤③ 原 尚幸	春2	2	1～	
	16008501	001	データサイエンスⅡ	① 藤井 孝之	春2	2	1～	
	16008501	002	データサイエンスⅡ	② 濱田 悦生	秋2	2	1～	
	16008501	003	データサイエンスⅡ	③ 大森 崇	秋2	2	1～	先行登録
	16008501	004	データサイエンスⅡ	④ 森本 栄一	秋2	2	1～	
	16008501	051	データサイエンスⅡ	⑤① 堀 兼大朗	春2	2	1～	先行登録
	16008501	052	データサイエンスⅡ	⑤② 阿部 貴行	秋2	2	1～	
	16008501	053	データサイエンスⅡ	⑤③ 山田 隆行	秋2	2	1～	先行登録
	16008501	054	データサイエンスⅡ	⑤④ 原 尚幸	秋2	2	1～	
	16016700	001	数学	① 木村 和広	春2	2	1～	
	16016700	002	数学	② 塩田隆比呂	春2	2	1～	
	16016700	003	数学	③ 竹山 理	秋2	2	1～	
	16016700	004	数学	④ 磯 祐介	秋2	2	1～	
	16016700	005	数学	⑤ 竹山 理	秋2	2	1～	
	16016700	006	数学	⑥ 大川 領	秋2	2	1～	
	16016700	051	数学	⑤① 朝田 衛	春2	2	1～	
	16016700	052	数学	⑤② 藤田 成隆	春2	2	1～	先行登録
	16016700	054	数学	⑤④ 朝田 衛	春2	2	1～	
	16016700	055	数学	⑤⑤ 藤田 成隆	春2	2	1～	先行登録
	16016700	056	数学	⑤⑥ 藤田 成隆	秋2	2	1～	先行登録
	16016700	058	数学	⑤⑧ 大塚 研一	秋2	2	1～	
	16016700	059	数学	⑤⑨ 藤田 成隆	秋2	2	1～	先行登録
	16016710	001	サイバーセキュリティ入門	① 土屋 誠司	春2	2	1～	先行登録
	16016710	002	サイバーセキュリティ入門	② 土屋 誠司	秋2	2	1～	先行登録
	16016750	001	自然科学特論	① 島田 伸一	春2	2	1～	
16016750	002	自然科学特論	② 竹山 理	春2	2	1～		
16016750	003	自然科学特論	③ 竹山 理	春2	2	1～		
16016750	004	自然科学特論	④ 木村 和広	秋2	2	1～		
16016750	005	自然科学特論	⑤ 中西 敏浩	秋2	2	1～		

開講科目一覧
(2024年度以降生)

開講科目一覧（2024年度以降生）

I群 免許・資格関係科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	校地	期間 時間	単位	配当 年次	備 考		
	科目コード	クラスコード									
I 群 選 択 科 目 【 免 許 ・ 資 格 関 係 科 目 他 学 部 設 置 科 目 他 】	10809120		情報処理演習	蒲原 智也	田	春2	1	2~			
			教科教育法A（情報）				2	3~			
			教科教育法B（情報）				2	3~			
			教職実践演習（中・高）				2	4~	卒業予定の年度に「教育実習」「教育実習指導」「教職実践演習（中・高）」の3科目をセットで登録すること		
			教育実習指導				1	4~	卒業予定の年度に「教育実習」「教育実習指導」「教職実践演習（中・高）」の3科目をセットで登録すること		
			教育実習A				2	3~	「教育実習A」は基本的に履修できない履修を希望する場合は、事前に免許資格課程センター事務室まで相談すること		
			教育実習B				2	4~	高一種免のみの場合は「教育実習B」を履修すること		
			教育実習C				4	4~	中一種免及び中高両方の場合「教育実習C」を履修すること		
		15010010	001	教職概論	①	中瀬 浩一	田	秋2	2	1~	
			002		②	井上 浩史	田	春2			
			003		③	沖田 悟傳	田	春2			
			004		④	沖田 悟傳	田	春2			
			005		⑤	井上 浩史	田	秋2			
			051		⑤	井上 浩史	今	秋2			
			052		⑤	井上 浩史	今	秋2			
			053		⑤	沖田 悟傳	今	春2			
			054		⑤	中瀬 浩一	今	秋2			
			055		⑤	井上 浩史	今	春2			
		056	⑤	中瀬 浩一	今	春2					
		15010020	001	教育原理	①	佐藤 光友	田	春2	2	1~	
			002		②	佐藤 光友	田	秋2			
			003		③	佐藤 光友	田	秋2			
			051		⑤	榎本 恵理	今	春2			
			052		⑤	榎本 恵理	今	秋2			
			053		⑤	和田 充弘	今	春2			
			054		⑤	森口 洋一	今	秋2			
			055		⑤	長谷川精一	今	秋2			
		056	⑤	長谷川精一	今	春2					
		15010030	001	発達と学習の心理学	①	内山伊知郎	田	秋2	2	1~	
			002		②	田中 希穂	田	春2			
			003		③	田中 希穂	田	秋2			
			004		④	山口 洋介	田	春2			
			005		⑤	石井 僚	田	春2			
			051		⑤	内山伊知郎	今	春2			
			052		⑤	田中 希穂	今	春2			
			053		⑤	山口 洋介	今	秋2			
	054		⑤		羽野ゆつ子	今	秋2				
	055		⑤		山口 洋介	今	春2				
	056	⑤	田中 希穂	今	秋2						
	15010041	001	教育制度と学校経営	①	柳澤 彰紀	田	春2	2	2~		
		002		②	沖田 悟傳	田	秋2				
		051		⑤	柳澤 彰紀	今	春2				
		052		⑤	柳澤 彰紀	今	春2				
		053		⑤	沖田 悟傳	今	秋2				

開講科目一覧
(2024年度以降生)

I群 免許・資格関係科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	校地	期間 時間	単位	配当 年次	備考
	科目コード	クラスコード							
I 群 選択科目【免許・資格関係科目 他学部設置科目 他】	15010050	001	学校教育社会学	① 野村 洋平	田	秋2	2	2~	
		051		⑤ 高山 育子	今	春2			
		052		⑥ 高山 育子	今	秋2			
	15010070	001	教育課程論	① 佐藤 光友	田	春2	2	2~	
		002		② 田中 曜次	田	春2			
		003		③ 佐藤 光友	田	秋2			
		051		⑤ 佐藤 光友	今	春2			
		052		⑥ 児玉 祥一	今	春2			
		053		③ 奥野 浩之 佐藤 光友	今	春2			
		054		④ 奥野 浩之	今	秋2			
	055	⑤ 佐藤 光友	今	秋2					
	15010080	001	道徳教育の理論と実践	① 倉本 香	田	秋2	2	2~	
		002		② 山口 洋介	田	春2			
		003		③ 山口 洋介	田	秋2			
		051		⑤ 和田 充弘	今	春2			
		052		⑥ 倉本 香	今	春2			
		053		③ 山口 洋介	今	春2			
		054		④ 山口 洋介	今	秋2			
	055	⑤ 和田 充弘	今	秋2					
	15010091	001	特別活動と総合的な 学習の時間の指導法	① 稲田 雅巳	田	春2	2	2~	
		002		② 井上 浩史	田	秋2			
		003		③ 柳澤 彰紀	田	秋2			
		051		⑤ 柳澤 彰紀	今	春2			
		052		⑥ 稲田 雅巳	今	春2			
		053		③ 稲田 雅巳	今	秋2			
		054		④ 柳澤 彰紀	今	秋2			
	055	⑤ 長谷川 豊	今	秋2					
	15010111	001	教育方法とICT活用の 理論と実践	① 岡本 真彦	田	秋2	2	2~	
		002		② 田中 希穂	田	春2			
		003		③ 岡本 真彦	田	春2			
		004		④ 岡本 真彦	田	春2			
		005		⑤ 岡本 真彦	田	秋2			
		051		⑥ 平野 哲司	今	春2			
		052		⑦ 田中 希穂	今	春2			
		053		⑧ 沼田 潤	今	秋2			
		054		⑨ 池田 恭浩	今	秋2			
055		⑩ 平野 哲司		今	春2				
15010120	001	生徒・進路指導の理論と 方法	① 神山 貴弥	田	秋2	2	2~		
	002		② 稲田 雅巳	田	秋2				
	003		③ 山本 桂子	田	春2				
	004		④ 井上 浩史	田	春2				
	051		⑥ 稲田 雅巳	今	春2				
	052		⑦ 井上 浩史	今	春2				
	053		⑧ 稲田 雅巳	今	秋2				
	054		⑨ 井上 浩史	今	春2				
	055		⑩ 山本 桂子	今	秋2				

開講科目一覧
(2024年度以降生)

開講科目一覧（2024年度以降生）

I群 免許・資格関係科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	校地	期間 時間	単位	配当 年次	備考
	科目コード	クラスコード							
I 群 選 択 科 目 【 免 許 ・ 資 格 関 係 科 目 他 学 部 設 置 科 目 他 】			教育相談の理論と方法				2	2~	
	15010160	001	スクールインターンシップ	① 柳澤 彰紀	田	集中	2	2~	
		051		⑤ 稲田 雅巳	今	集中			
	15010060 10952237	001	人権教育論	① 下嶋 篤 長谷部陽一郎 松倉 啓太 田中 希穂 余語 真夫 吉田 優子 望月 詩史 中西 義典 岩田昌太郎 柳澤 彰紀 李 元重 岡崎 享恭 鄭 躍軍	田	秋	2	1~	
	10270316	001 051 101	日本文化史概説（1）	① 矢内 一磨	田	春2	2	2~	
				⑤ 北 康宏	今	春2			
				⑩ 北 康宏	今	春2			
	10270317	001 051 101	日本文化史概説（2）	① 矢内 一磨	田	秋2	2	2~	
				⑤ 北 康宏	今	秋2			
				⑩ 北 康宏	今	秋2			
	10270101	001 051 052 053 101	西洋文化史概説（1）	① 坂井 聰	田	春2	2	2~	
				⑤ 波部雄一郎	今	春2			
				⑥ 井福 剛	今	春2			
				⑬ 波部雄一郎	今	秋2			
				⑯ 井福 剛	今	秋2			
	10270102	001 051 052 053 101	西洋文化史概説（2）	① 中村 年延	田	秋2	2	2~	
		⑤ 吉門 昌宏		今	秋2				
		⑥ 大谷 誠		今	秋2				
		⑬ 大谷 誠		今	春2				
		⑯ 中村 年延		今	春2				
10270117	001 051 101	東洋文化史概説（1）	① 山崎 岳	田	春2	2	2~		
			⑤ 城地 孝	今	春2				
			⑩ 城地 孝	今	秋2				
10270118	001 051 101	東洋文化史概説（2）	① 山崎 岳	田	秋2	2	2~		
			⑤ 荻 恵里子	今	秋2				
			⑩ 荻 恵里子	今	春2				
15030010	001 051 052	生涯学習概論	① 佐藤 聡子	田	秋2	2	1~		
			⑤ 神部 純一	今	春2				
			⑥ 神部 純一	今	秋2				

I群 免許・資格関係科目／自由科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	校地	期間 時間	単位	配当 年次	備考
	科目コード	クラスコード							
選択科目 【免許・資格関係科目 I 群 他学部設置科目 他】	10402643	001	日本の憲法	① 二宮 貴美	田	春2	2	1~	
		002		② 二宮 貴美	田	春2			
		003		③ 二宮 貴美	田	秋2			
		051		⑤ 田中 謙太	今	春2			
		052		⑤ 二宮 貴美	今	秋2			
		053		⑤ 松岡 千紘	今	秋2			
他学部設置科目									
同志社女子大学単位互換科目									
大学コンソーシアム京都単位互換科目									
早稲田大学交流協定認定科目									
デューピング大学IES科目									
自由科目	11610111		コンピュータグラフィックス	渡部 広一	田	秋2	2	1~	
	11610145		情報メディア	松岡 諒	今	秋2	2	1~	
	11610220		情報メディア実習	加藤 恒夫	田	春2	1	1~	
	11610244		情報と社会	奥田 環	インタ	秋2	2	1~	
	15010151	001	特別ニーズ教育論	① 廣中 嘉隆	田	秋2	2	1~	
		002		② 中瀬 浩一	田	春2			
		003		③ 中瀬 浩一	田	秋2			
		004		④ 廣中 嘉隆	田	春2			
		051		⑤ 中瀬 浩一	今	春2			
		052		⑤ 中瀬 浩一	今	秋2			
		053		⑤ 中瀬 浩一	今	春2			
		054		⑤ 中瀬 浩一	今	秋2			
		055		⑤ 中瀬 浩一	今	春2			
		056		⑤ 中瀬 浩一	今	秋2			
		学校図書館サービス論				2	2~		

開講科目一覧
(2024年度以降生)

2017～2023年度生

必修科目

選択科目 I

■ A群 文化クラスター科目群

■ B群 データサイエンス科目群

■ C群 体験型教養科目群

選択科目 II

■ D群 全学共通教養教育科目

※該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」参照

■ E群 外国語教育科目 英語

※該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」および「登録要領」参照

■ F群 外国語教育科目 英語以外の外国語

※該当する入学年度の「全学共通教養教育科目履修要項」および「登録要領」参照

※ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語、イタリア語、日本語・日本文化
教育科目 日本語（外国人留学生のみ履修可）から1外国語を選択し、4単位以上履修すること

■ G群 免許・資格関係科目等

※本冊子および「免許・資格関係履修要項」等参照

開講科目一覧 (2017~2023年度生)

必修科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否
	科目コード	クラスコード								
必修科目	10807011		文化情報学入門	飯尾 尊優 RAPPO Gaetan 阪田真己子 下嶋 篤 杉尾 武志	春2	2	1~		水5	否
	10807012		コロキアム	深川 大路 蒲原 智也 山縣 芽生 伊藤 謙佑	秋2	1	1~		月5	否
	10807051		文化情報学演習 1	伊藤 紀子 沈 力	秋2	1	1~		月3	否
	10807061		文化情報学演習 2	阪田真己子 藤田 成隆 井上 優大 Marino Bahaa Rafo Asad	秋2	1	2~	グループに分かれ授業を行う グループ分け等詳細は 学部HPを参照	水1	否
	10807062		文化情報学演習 3	河瀬 彰宏 山縣 芽生	春2	1	2~		木5	否
	10807031	002	ジョイント・リサーチ I	② 宿久 洋 深川 大路 波多野賢治	春2	1	3~	クラスは指定される ※研究室配属が決まっている者 のみ登録可	火5	否
	10807031	017	ジョイント・リサーチ I	⑩ 鄭 躍軍 淵上ゆかり					水3	否
	10807031	019	ジョイント・リサーチ I	⑪ 星 英仁 沈 力					水2	否
	10807031	024	ジョイント・リサーチ I	⑫ RAPPO Gaetan 深川 大路 福田 智子					火4	否
	10807031	034	ジョイント・リサーチ I	⑬ 杉尾 武志 柴崎 祥太					水3	否
	10807031	035	ジョイント・リサーチ I	⑭ 河瀬 彰宏 波多野賢治 伊藤 紀子					水3	否
	10807031	036	ジョイント・リサーチ I	⑮ 飯尾 尊優 伊藤 紀子 阪田真己子					火3	否
	10807031	037	ジョイント・リサーチ I	⑯ 山内 信幸 津村 宏臣 岸田 徹					火4	否
10807031	039	ジョイント・リサーチ I	⑰ 中西 義典 阿部 真人	火5					否	
10807031	040	ジョイント・リサーチ I	⑱ 佐野 明子 下嶋 篤 大井 将生	金4					否	

開講科目一覧 (2017~2023年度生)

必修科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否				
	科目コード	クラスコード												
必修科目	10807032	002	ジョイント・リサーチⅡ	② 宿久 洋 深川 大路 波多野賢治	秋2	1	3~	クラスは指定される 「ジョイント・リサーチⅠ」の単 位を過学期までに修得済のこと ※研究室配属が決まっている者 のみ登録可	火5	否				
	10807032	017	ジョイント・リサーチⅡ	⑱ 鄭 躍軍 澁上ゆかり					水3	否				
	10807032	019	ジョイント・リサーチⅡ	⑲ 星 英仁 沈 力					水2	否				
	10807032	024	ジョイント・リサーチⅡ	⑳ RAPPO Gaetan 深川 大路 福田 智子					火4	否				
	10807032	034	ジョイント・リサーチⅡ	㉔ 杉尾 武志 柴崎 祥太					水3	否				
	10807032	035	ジョイント・リサーチⅡ	㉕ 河瀬 彰宏 波多野賢治 伊藤 紀子					水3	否				
	10807032	036	ジョイント・リサーチⅡ	㉖ 飯尾 尊優 伊藤 紀子 阪田真己子					火3	否				
	10807032	037	ジョイント・リサーチⅡ	㉗ 山内 信幸 津村 宏臣 岸田 徹					火4	否				
	10807032	039	ジョイント・リサーチⅡ	㉙ 中西 義典 阿部 真人					火5	否				
	10807032	040	ジョイント・リサーチⅡ	④⑩ 佐野 明子 下嶋 篤 大井 将生					金4	否				
	10807033		アドバンスト・コロキウム	飯尾 尊優 山縣 芽生					秋2	1	2~		月2	否
	10807041	***	卒業研究Ⅰ						春集中	4	4~	卒業研究Ⅰと卒業研究Ⅱを同時に 登録すること <卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱを履修 するための条件> ①卒業必要単位のうち100単位以 上を修得していること (卒業必要単位数を超えて修得 した単位は算入しない) ②「コロキウム」「アドバンスト・ コロキウム」の単位を修得して いること 「ジョイント・リサーチⅠ」を 前年度までに履修登録したこと があること ③3年以上在学していること クラスコード、担当者については 下表参照	集中	否
	10807042	***	卒業研究Ⅱ						秋集中	4	4~		集中	否

卒業研究Ⅰ・Ⅱ担当者表

クラスコード	担当者
001	福田 智子
002	波多野賢治
003	星 英仁
004	伊藤 紀子
011	阪田真己子
012	沈 力
014	下嶋 篤
017	杉尾 武志

クラスコード	担当者
021	津村 宏臣
023	宿久 洋
024	山内 信幸
026	鄭 躍軍
028	深川 大路
038	河瀬 彰宏
042	佐野 明子
043	飯尾 尊優

クラスコード	担当者
044	中西 義典
045	RAPPO Gaetan
046	阿部 真人
048	澁上ゆかり
049	大井 将生
050	柴崎 祥太

必修科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否	
	科目コード	クラスコード									
選 択 科 目 I	A群 文化クラスター科目群 (文化資源学科目)										
	10807111		日本文化史	森井 友之	春2	2	1~		火5	可	
	10807112		文化計量学入門	河瀬 彰宏	春2	2	1~		木4	可	
	10807113		現代文化概論	佐野 明子	春2	2	1~		火2	可	
	10807114		歴史文化情報入門	RAPPO Gaetan	秋2	2	1~		火2	可	
	10807115		文献学入門	福田 智子	春2	2	1~		金4	可	
	10807121		歴史文化情報概説	RAPPO Gaetan	春2	2	2~		火2	可	
	10807122		文献講読	福田 智子	秋2	2	1~		金4	可	
	10807123		伝統音楽論	鈴木麻菜美	秋2	2	3~		水4	可	
	10807125		美術史学	森井 友之	春2	2	2~		火3	可	
	10807126		文化・社会人類学	津村 宏臣	秋2	2	2~		金2	可	
	10807131		歴史文化情報論	津村 宏臣	春2	2	3~		木3	可	
	10807132		文化記号論	北見真智子	秋2	2	3~		月4	可	
	10807133		古典文化論	清水 真澄	秋2	2	3~		金2	可	
	10807134		音楽解析	河瀬 彰宏	秋2	2	2~	先行登録	火5	可	
	10807135		文化解析	佐野 明子	秋2	2	2~		金3	可	
	A群 文化クラスター科目群 (言語データ科学科目)										
	10807211		ことばと文化	山内 信幸	春2	2	1~		水1	可	
	10807212		ことばの科学	星 英仁	秋2	2	1~		木3	可	
	10807213		ことばと社会	休講							
	10807214		世界の諸言語	藤代 節	春2	2	1~		火4	可	
	10807221		コーパス言語学	伊藤 紀子	春2	2	2~	先行登録	木3	可	
	10807222		言語研究の方法1	山内 信幸	春2	2	2~		火3	可	
	10807223		言語類型論	沈 力	春2	2	2~		水3	可	
	10807224		言語研究の方法2	沈 力	秋2	2	2~		金3	可	
	10807225		音韻論	休講							
	10807231		語用論	伊藤 紀子	秋2	2	3~		木3	可	
	10807232		統語論	星 英仁	秋2	2	3~		水1	可	
	10807233		認知言語学	長谷部陽一郎	秋2	2	3~		木5	可	
	10807234		言語と脳科学	星 英仁	秋2	2	3~		金2	可	
	A群 文化クラスター科目群 (行動データ科学科目)										
	10807311		身体論	阪田真己子	春2	2	1~		金4	可	
	10807312		認知科学入門	杉尾 武志	秋2	2	1~		火3	可	
	10807314		社会調査入門	眞田 英毅	秋2	2	1~		月5	可	
	10807321		感覚・知覚論	杉尾 武志	春2	2	2~		火4	可	
10807322		人間と文化	岡田 暁生	春2	2	2~		火4	可		
10807323		社会調査法	鄭 躍軍	春2	2	2~		火2	可		
10807324		計量社会学	鄭 躍軍	春2	2	2~		水2	可		
10807325		視覚表現論	下嶋 篤	秋2	2	2~		水2	可		
10807326		比較文化論	岡田 暁生	秋2	2	2~		火2	可		
10807327		身体メディア論	阪田真己子	秋2	2	2~		月2	可		
10807328		社会調査演習	鄭 躍軍 淵上ゆかり 宿久 洋 藤田 成隆 森本 栄一	秋2	2	2~	先行登録 「社会調査法」の単位を過学期ま てに修得済のこと	火3 火4	可		
10807331		認知科学の方法	斎藤 元幸 阪田真己子 杉尾 武志	春2	2	3~		インタ	否		
10807332		認知科学実習	杉尾 武志	春2	2	3~	先行登録 「認知科学の方法」を同時履修ま たは修得済のこと	水2	可		
10807333		行動計量分析法	津村 宏臣	春2	2	3~		金2	可		
10807334		認知システム論	杉尾 武志	秋2	2	3~		火4	可		
10807335		社会ネットワーク分析	阿部 真人	秋2	2	3~		水2	可		

開講科目一覧 (2017~2023年度生)

選択科目 I B群 データサイエンス科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	時間割	他学部生 履修可否	
	科目コード	クラスコード									
選 択 科 目 I	B 群 デ ー タ サ イ エ ン ス 科 目 群	B群 データサイエンス科目群 (データ分析科目)									
		10807411		データサイエンス入門	狩野 裕	春2	2	1~	「データサイエンス入門演習」を単位修得済または同時に登録すること	火3	否
		10807412		データサイエンス入門演習	柴崎 祥太	春2	2	1~	「データサイエンス入門」を単位修得済または同時に登録すること	火4	否
		10807413		データサイエンス基礎	柴崎 祥太	秋2	2	1~	「データサイエンス演習」を単位修得済または同時に登録すること 同一科目名の全学共通教養教育科目がある 科目コードに注意して登録すること	金2	否
		10807414		データサイエンス演習	柴崎 祥太 宿久 洋 山縣 芽生	秋2	2	1~	「データサイエンス基礎」を単位修得済または同時に登録すること	金3	否
		10807421		定量的データ分析	阿部 真人 狩野 裕	春2	2	2~	先行登録 「定量的データ分析演習」を単位修得済または同時に登録すること	月2	否
		10807422		定量的データ分析演習	阿部 真人 山縣 芽生 柴崎 祥太	春2	2	2~	先行登録 「定量的データ分析」を単位修得済または同時に登録すること	月3	否
		10807423		定性的データ分析	休講						
		10807424		定性的データ分析演習	休講						
		10807431		ベイズ統計	寺田 吉壱	春2	2	3~	先行登録	金4	可
		10807432		機械学習	中西 義典	秋2	2	2~	先行登録	木3	可
		10807433		テキストマイニング	休講						
		10807434		データハンドリング	阿部 寛康	秋2	2	3~	先行登録	月5	否

開講科目一覧 (2017~2023年度生)

選択科目 I B群 データサイエンス科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間 時間	単位	配当 年次	備考	時間割	他学部生 履修可否
	科目コード	クラスコード								
選 択 科 目 I	B群 データサイエンス科目群 (基礎数理科目)									
	10807511		数学入門	広田 高輝	春2	2	1~		水4	可
	10807512		論理と数理	下嶋 篤 佐々木 崇	春2	2	1~		金3	可
	10807513		線形代数	広田 高輝	秋2	2	1~		水4	否
	10807514		離散数学	深川 大路	秋2	2	1~		火3	可
	10807515		微分積分	中西 義典	春2	2	1~		木4	可
	10807521		確率・統計	阿部 真人	秋2	2	2~		月4	可
	10807522		微分方程式	阿部 真人	春2	2	2~		金2	可
	10807523		数理統計	狩野 裕	秋2	2	2~		水3	可
	10807524		現象と数理	物部 治徳	秋2	2	2~	「微分方程式」を過学期までに修得済 のこと	月5	可
	10807525		最適化法	深川 大路	秋2	2	2~	先行登録	金5	可
	10807531		多変量解析	狩野 裕	秋2	2	3~		月3	可
	10807532		数値解析	深川 大路	春2	2	3~	先行登録	水1	可
	10807533		数理モデル	中西 義典	春2	2	3~	先行登録	木2	可
	10807534		時系列解析	竹内 恵行	秋2	2	3~		水2	可
	10807535		決定理論	池田 和司	秋2	2	3~		月1	可
	B群 データサイエンス科目群 (情報・コンピュータ科目)									
	10807611		情報倫理	四方 奨 川崎 友巳 植平 朋行	春2	2	1~		水2	可
	10807612		プログラミング入門	蒲原 智也 波多野賢治 飯尾 尊優 中畑 裕 太田 公子	春2	2	1~		月2	否
	10807613		コンピュータの仕組み	飯尾 尊優	秋2	2	1~		木4	可
	10807614		プログラミング基礎	蒲原 智也 笹田 大翔	秋2	2	1~	先行登録 「プログラミング入門」の単位を 過学期までに修得済のこと	火2	否
	10807621		情報理論	蒲原 智也	秋2	2	2~	先行登録	月2	可
	10807622		プログラミング応用	蒲原 智也	春2	2	2~	先行登録 「プログラミング基礎」を過学期 までに修得済のこと	火2	否
	10807623		データベースシステム	波多野賢治	秋2	2	2~	先行登録	月1	可
	10807624		情報セキュリティ	笹田 大翔	秋2	2	2~	先行登録	火1	可
	10807631		インターネット技術	蒲原 智也	春2	2	3~		火4	可
	10807632		情報アクセス技術	波多野賢治	春2	2	3~	先行登録	月1	可
	10807633		アルゴリズムとデータ構造	深川 大路	春2	2	3~	先行登録	金3	可
	10807634		ヒューマンコンピュータインタラクション	飯尾 尊優	秋2	2	3~		木3	可
	10807635		翻訳解析	永田 昌明	秋2	2	3~		水2	可

(2017~2023年度生)
開講科目一覧

開講科目一覧 (2017~2023年度生)

選択科目 I C群 体験型教養科目群

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	期間時間	単位	配当年次	備考	時間割	他学部生履修可否
	科目コード	クラスコード								
選 択 科 目 I	C群 体験型教養科目群									
	10807854		体験型教養科目 —環境と情報—	鄭 躍軍 淵上ゆかり 下嶋 篤	秋2	2	1~		月4	否
	10807856		体験型教養科目 —京都の伝統文化—	福田 智子	秋2	2	1~		月3	否
	10807859		体験型教養科目 —Open-Doors Program: Exploring New Orleans—	山内 信幸	秋集中	2	1~3		集中	否
	10807862		体験型教養科目 —Short Program in Heinrich Heine University—	山内 信幸	春集中	2	2~		集中	否
	10807865		体験型教養科目 —ビジネスで活用される アナリティクス—	宿久 洋	春2	2	1~		金5	否
	10807869		体験型教養科目 —デジタルEU・欧州論— 文化と社会—	鄭 躍軍	秋集中	2	1~	「ヨーロッパ・スタディーズEU キャンパスプログラム」参加学生 のみ登録可	集中	可
	10807870		体験型教養科目 —インサイト産業と データサイエンス活用—	宿久 洋	秋集中	2	2~	・講義日程、授業時間はシラバス を参照すること ・履修中止期間については登録要 領を参照すること 「定量的データ分析演習」を登録 した経歴があるか、同時に登録す ること	集中	否
	10807872		体験型教養科目 —メディアの発達と 社会の変容—	真田 英毅	春2	2	1~		月4	否
10807873		体験型教養科目 —地域課題を解決する 新規事業開発—	泉川 大樹 波多野賢治	秋2	2	1~	先行登録 フィールドワークが実施される。 実施日、講義日程はシラバスを確 認すること。	金5	否	
10807874		体験型教養科目 —どうい「つもり」? 他者の心を理解する—	伊藤 謙佑	秋2	2	1~		木2	否	

選択科目Ⅱ G群 免許関係科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	校地	期間 時間	単位	配当 年次	備考			
	科目コード	クラスコード										
G群 選 択 科 目 Ⅱ 他	免許関連科目											
		10809120		情報処理演習	蒲原 智也	田	春2	1	2~			
		10809110		代数学	陽 焜	田	秋2	2	3~			
		10809118		幾何学Ⅰ	柴垣 孝洋	田	春2	2	3~			
		10809119		幾何学Ⅱ	朝田 衛	田	秋2	2	3~			
		11630311	001	教科教育法AⅠ(数学)	① 内田 靖	田	春2	2	3~			
		11630312	001	教科教育法AⅡ(数学)	① 沖田 悟傳	田	秋2	2	3~			
		10809111	001	教科教育法B(数学)	① 赤松 正人	田	春2	2	3~			
			002		② 赤松 正人							
		11630322	001	教科教育法C(数学)	① 大西 俊弘	田	秋2	2	3~			
			002		② 内田 靖							
			003		③ 今井 仁司							
		11610241		教科教育法A(情報)	上田祐一郎	田	春2	2	3~			
		11610242		教科教育法B(情報)	上田祐一郎	田	秋2	2	3~			
		15010230*	001	社会科・地理歴史科教育法	① 本多 千明	田	春2	2	2~	※15010230 2018年度以降生のみ登録可 ※10809128 2017年度生のみ登録可		
		10809128*	051		⑤ 須原 洋次						今	秋2
			052		⑥ 森口 洋一						今	秋2
			053		⑦ 角田 将士						今	春2
			054		⑧ 須原 洋次						今	春2
		15010240*	001	社会科・公民科教育法	① 中澤 静男	田	春2	2	2~	※15010240 2018年度以降生のみ登録可 ※10952239 2017年度生のみ登録可		
		10952239*	051		⑤ 奥野 浩之						今	秋2
			052		⑥ 佐藤 光友						今	春2
			053		⑦ 本多 千明						今	春2
		15010210*	001	社会科教育法Ⅰ	① 中澤 静男	田	春2	2	2~	※15010210 2018年度以降生のみ登録可 ※10952240 2017年度生のみ登録可		
		10952240*	051		⑤ 本多 千明						今	春2
			052		⑥ 奥野 浩之 菊井 雅志						今	春2
		053	⑦ 本多 千明		今						秋2	
	15010220*	001	社会科教育法2	① 佐藤 光友	田	秋2	2	2~	※15010220 2018年度以降生のみ登録可 ※10952241 2017年度生のみ登録可 2019年度以降生は「社会科教育法Ⅰ」 を過学期に履修済であること			
	10952241*	051		⑤ 奥野 浩之 菊井 雅志						今	秋2	
		052		⑥ 児玉 祥一						今	秋2	
		053		⑦ 本多 千明						今	春2	
	15010250*	001	地理歴史科教育法	① 本多 千明	田	秋2	2	2~	※15010250 2018年度以降生のみ登録可 ※10809124 2017年度生のみ登録可			
	10809124*	051		⑤ 児玉 祥一						今	春2	
		052		⑥ 児玉 祥一						今	春2	
		053	⑦ 角田 将士	今	秋2							
	15010260*	001	公民科教育法	① 田中 曜次	田	秋2	2	2~	※15010260 2018年度以降生のみ登録可 ※10952209 2017年度生のみ登録可			
	10952209*	051		⑤ 本多 千明						今	春2	
		052		⑥ 本多 千明						今	秋2	
		053		⑦ 森口 洋一						今	春2	
	10809126	001	教職実践演習(中・高)	① 波多野賢治 山縣 芽生	田	秋2	2	4~	「教職実践演習」を同時登録			
		003		③ 杉尾 武志 大井 将生 中瀬 浩一						田	秋2	
	10809127	001	教育実習指導	① 波多野賢治 山縣 芽生	田	春秋Ⅰ	1	4~	「教職実践演習」を同時登録			
		003		③ 杉尾 武志 大井 将生 中瀬 浩一						田	春秋Ⅰ	
		001		① 波多野賢治 山縣 芽生						田		
	10809115	003	教育実習A	③ 杉尾 武志 大井 将生 中瀬 浩一	田		2	3~				

開講科目一覧 (2017~2023年度生)

選択科目Ⅱ G群 免許関係科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	校地	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	
	科目コード	クラスコード								
G群 免許関係科目 他学部設置科目 他	10809116	001	教育実習B	①	波多野賢治 山縣 芽生	田	2	4~	高一種免のみの場合は「教育実習B」を履修すること	
		003		③	杉尾 武志 大井 将生 中瀬 浩一	田				
	10809117	001	教育実習C	①	波多野賢治 山縣 芽生	田	4	4~	中一種免及び中高両方の場合は「教育実習C」を履修すること	
		003		③	杉尾 武志 大井 将生 中瀬 浩一	田				
	15010010* 10952201*	001	教職概論	①	中瀬 浩一	田	秋2	2	1~	※15010010 2018年度以降生のみ登録可 ※10952201 2017年度生のみ登録可
		002		②	井上 浩史	田	春2			
		003		③	沖田 悟傳	田	春2			
		004		④	沖田 悟傳	田	春2			
		005		⑤	井上 浩史	田	秋2			
		051		⑤	井上 浩史	今	秋2			
		052		⑤	井上 浩史	今	秋2			
		053		⑤	沖田 悟傳	今	春2			
		054		⑤	中瀬 浩一	今	秋2			
		055		⑤	井上 浩史	今	春2			
	15010020* 10952202*	001	教育原理	①	佐藤 光友	田	春2	2	1~	※15010020 2018年度以降生のみ登録可 ※10952202 2017年度生のみ登録可
		002		②	佐藤 光友	田	秋2			
		003		③	佐藤 光友	田	秋2			
		051		⑤	榎本 恵理	今	春2			
		052		⑤	榎本 恵理	今	秋2			
		053		⑤	和田 充弘	今	春2			
054		⑤		森口 洋一	今	秋2				
055		⑤		長谷川精一	今	秋2				
15010030* 11700405*	001	発達と学習の心理学	①	内山伊知郎	田	秋2	2	2019 以降生 1~ 2018 以前生 2~	※15010030 2018年度以降生のみ登録可 ※11700405 2017年度生のみ登録可	
	002		②	田中 希穂	田	春2				
	003		③	田中 希穂	田	秋2				
	004		④	山口 洋介	田	春2				
	005		⑤	石井 僚	田	秋2				
	051		⑤	内山伊知郎	今	春2				
	052		⑤	田中 希穂	今	春2				
	053		⑤	山口 洋介	今	秋2				
	054		⑤	羽野ゆつ子	今	秋2				
	055		⑤	山口 洋介	今	春2				
	056		⑤	田中 希穂	今	秋2				
	15010041		001	教育制度と学校経営	①	柳澤 彰紀				田
002		②	沖田 悟傳		田	秋2				
051		⑤	柳澤 彰紀		今	春2				
052		⑤	柳澤 彰紀		今	春2				
053		⑤	沖田 悟傳		今	秋2				
15010040* 10952203*	001	学校経営と法規	①	柳澤 彰紀	田	春2	2	2~	※15010040 2018年度生のみ登録可 ※10952203 2017年度生のみ登録可	
	002		②	沖田 悟傳	田	秋2				
	051		⑤	柳澤 彰紀	今	春2				
	052		⑤	柳澤 彰紀	今	春2				
	053		⑤	沖田 悟傳	今	秋2				
15010050* 10912117*	001	学校教育社会学	①	野村 洋平	田	秋2	2	2~	※15010050 2018年度以降生のみ登録可 ※10912117 2017年度生のみ登録可	
	051		⑤	高山 育子	今	春2				
	052		⑤	高山 育子	今	秋2				

(2017~2023年度生)
開講科目一覧

開講科目一覧 (2017~2023年度生)

選択科目Ⅱ G群 免許関係科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	校地	期間 時間	単位	配当 年次	備 考
	科目コード	クラスコード							
選 択 科 目 Ⅱ	G 群 免 許 関 係 科 目	15010070* 10952229*	教育課程論	① 佐藤 光友	田	春2	2	2~	※15010070 2018年度以降生のみ登録可 ※10952229 2017年度生のみ登録可
				② 田中 曜次	田	春2			
				③ 佐藤 光友	田	秋2			
				⑤ 佐藤 光友	今	春2			
				⑥ 児玉 祥一	今	春2			
				⑧ 奥野 浩之 佐藤 光友	今	春2			
				⑨ 奥野 浩之	今	秋2			
				⑩ 佐藤 光友	今	秋2			
	15010080* 10952227*	道徳教育の理論と実践	① 倉本 香	田	秋2	2	2~	※15010080 2018年度以降生のみ登録可 ※10952227 2017年度生のみ登録可	
			② 山口 洋介	田	春2				
			③ 山口 洋介	田	秋2				
			⑤ 和田 充弘	今	春2				
			⑥ 倉本 香	今	春2				
			⑧ 山口 洋介	今	春2				
			⑨ 山口 洋介	今	秋2				
			⑩ 和田 充弘	今	秋2				
	15010091	特別活動と総合的な 学習の時間の指導法	① 稲田 雅巳	田	春2	2	2~	「特別活動論」を未履修かつ未登録であること 「特別活動論」を履修済で、卒業後に大学院生あるいは科目等履修生として一種免許を取得する予定の者は、免許資格関係科目(M登録科目)としてのみ登録できる 履修を希望する者は、事前に免許資格課程センターに申し出ること	
			② 井上 浩史	田	秋2				
			③ 柳澤 彰紀	田	秋2				
			⑤ 柳澤 彰紀	今	春2				
			⑥ 稲田 雅巳	今	春2				
			⑧ 稲田 雅巳	今	秋2				
			⑨ 柳澤 彰紀	今	秋2				
			⑩ 長谷川 豊	今	秋2				
	15010111	教育方法とICT活用の 理論と実践	① 岡本 真彦	田	秋2	2	2~	③・④・⑤・⑧クラスは先行登録 2022年度以降生のみ登録可	
			② 田中 希穂	田	春2				
			③ 岡本 真彦	田	春2				
			④ 岡本 真彦	田	春2				
			⑤ 岡本 真彦	田	秋2				
			⑥ 平野 哲司	今	春2				
			⑧ 田中 希穂	今	春2				
			⑨ 沼田 潤	今	秋2				
			⑩ 池田 恭浩	今	秋2				
			⑪ 平野 哲司	今	春2				
	15010110* 10952235*	教育方法論	① 岡本 真彦	田	秋2	2	2~	③・④・⑤・⑧クラスは先行登録 ※15010110 2018~21年度生のみ登録可 ※10952235 2017年度生のみ登録可	
② 田中 希穂			田	春2					
③ 岡本 真彦			田	春2					
④ 岡本 真彦			田	春2					
⑤ 岡本 真彦			田	秋2					
⑥ 平野 哲司			今	春2					
⑧ 田中 希穂			今	春2					
⑨ 沼田 潤			今	秋2					
⑩ 池田 恭浩			今	秋2					
⑪ 平野 哲司			今	春2					

2017~2023年度生
開講科目一覧

開講科目一覧 (2017~2023年度生)

選択科目Ⅱ G群 免許関係科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	校地	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	
	科目コード	クラスコード								
G群 免許関係科目 他学部設置科目 他	15010120* 11700412*	001	生徒・進路指導の理論と方法	①	神山 貴弥	田	秋2	2	2~	※15010120 2018年度以降生のみ登録可 ※11700412 2017年度生のみ登録可
		002		②	稲田 雅巳	田	秋2			
		003		③	山本 桂子	田	春2			
		004		④	井上 浩史	田	春2			
		051		⑤	稲田 雅巳	今	春2			
		052		⑥	井上 浩史	今	春2			
		053		⑦	稲田 雅巳	今	秋2			
		054		⑧	井上 浩史	今	春2			
		055		⑨	山本 桂子	今	秋2			
	15010141	001	教育相談の理論と方法	①	石川 信一	田	春2	2	3~	2019年度以降生のみ登録可
		002		②	市来百合子	田	春2			
		003		③	牧 郁子	田	秋2			
		051		④	藤井 恭子	今	秋2			
		052		⑤	河崎 俊博	今	秋2			
		053		⑥	河崎 俊博	今	春2			
		054		⑦	松原 耕平	今	春2			
	15010140* 11700411*	001	学校カウンセリング	①	石川 信一	田	春2	2	3~	※15010140 2018年度以降生のみ登録可 ※11700411 2017年度生のみ登録可
		002		②	市来百合子	田	春2			
		003		③	牧 郁子	田	秋2			
		051		④	藤井 恭子	今	秋2			
		052		⑤	河崎 俊博	今	秋2			
		053		⑥	河崎 俊博	今	春2			
		054		⑦	松原 耕平	今	春2			
	15010160	001	スクールインターンシップ	①	柳澤 彰紀	田	集中	2	2~	先行登録科目 登録時までに「教職概論」を履修済であること 募集校種の免許状の教職課程登録を行っていること
		051		⑤	稲田 雅巳	今	集中			
	15010060* 10952237*	001	人権教育論	①	下嶋 篤 長谷部 陽一郎 松倉 啓太 田中 希穂 余語 真夫 吉田 詩子 望月 優史 中西 義典 岩田 昌太郎 柳澤 彰紀 李 元重 岡崎 享 鄭 恭躍	田	秋2	2	1~	※15010060 2018年度以降生のみ登録可 ※10952237 2017年度生のみ登録可
	10240107	001	哲学概論 (1)	①	新 茂之	田	春2	2	3~	
		051		⑤	新 茂之	今	春2			
10240108	001	哲学概論 (2)	①	新 茂之	田	秋2	2	3~		
	051		⑤	新 茂之	今	秋2				
10240109	051	倫理学概論 (1)	⑤	中村 拓也	今	春2	2	3~		
10240110	051	倫理学概論 (2)	⑤	中村 拓也	今	秋2	2	3~		
10270316	001	日本文化史概説 (1)	①	矢内 一磨	田	春2	2	2~		
	051		⑤	北 康弘	今	春2				
	101		⑩	北 康弘	今	春2				
10270317	001	日本文化史概説 (2)	①	矢内 一磨	田	秋2	2	2~		
	051		⑤	北 康弘	今	秋2				
	101		⑩	北 康弘	今	秋2				
10270078	001	地誌学	①	古関 大樹	田	春2	2	2~		
	051		⑤	古関 大樹	今	春2				
	052		⑥	佐野 静代	今	秋2				
	101		⑩	佐野 静代	今	春2				

選択科目Ⅱ G群 免許関係科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	校地	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	
	科目コード	クラスコード								
選 択 科 目 Ⅱ	G 群 免 許 関 係 科 目	10270101	西洋文化史概説 (1)	①	坂井 聰	田	春2	2	2~	
				⑤	波部 雄一郎	今	春2			
				⑨	井福 剛	今	春2			
				⑬	波部 雄一郎	今	秋2			
				⑯	井福 剛	今	秋2			
	10270102	西洋文化史概説 (2)	①	中村 年延	田	秋2	2	2~		
			⑤	吉門 昌宏	今	秋2				
			⑨	大谷 誠	今	秋2				
			⑬	大谷 誠	今	春2				
			⑯	中村 年延	今	春2				
	10270117	東洋文化史概説 (1)	①	山崎 岳	田	春2	2	2~		
			⑤	城地 孝	インタ	春2				
			⑩	城地 孝	インタ	秋2				
	10270118	東洋文化史概説 (2)	①	山崎 岳	田	秋2	2	2~		
			⑤	荻 恵里子	今	秋2				
			⑩	荻 恵里子	今	春2				
	10270127	人文地理学 (1)	①	川口 洋	田	春2	2	2~		
			⑤	本岡 拓哉	今	春2				
⑩			佐野 静代	今	春2					
10270128	人文地理学 (2)	①	川口 洋	田	秋2	2	2~			
		⑤	本岡 拓哉	今	秋2					
		⑩	佐野 静代	今	秋2					
10270420	地理学総論 (1)	①	津村 宏臣	田	春2	2	2~			
		⑤	津村 宏臣	今	春2					
		⑩	古関 大樹	今	春2					
10270421	地理学総論 (2)	①	津村 宏臣	田	秋2	2	2~			
		⑤	津村 宏臣	今	秋2					
		⑩	稲田 七海	今	秋2					
10912003	社会学概論	①	平尾 一朗	田	秋2	4	1~			
		⑤	鵜飼 孝造	今	秋2					
		⑨	松村 淳	今	通年					
		⑬	西岡 暁廣	今	春2					
		⑯	武田 祐佳	今	秋2					
10809125	経済原論	①	小田 勇一	田	春秋2	4	3~			
		⑤	四谷 晃一 小田 勇一	インタ	春2					
15030010* 10809122*	生涯学習概論	①	佐藤 聡子	田	秋2	2	1~	※15030010 2018年度以降生のみ登録可 ※10809122 2017年度生のみ登録可		
		⑤	神部 純一	今	春2					
		⑨	神部 純一	今	秋2					
11700001	心理学概論 (1)	①	青山謙二郎	田	春2	2	1,2			
		②	余語 真夫	田	春2					
		⑤	井上 毅	今	春2					
		⑨	敦賀麻理子	今	春2					
		⑬	谷口 康祐	今	春2					
11700002	心理学概論 (2)	①	田中あゆみ	田	秋2	2	1,2			
		②	余語 真夫	田	秋2					
		⑤	井上 毅	今	秋2					
		⑨	敦賀麻理子	今	秋2					
		⑬	谷口 康祐	今	秋2					
10270410	博物館情報メディア論	①	清水 真澄 鋤柄 俊夫 並木 晴香	田	秋2	2	2~			
		⑤	清水 真澄 鋤柄 俊夫 並木 晴香	今	春2					

開講科目一覧 (2017~2023年度生)

選択科目Ⅱ G群 免許関係科目/自由科目

科目群	登録コード		科目名・クラス	担当者	校地	期間 時間	単位	配当 年次	備 考	
	科目コード	クラスコード								
選 択 科 目 Ⅱ	G群 免許関係科目	10402643	日本の憲法	①	二宮 貴美	田	春2	2	1~	
				②	二宮 貴美	田	春2			
				③	二宮 貴美	田	秋2			
				⑤	田中 謙太	インタ	春2			
				⑫	二宮 貴美	今	秋2			
				⑬	松岡 千紘	今	秋2			
	同志社女子大学単位互換科目									
	大学コンソーシアム京都単位互換科目									
	外国人留学生科目【外国人留学生のみ履修することができる】									
	他学部設置科目									
自 由 科 目		11610145	情報メディア		松岡 諒	インタ	秋2	2	1~	
		11610243	情報と職業		下坂 光	田	春2	2	3~	
		11630323	コンピュータと数学		多久和英樹 竹山 理	田	秋2	2	3~	
		11610111	コンピュータグラフィックス		渡部 広一	田	秋2	2	1~	
		11610220	情報メディア実習		加藤 恒夫	田	春2	1	1~	
		11610244	情報と社会		奥田 環	インタ	秋2	2	1~	
		15010151	特別ニーズ教育論	①	廣中 嘉隆	田	秋2	2	1~	2019年度以降生のみ登録可
				②	中瀬 浩一	田	春2			
				③	中瀬 浩一	田	秋2			
				④	廣中 嘉隆	田	春2			
				⑤	中瀬 浩一	今	春2			
				⑫	中瀬 浩一	今	秋2			
				⑬	中瀬 浩一	今	春2			
				⑭	中瀬 浩一	今	秋2			
				⑮	中瀬 浩一	今	春2			
				⑯	中瀬 浩一	今	秋2			
		15010150* 10952242*	特別支援と福祉の教育	①	廣中 嘉隆	田	秋2	2	1~	※15010150 2018年度生のみ登録可 ※10952242 2017年度生のみ登録可
				②	中瀬 浩一	田	春2			
				③	中瀬 浩一	田	秋2			
				④	廣中 嘉隆	田	春2			
	⑤			中瀬 浩一	今	春2				
	⑫			中瀬 浩一	今	秋2				
	⑬			中瀬 浩一	今	春2				
	⑭			中瀬 浩一	今	秋2				
	15040010	学校図書館サービス論		井上 靖代	今	春2	2	2~		

(2017~2023年度生) 開講科目一覧

免許資格関係について

●教職課程・博物館学芸員課程・図書館司書課程

各種の免許・資格の取得を志望する皆さんのために以下の課程が設置されています。

各課程の詳しい内容、必要な科目の履修については、『免許・資格関係履修要項』を参照してください。

課 程	免許・資格の種類
教職課程	中学校・高等学校の教員免許（＊）
博物館学芸員課程	博物館（美術館・資料館・宝物館・動物園・水族館など）の専門職としての「学芸員」資格
図書館司書課程	図書館の専門職員としての「司書」資格
学校図書館司書教諭課程	「学校図書館司書教諭」資格 教員免許状を有することが取得条件であるため、 教職課程 とともに履修しなければならない。

＊神戸親和大学通信教育部および佛教大学教育学部（通信教育課程）との連携プログラムにより、高等学校一種免許状とともに、小学校一種免許状を取得することが可能。（プログラム履修料は、別途必要。詳しくは、免許・資格課程センター事務室へ相談してください。）

●社会調査士

「社会調査士」とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」のことです。社会調査士資格には、「社会調査士」と「専門社会調査士」の2種類があります。

同志社大学文化情報学部では、所定の科目の単位を修得して申請すれば、学部卒業時に「社会調査士」の認定が受けられます。

社会調査士資格取得のためのカリキュラム

社会調査士資格取得のためには、以下のA～Gに対応する授業科目の単位を修得する必要があります。

<2023年度以前生>

	文化情報学部設置科目名	配当年次
【A】社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査入門	1～
【B】調査設計と実施方法に関する科目	社会調査法	2～
【C】基本的な資料とデータの分析に関する科目	データサイエンス入門	1～
【D】社会調査に必要な統計学に関する科目	データサイエンス基礎	1～
【E】量的データ解析の方法に関する科目	定量的データ分析または定性的データ分析	2～
【G】社会調査の実習を中心とする科目	社会調査演習	2～

<2024年度以降生>

	文化情報学部設置科目名	配当年次
【A】社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査入門	1～
【B】調査設計と実施方法に関する科目	社会調査法	2～
【C】基本的な資料とデータの分析に関する科目	統計学入門	1～
【D】社会調査に必要な統計学に関する科目	統計学	1～
【E】量的データ解析の方法に関する科目	多変量解析	2～
【G】社会調査の実習を中心とする科目	社会調査演習	2～

大学在学中には、「社会調査士（キャンディデイト）」を申請することができます。

社会調査士（キャンディデイト）の要件は、

- ① 在籍期間が2年以上であること
- ② 社会調査士科目を設置している大学（機関）で標準カリキュラムA～Gに対応した科目単位を申請時までに、3科目以上単位修得していること
- ③ ②の単位修得済み科目と申請年度履修中の科目の合計が5科目以上であること

です。取得見込みの申請をしようとする学生は、要件を満たすよう履修・登録に留意してください〔とくに3年生の登録時〕。なお、秋学期開講科目について、春学期の時点では、科目登録をしていれば、「履修中」とみなします。

社会調査士資格取得については、別途掲示板等でお知らせします。

[社会調査協会ホームページ] <http://jasr.or.jp>

●検定・認定試験（参考）

情報処理技術者試験

情報処理技術者試験は、「情報処理の促進に関する法律」に基づき経済産業省が、情報処理技術者としての「知識・技能」が一定以上の水準であることを認定している国家試験です。

情報システムを構築・運用する「技術者」から情報システムを利用する「エンドユーザ（利用者）」まで、ITに関係するすべての人に活用いただける試験として実施しています。特定の製品やソフトウェアに関する試験ではなく、情報技術の背景として知るべき原理や基礎となる技能について、幅広い知識を総合的に評価しています。（合格者には、経済産業大臣から合格証書が交付されます。）

試験区分	試験の対象
ITパスポート試験	職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識をもち、情報技術に携わる業務に就くか、担当業務に対して情報技術を活用していこうとする者
情報セキュリティ マネジメント試験	情報システムの利用部門にあつて、情報セキュリティリーダーとして、部門の業務遂行に必要な情報セキュリティ対策や組織が定めた情報セキュリティ諸規程（情報セキュリティポリシーを含む組織内諸規程）の目的・内容を適切に理解し、情報及び情報システムを安全に活用するために、情報セキュリティが確保された状況を実現し、維持・改善する者
基本情報技術者試験	高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付けた者
応用情報技術者試験	高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者
ITストラテジスト試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、企業の経営戦略に基づいて、ビジネスモデルや企業活動における特定のプロセスについて、情報技術を活用して改革・高度化・最適化するための基本戦略を策定・提案・推進する者。また、組込みシステムの企画及び開発を統括し、新たな価値を実現するための基本戦略を策定・提案・推進する者
システムアーキテクト試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、ITストラテジストによる提案を受けて、情報システム又は組込みシステムの開発に必要となる要件を定義し、それを実現するためのアーキテクチャを設計し、情報システムについては開発を主導する者
プロジェクトマネージャ試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、システム開発プロジェクトの責任者として、プロジェクト計画を立案し、必要となる要員や資源を確保し、計画した予算、納期、品質の達成について責任をもってプロジェクトを管理・運営する者
ネットワーク スペシャリスト試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、ネットワークに関係する固有技術を活用し、最適な情報システム基盤の企画・要件定義・開発・運用・保守において中心的な役割を果たすとともに、固有技術の専門家として、情報システムの企画・要件定義・開発・運用・保守への技術支援を行う者
データベース スペシャリスト試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、データベースに関係する固有技術を活用し、最適な情報システム基盤の企画・要件定義・開発・運用・保守において中心的な役割を果たすとともに、固有技術の専門家として、情報システムの企画・要件定義・開発・運用・保守への技術支援を行う者
エンベデッドシステム スペシャリスト試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、組込みシステム開発に関係する広い知識や技能を活用し、最適な組込みシステム開発基盤の構築や組込みシステムの設計・構築・製造を主導的に行う者
ITサービスマネージャ試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、情報システム全体について、安定稼働を確保し、障害発生時には被害の最小化を図るとともに、継続的な改善、品質管理など、安全性と信頼性の高いサービスの提供を行う者
システム監査技術者試験	高度IT人材として確立した専門分野をもち、被監査対象から独立した立場で、情報システムや組込みシステムに関するリスク及びコントロールを総合的に点検・評価し、監査結果をトップマネジメントなどに報告し、改善を勧告する者

(情報処理推進機構 <https://www.ipa.go.jp/shiken/index.html>)

[試験に関する問合せ先]

独立行政法人 情報処理推進機構

●公認スポーツ指導者

公益財団法人日本スポーツ協会が実施する公認スポーツ指導者養成講習会の共通科目および専門科目を修了することにより、スポーツ指導基礎資格、競技別指導者資格フィットネス系資格、メディカル・コンディショニング系資格などの資格取得が可能となります。同志社大学では、卒業後当該養成講習会時に修了証明書により共通科目の講習・試験の免除を受けることが可能となります。

(主な資格)

ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー、アスレティックトレーナー

手続き等の詳細は京田辺キャンパス教務センター（スポーツ健康科学部）にお問い合わせください。

[日本スポーツ協会ホームページ] <https://www.japan-sports.or.jp>

充実した学生生活を過ごすために

①文化情報学部事務室（京田辺キャンパス 夢告館1F）

履修科目の登録・学業成績・試験など教務に関する窓口です。

（事務室開室時間）

月～金曜日：9:00～11:30, 12:30～17:00

※閉室日、時間変更については同志社大学ホームページ等で連絡します。

②文化情報学部文献室（京田辺キャンパス 夢告館1F）

文化情報学部所蔵の図書・雑誌・非図書資料の利用について

1. 利用について

次ページ「同志社大学文化情報学部文献室の利用に関する規則」を遵守すること。

利用資格：文化情報学部3年次生、大学院学生、大学院研究生・研修生、大学院聴講生、研究室主任が必要と認めた者。

開室時間：月～金・9:00～17:00 ※夏期、年末・年始は別に定める。

2. 貸出・閲覧手続

入室時に、入退室記入表に所定事項を記入。荷物はロッカーへ入れること。

学生証を持参のうえ、文化情報学部・文化情報学研究科事務室で手続を行うこと。

3. 機器の利用について

文献室に設置する機器（複写機、印刷機、プリンタ、裁断機、製本機、マイクロリーダー等）を利用するときは、係員に申し出てその指示に従わなければならない。

③掲示板

登校の際は、必ず掲示板を見るようにしてください。同志社大学ホームページ、大学が交付した電子メールアドレス宛や学修支援システムDUET等も確認するようにしてください。

掲示板の場所	掲 示 内 容
夢 告 館（南側）	文化情報学部連絡事項・試験・レポート
知真館1号館（北側）	授業時間割・休講・補講・教室変更等

④文化情報学会

同志社大学文化情報学会は、文化情報学の研究と普及を目的に設立されました。学会では、研究紀要「文化情報学」の発行、講演会の開催等を行っています。

文化情報学部の学生は、全員文化情報学会の会員ですので、「文化情報学」を受取り、勉学に役立ててください。

⑤大学院進学について

大学院文化情報学研究科博士課程（前期課程・後期課程）があり、文化情報学についてより高度な教育・研究活動を展開しています。

同志社大学文化情報学部文献室の利用に関する規則

(利用資格)

第1条 同志社大学文化情報学部文献室を利用することができる者は、次のとおりとする。利用にあたっては、原則として学生証または身分証明書を提示しなければならない。

- (1) 文化情報学部専任教員、客員教員
- (2) 文化情報学部嘱託講師、客員研究員
- (3) 文化情報学部3年次生以上で「ジョイント・リサーチ」科目を登録した者
- (4) 文化情報学部研究補助員
- (5) 文化情報学研究科学生
- (6) 文化情報学部以外の本学専任教員、客員教員
- (7) 文化情報学部以外の本学嘱託講師、客員研究員
- (8) 文化情報学研究科以外の本学の大学院学生
- (9) 文化情報学部以外の本学の4年次生以上の学生
- (10) 学外研究者（大学院学生含む）で所属長の依頼状、またはそれに準ずる書面を提出した者
- (11) 研究室主任の許可を得た者

(開室時間)

第2条 開室時間は、別に定める場合のほか、平日は午前9時から午後5時までとする。

(入退室手続)

第3条 入室および退室をするときは、入退室記入表に所定事項を記入しなければならない。

- 2 入室者はノート、筆記用具以外のものを備付けのロッカーに納めなければならない。
- 3 前2項の規定は文化情報学部専任教員および客員教員にはこれを適用しない。

(閲覧)

第4条 閲覧のため借り受けた図書は、文献室外に帯出することはできない。

- 2 閲覧後の図書は、所定の返却棚に返却しなければならない。

(借用冊数・期間・手続)

第5条 借用することのできる図書の冊数および借用期間は、次のとおりとする。借用にあたっては、原則として身分証明書を提示しなければならない。

- | | | |
|---|-------|-------|
| (1) 文化情報学部専任教員、客員教員 | 50冊以内 | 1年以内 |
| (2) 文化情報学部嘱託講師、客員研究員 | 5冊以内 | 14日以内 |
| (3) 文化情報学部3年次生以上で「ジョイント・リサーチ」科目を登録した者 | 5冊以内 | 14日以内 |
| (4) 文化情報学部研究補助員 | 5冊以内 | 14日以内 |
| (5) 文化情報学研究科学生 | 10冊以内 | 28日以内 |
| (6) 文化情報学部以外の本学専任教員、客員教員 | 50冊以内 | 90日以内 |
| (7) 文化情報学部以外の本学嘱託講師、客員研究員 | 5冊以内 | 14日以内 |
| (8) 文化情報学研究科以外の本学の大学院学生 | 10冊以内 | 28日以内 |
| (9) 文化情報学部以外の本学の4年次生以上の学生 | 5冊以内 | 14日以内 |
| (10) 学外研究者（大学院学生含む）で所属長の依頼状、またはそれに準ずる書面を提出した者 | 5冊以内 | 14日以内 |
| (11) 研究室主任の許可を得た者 | 5冊以内 | 14日以内 |
- 2 図書の借用を希望する者は、受付カウンターで所定の手続きをとること。

(返却)

第6条 借用中の図書は、借用期間内に返却しなければならない。

- 2 借用図書の返却は受付カウンターで行なう。

(借用期間の更新)

第7条 借用期間が満了した場合において他に利用希望者がいないときは、借用期間の更新をすることができる。

- 2 借用期間の更新は、図書をいったん返却したうえあらためて借用手続をとることによって行なう。

(返却請求)

第8条 研究室主任は、他に利用希望者があるときまたは事務整理上必要があるときは、借用期間中の図書の返却を求めることができる。

(利用資格の喪失)

第9条 第1条に掲げる者が借用期間中にその身分を失ったときは、借用中の図書を直ちに返却しなければならない。

(帯出禁止図書)

第10条 雑誌、参考図書およびマイクロ資料ならびに研究室主任が指定した図書は借用することができない。ただし、研究室主任の許可する図書については、文化情報学部専任教員にかぎり所定の手続を経て1週間以内に限り研究室個室への帯出をすることができる。

(機器の利用)

第11条 文献室内に設置する機器（複写機、断裁機）を利用する時は、係員に申し出てその指示に従わなければならない。

- 2 設置されている機器を利用したときは、その都度実費を支払わなければならない。

(図書の紛失など)

第12条 利用中の図書および機器について汚損、破損または紛失などの事故が生じた時は、利用者は直ちに係員に申し出てその指示に従わなければならない。

(一般的禁止事項)

第13条 文献室内での喫煙および飲食は禁止する。

(細則)

第14条 この規則に定めるもののほか、文献室の利用に関し必要な事項は別に定める。

(改廃)

第15条 この規則の改廃は、文化情報学部教授会において決定する。

附 則

1 この規則は2019年4月17日から施行する。

第1章 総 則

第1条 本学は、教育基本法にのっとり、学校教育法の定める大学として、学術を教授研究し、あわせてキリスト教的教育の特色を発揮し、国家社会に有用な人物を養成することを目的とする。

第1条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、文部科学大臣の定めるところにより、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 点検及び評価に関する規程は、別に定める。

3 本学は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

4 本学は、第1項及び前項に規定する点検及び評価の結果並びに認証評価の結果を公表するとともに、教育研究活動等について不断の見直しを行う。

第1条の3 本学は、教育研究活動等の状況について、適切な体制を整えた上で、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって、公表するものとする。

第2条 本学に、学部、大学院その他の教育研究組織を置く。

2 大学院に関する学則は、別にこれを定める。

第2条の2 本学は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各学部において学科毎に定め、別表Ⅱに記載する。

第2章 学 部

第1節 修業年限、学年、学期及び休業日

第3条 学部の修業年限は、4年とする。

2 在学年限は、8年を超えることができない。

第4条 削除

第5条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年を次の2学期に分ける。

春学期 4月1日から9月20日まで

秋学期 9月21日から翌年3月31日まで

第6条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 「国民の祝日に関する法律」に定める休日
 - (3) 創立記念日 11月29日
 - (4) キリスト降誕日 12月25日
 - (5) 夏期、冬期及び春期休業に関しては、別に定める。
- 2 前項に規定する休業日において、必要ある場合は授業を行うことがある。また休業日は、臨時に定めることができる。

第2節 学部学科等の組織

第7条 本学に、次の学部学科を置く。

神学部

神学科

文学部

英文学科

哲学科

美学芸術学科

文化史学科

国文学科

社会学部

社会学科

社会福祉学科

メディア学科

産業関係学科

教育文化学科

法学部

法律学科

政治学科

経済学部

経済学科

商学部

商学科

政策学部

政策学科

文化情報学部

文化情報学科

理工学部

インテリジェント情報工学科

情報システムデザイン学科

電気工学科

電子工学科

機械システム工学科

機械理工学科

機能分子・生命化学科

化学システム創成工学科

環境システム学科

数理システム学科

生命医科学部

医工学科

医情報学科

医生命システム学科

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学科

心理学部

心理学科

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル・コミュニケーション学科

グローバル地域文化学部

グローバル地域文化学科

第7条の2 削除

第7条の3 本学にキリスト教文化センターを置く。

2 キリスト教文化センターに関する規程は、別に定める。

第7条の4 本学にハリス理化学研究所を置く。

2 ハリス理化学研究所に関する規程は、別に定める。

第7条の5 削除

第7条の6 本学に歴史資料館を置く。

2 歴史資料館に関する規程は、別に定める。

第7条の7 削除

第7条の8 本学に全学共通教養教育センターを置く。

2 全学共通教養教育センターに関する規程は、別に定める。

- 第7条の9 本学に国際教育インスティテュートを置く。
- 2 国際教育インスティテュートに関する規程は、別に定める。
- 第7条の10 本学に免許資格課程センターを置く。
- 2 免許資格課程センターに関する規程は、別に定める。
- 第7条の11 本学に学習支援・教育開発センターを置く。
- 2 学習支援・教育開発センターに関する規程は、別に定める。
- 第7条の12 削除
- 第7条の13 削除
- 第7条の14 本学に国際教養教育院を置く。
- 2 国際教養教育院に関する規程は、別に定める。

第3節 教育課程及び履修方法

- 第8条 各学部学科の教育課程は、各学部学科が学校教育法施行規則第165条の2第1項第1号及び第2号により定める方針に基づき編成し、履修方法とともに別表Ⅱにこれを定める。
- 第8条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 2 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3 本学は、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。
- 第8条の3 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
- 第9条 学生は、所属学部学科の規定に従って、一定単位数の授業科目を履修しなければならない。
- 2 教育職員免許状を得るための資格及び司書、司書教諭、学芸員の資格を得たい者は、特に指定された授業科目を履修しなければならない。
- 3 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。
- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める。
- 4 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。
- 第9条の2 本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が学部の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で認定することができる。
- 2 第27条の2により留学した大学において単位を修得した者には、前項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

- 3 外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し修得した単位及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修し修得した単位を、前2項により認定した単位と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。
- 第9条の3 本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部教授会の定めるところにより単位を与えることができる。
- 2 前項の単位数は、前条第1項、第2項及び第3項と合わせて60単位を超えないものとする。
- 第9条の4 本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学において修得したのものとして認定することができる。
- 2 本学は、各学部において教育上有益と認めるときは、学生が入学前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。
- 3 前2項の単位数は、転入学及び編入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第9条の2第1項、第2項及び第3項並びに前条第1項により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 第9条の5 第8条の2第2項の授業の方法により修得する単位は、各学部における卒業に必要な単位数から64単位を除いた単位数を上限として、卒業に必要な単位とすることができる。
- 第9条の6 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示する。
- 2 本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。
- 第10条 削除

第4節 単位の授与及び成績評価

- 第11条 一の授業科目を履修した学生に対しては、試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えるものとする。
- 第12条 削除
- 第13条 学修の成果に係る評価は、A、B、C、D及びFで評価し、D以上の成績を合格とする。ただし、学部の定めるところにより、特定の授業科目については学修の成果に係る評価を、合格又は不合格で評価することができる。
- 第14条 疾病その他やむを得ない事由により受験できなかった場合は、その授業科目の試験日の翌日から起算して3日以内に願い出れば、追試験を行うことがある。

第5節 卒業及び学位の授与

第15条 学部学科所定の教育課程に従って授業科目を履修し、所定の単位を修得した者に卒業の認定を行い、卒業した学部学科の種類により次の学士の学位を授与する。在学期間に関しては、学部の定めるところにより、所定の単位を優れた成績で修得したと認められる者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

学士（神学、英文学、哲学、美学芸術学、文化史学、国文学、社会学、社会福祉学、メディア学、産業関係学、教育文化学、法学、政治学、経済学、商学、政策学、文化情報学、工学、理学、スポーツ健康科学、心理学、グローバル・コミュニケーション学、グローバル地域文化学、国際教養）

2 前項に規定する学位には、「学士（神学）（同志社大学）」のように明記することを必要とする。

第6節 収容定員及び教育研究実施組織

第16条 各学部の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部学科別	入学定員	編入学定員	収容定員
神学部	63名		252名
神学科	63名		252名
文学部	705名		2,820名
英文学科	315名		1,260名
哲学科	70名		280名
美学芸術学科	70名		280名
文化史学科	125名		500名
国文学科	125名		500名
社会学部	442名		1,768名
社会学科	90名		360名
社会福祉学科	98名		392名
メディア学科	88名		352名
産業関係学科	87名		348名
教育文化学科	79名		316名
法学部	893名		3,572名
法律学科	683名		2,732名
政治学科	210名		840名
経済学部	893名		3,572名
経済学科	893名		3,572名
商学部	893名		3,572名
商学科	893名		3,572名
政策学部	420名		1,680名
政策学科	420名		1,680名
文化情報学部	294名		1,176名
文化情報学科	294名		1,176名
理工学部	756名	20名	3,064名
インテリジェント情報工学科	83名	2名	336名
情報システムデザイン学科	83名	2名	336名
電気工学科	80名	2名	324名
電子工学科	86名	2名	348名
機械システム工学科	96名	2名	388名
エネルギー機械工学科	70名	2名	284名
機能分子・生命化学科	83名	2名	336名
化学システム創成工学科	83名	2名	336名
環境システム学科	51名	2名	208名
数理システム学科	41名	2名	168名
生命医科学部	265名		1,060名
医工学科	100名		400名
医情報学科	100名		400名
医生命システム学科	65名		260名
スポーツ健康科学部	221名		884名
スポーツ健康科学科	221名		884名
心理学部	158名		632名
心理学科	158名		632名
グローバル・コミュニケーション学部	158名		632名
グローバル・コミュニケーション学科	158名		632名
(うち、英語コース)	85名		340名
グローバル地域文化学部	190名		760名
グローバル地域文化学科	190名		760名
計	6,351名	20名	25,444名

第17条 本学に、教授、准教授、助教及び助手を置く。

2 本学に、特別任用教授、特別任用助教（有期研究員）及び特別任用助手（有期研究員）を置くことができる。

3 本学に、客員教授、客員准教授及び客員助教を置くことができる。

第17条の2 削除

第18条 本学に、学長を置く。

2 学長は、本学を代表するとともに、校務をつかさどり、教職員を統括する。

3 学長は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修等を実施する。

4 学長に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の2 本学に、副学長を置く。

2 副学長に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の3 本学に、学部長を置く。

2 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

第18条の4 本学に、機構長、部長、所長、館長、室長、別科長等を置く。

第18条の5 本学に、学長補佐を置くことができる。

2 学長補佐に関し必要な事項は、別に定める。

第18条の6 本学に、その事務を遂行するため、職員を置く。

2 事務組織に関する規程は、別に定める。

第19条 本学の各学部にて教授会を置く。

2 教授会は、学部に関する次の事項を審議する。

(1) 学生の入学、退学、休学、卒業等に関する事項及び学位の授与に関する事項

(2) 教育課程に関する事項

(3) 教員の人事に関する事項

(4) 学則、学部諸規程に関する事項

(5) その他、学部長がつかさどる教育研究に関する事項

3 教授会は、学長から諮問された事項について審議する。

4 教授会は、学生の入学、卒業及び学位の授与、その他教育研究に関する重要な事項で教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

5 教授会の組織及び運営に関する事項は、各学部教授会において定める。

第19条の2 本学に部長会を置く。

2 大学及び各学部に通ずる重要事項は、部長会で審議する。

3 部長会に関する規定は、別に定める。

第19条の3 本学に大学評議会を置く。

2 大学評議会は、本学の中長期的方針に関わる事項を審議し、その達成状況を検証する。

3 大学評議会に関する規則は、別に定める。

第19条の4 本学に大学教授会を置く。

2 大学教授会は、大学の重要な事項に関し学長の諮問に応じる。

第7節 入学、転入学、編入学、休学、留学、退学、除籍及び再入学

第20条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、学部が必要とする時には、入学の時期を学期の始めとすることができる。

第21条 学部第1年次に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当しなければならない。

(1) 高等学校卒業生

(2) 中等教育学校卒業生

(3) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）

(4) 高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって、本学の定める分野において特に優れた資質を有すると認められたもの

(5) 大学への入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第150条に規定された者

第22条 前条の資格を有する入学志願者について、各学部が学校教育法施行規則第165条の2第1項第3号により定める方針に基づき、高等学校卒業程度の入学試験を行い、入学を許可する。

第23条 学部第2年次及び第3年次では、第2項又は第3項の各号のいずれかに該当する入学志願者について選考を行い、転入学又は編入学を許可することがある。

2 第3年次に転入学又は第2年次若しくは第3年次に編入学することができる者は、次のとおりとする。

(1) 大学第2年次修了者

(2) 短期大学卒業生

(3) 高等専門学校卒業生

(4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

(5) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として、学校教育法施行規則第155条第2項又は同第177条に規定された者並びに文部省令第1号により大学への編入学を認められた者

(6) 高等学校の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

3 第2年次に転入学することができる者は、次のとおりとする。

(1) 大学第1年次修了者

(2) 外国の大学において前号に準じる課程を修了した者

4 第3年次に転入学又は編入学することを許可された転入学学生及び編入学学生の修業年限は2年とし、在学年限は6年を超えることができない。

5 第2年次に転入学又は編入学することを許可された転入学学生及び編入学学生の修業年限は3年とし、在学年限は7年を超えることができない。

第24条 入学志願者は、指定期日までに所定の書類を提出し、別表Iの5に定める入学検定料を納入しなければならない。

2 災害等の特別な事情により入学検定料の納入が困難であると認められる入学志願者には、申請に基づき、入学検定料を免除することがある。

3 前項の入学検定料の免除の詳細は、別に定める。

第25条 入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

2 本学の複数の学部・学科・コース（以下「学部等」という。）の入学許可を得て、一方の学部等の学費を納入した者が、もう一方の学部等へ入学を希望する場合は、申請に基づき、既に納入した学費を、もう一方の学部等の学費に振替を認めることがある。

3 前項の振替の詳細は、別に定める。

第26条 連帯保証人は1名とし、父又は母（父母のいない者は、これにかわる親戚等）とする。

2 連帯保証人は、その学生の在籍中、本学学費及び本学に損害を与えた場合の損害賠償等の債務につき、極度額の範囲において連帯保証しなければならない。極度額は別表Ⅰに定める学費1年分とする。

3 連帯保証人が転籍、転居等をしたときは、その旨直ちに届け出なければならない。

4 連帯保証人が死亡したとき、又はその資格を失ったときは、あらたに連帯保証人を定めて、届け出なければならない。

第27条 学生が疾病その他やむを得ない事由により、休学しようとするときは、連帯保証人連署のうえ、春学期又は秋学期授業開始日までにその旨願ひ出て、許可を得なければならない。

2 休学期間は、1年又は半年とする。

3 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。

4 休学期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限、在学年限には算入しない。

第27条の2 学生は、在学中当該学部教授会が本人の教育上有益と認め、学長が承認した場合に限り、本学の認定する外国の大学に留学することができる。

2 留学の期間は、第3条並びに第23条第4項及び第5項に定める修業年限及び在学年限に算入できる。

3 留学の取扱いについては、別にこれを定める。

第28条 学生が、疾病その他やむを得ない事由により、退学しようとするときは、連帯保証人連署のうえ、その旨願ひ出なければならない。

第29条 学長は学力劣等にして成業見込みなしと認める者、又は出席常でない者を、当該学部教授会の審議を経て、諭旨退学させることがある。

第30条 学長は品行不良の者、学業怠慢の者、学校の秩序を乱した者、その他学生としての本分に反した者で、当該学部教授会において懲戒の対象となりうると認められたときには、けん責、停学又は退学に処することができる。

2 前項の懲戒に関する規程は、別に定める。

第30条の2 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。ただし、第1号については、春学期末卒業予定者は春学期末、それ以外の者は該当学年末（秋学期入学者は春学期末）、また第2号並びに第3号については、該当学期末に除籍する。

(1) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者

(2) 在学期間が第3条第2項並びに第23条第4項及び第5項に規定する在学年限を超える者

(3) 学費未納で履修科目の登録をしていない者

第30条の3 退学者及び前条第1項第1号又は第3号により除籍

された者が、連帯保証人連署のうえ、再入学を願ひ出た場合は、それを許可することがある。

なお、除籍された者が再入学を願ひ出る場合は、事前に未納学費を完納しなければならない。

第30条の4 再入学許可を得た者は、指定期日までに所定の書類を提出し、定められた学費を納入しなければならない。

第8節 科目等履修生、聴講生及び外国人留学生

第31条 各学部等に設置する一又は複数の授業科目を履修し単位を修得しようとする者があるときは、相当の資格があると認められた者につき、科目等履修生とすることができる。

2 科目等履修生のうち、他の大学の学生で、協定に基づき本学の授業科目を履修する者については、交流学生又は単位互換履修生として受け入れることができる。

第32条 科目等履修生が履修した授業科目について試験その他の本学が定める適切な方法により学修の成果に係る評価を受け合格したときは、所定の単位を与える。

2 前項に定めるもののほか、科目等履修生に関する内規は、別に定める。

第33条 削除

第34条 削除

第35条 各学部等に設置する一又は複数の授業科目を聴講しようとする者があるときは、相当の資格があると認められた者につき、聴講生とすることができる。

第36条 聴講生に関する内規は、別に定める。

第36条の2 外国人留学生に関する内規は、別に定める。

第9節 学 費

第37条 在学生の学費は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。ただし、春学期の学費を納入するときに、当該年度の秋学期の学費も納入することができる。

2 外国人留学生（特別学生）研修料は、春学期及び秋学期の学年暦に定める日までに納入しなければならない。

3 履修料及び聴講料は、所定の期間内に納入しなければならない。

第38条 学費は、入学金、授業料（履修料、聴講料、研修料を含む）、教育充実費、特別在籍料及び休学在籍料とし、その額は、別表Ⅰから別表Ⅰの4にこれを定める。

2 協定に基づくダブルディグリープログラムにより、本学から1学期間以上留学する者は、特別在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

3 休学を許可された者は、休学在籍料を納入するものとし、入学金を除く他の学費の納入を要しない。

4 第31条第2項に定める、協定に基づき本学の授業科目を履修するため、他の大学から受け入れた交流学生及び単位互換履修生の学費については、当該大学との協定に基づき設定する。

5 いったん納入した学費は、返還しない。ただし、入学許可を得た者で、入学日の前日までに入学手続の取消しを願ひ出たものについては、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

6 履修科目の登録に際して実験実習料を要する科目及びその実験実習料については、別に定める。

7 退学者又は除籍された者については、別に定める場合を除き、

当該学期の学費を徴収する。

- 8 第30条第1項に基づく停学処置に処せられた者については、その期間中も学費を徴収する。

第39条 やむを得ない事情があると認められる場合は、申請に基づき、学費（特別在籍料及び休学在籍料を除く。）を延納又は分納することができる。

- 2 前項の学費の延納又は分納の詳細は、別に定める。

第39条の2 本学は、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、授業料及び入学金の減免を行う。

- 2 前項の授業料及び入学金の減免の詳細は、別に定める。

第39条の3 災害等の特別な事情により学費の納入が困難であると認められる者には、申請に基づき、学費の一部を免除することができる。

- 2 前項の学費の一部免除の詳細は、別に定める。

第3章 附属施設

第40条 図書館を設け、図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報等を系統的に整備し、教育研究を促進する。

- 2 大学には学部研究室、実験室、研究所等を設ける。

第41条 寄宿舎を設け、一部学生を入舎させる。

第42条 学生支援機構保健センターを設け、教職員及び学生の保健医療に当る。

附 則

- 1 この学則は、2005年4月1日から施行する。
- 2 第27条第3項の規定は、1989年度入学生から適用する。
- 3 第9条に規定する教育職員免許状を得るための資格（高等学校地理歴史・公民科）については、1990年度入学生から適用する。
- 4 第7条、第16条は、知識工学科設置、機械工学科、機械工学第二学科の機械システム工学科、エネルギー機械工学科への名称変更及び工業化学科、化学工学科の機能分子工学科、物質化学工学科への改組転換により1994年4月1日から改正施行する。
- 5 第7条は、学部第2部を1997年度入学生から学生募集停止及び文学部第1部、法学部第1部、経済学部第1部、商学部第1部の文学部、法学部、経済学部、商学部への名称変更により1997年4月1日から改正施行する。

第16条は、文学部英文学科、文化学科国文学専攻、法学部法律学科、政治学科、経済学部、商学部へ昼間主コース、夜間主コースを設置。これにともなう学部、学科の収容定員増加変更により1997年4月1日から改正施行する。

なお、各学部の第2部は、当該学部の第2部に在学する者がなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（1997年4月1日改正）

- 6 第7条、第16条は、神学部に神学科、経済学部へ経済学科、商学部へ商学科の学科名明示により、1999年4月1日から改正施行する。（1999年4月1日改正）

第7条、第16条は、文学部社会学科新聞学専攻のメディア学専攻への名称変更、政策学部政策学科、工学部情報システムデザイン学科及び環境システム学科の設置により2004年4月1日から改正施行する。（2004年4月1日改正）

- 8 第7条は、文学部の改組・再編による文化学科、社会学科及び各学科内の専攻の廃止、それに伴う文学部哲学科、心理学科、

美学芸術学科、文化史学科、国文学科及び社会学部社会学科、社会福祉学科、メディア学科、産業関係学科、教育文化学科の設置並びに文化情報学部文化情報学科の設置により2005年4月1日から改正施行する。

第16条は、文学部の改組・再編に伴う学部・学科の設置及び文化情報学部の設置並びに法学部及び経済学部の昼間主コース、夜間主コースの廃止により2005年4月1日から改正施行する。

なお、廃止する文化学科及び社会学科の各専攻並びに法学部及び経済学部の昼間主コース及び夜間主コースは、2005年度より学生募集を停止する。ただし、各学科・専攻及びコースは、当該学科・専攻及びコースに在学する者がなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。（2005年4月1日改正）

- 9 第13条に規定する試験の成績評価は、2004年度第1年次入学生から適用し、2003年度以前の入学生については、従前の規程による。
- 10 第15条に規定する学位は、2005年度第1年次入学生から適用し、2004年度以前の入学生については、従前の規程による。
- 11 第30条の3に規定する再入学は、2004年度第1年次入学生から適用する。
- 12 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2005年度第1年次入学生から適用し、2004年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 13 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2005年度入学生に適用する。2004年度以前の入学生については、従前の学費による。
- 14 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、休学在籍料については、2003年度以降在学の学生に適用する。ただし、2002年度以前の入学生のうち、従前の学費による休学中の学費が休学在籍料を下回る場合は、その額とする。

附 則

- 1 この学則は、2006年4月1日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は、工学部知識工学科の名称変更により、改正・施行する。なお、知識工学科は、2006年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規定は、従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2006年度第1年次入学生から適用し、2005年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2006年度入学生に適用する。2005年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2007年4月1日から施行する。
- 2 第16条は、文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース、夜間主コースの廃止により、改正・施行する。なお、文学部英文学科及び国文学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2007年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部教育課程表は、2007年度第1年次

入学生から適用し、2006年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

- 4 第38条第1項の別表Iに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2007年度入学生に適用する。2006年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2008年4月1日から施行する。
- 2 第7条は、理工学部数理システム学科、生命医科学部医工学科、医情報学科、医生命システム学科及びスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科の設置並びに工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により、改正・施行する。

第16条は、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止、理工学部数理システム学科、生命医科学部及びスポーツ健康科学部の設置並びにこれにともなう学部・学科の収容定員変更及び工学部、機能分子工学科及び物質化学工学科の理工学部、機能分子・生命化学科及び化学システム創成工学科への名称変更により改正・施行する。

なお、政策学部政策学科の昼間主コース及び夜間主コース並びに工学部は、2008年度より学生募集を停止する。ただし、各学部・学科及びコースは、当該学部・学科及びコースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表IIの各学部教育課程表は、2008年度第1年次入学生から適用し、2007年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Iに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2008年度入学生に適用する。2007年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2009年4月1日から施行する。
- 2 第7条は、心理学部心理学科の設置及びそれにとりなう文学部心理学科の廃止により、改正・施行する。

第16条は、心理学部心理学科の設置及びそれにとりなう文学部心理学科の廃止並びに学部・学科の収容定員変更により改正・施行する。

なお、文学部心理学科は、2009年度より学生募集を停止する。ただし、文学部心理学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表IIの各学部教育課程表は、2009年度第1年次入学生から適用し、2008年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Iに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2009年度入学生に適用する。2008年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2010年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表IIの各学部教育課程表は、2010年度第1年次入学生から適用し、2009年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の教育課程表による。

- 3 第38条第1項の別表Iに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2010年度入学生に適用する。2009年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2011年4月1日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科の設置により、改正・施行する。
- 3 第8条の別表IIの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2011年度第1年次入学生から適用し、2010年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2012年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表IIの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2012年度第1年次入学生から適用し、2011年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2013年4月1日から施行する。
- 2 第7条は、グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。

第16条は、学部・学科の収容定員変更、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースの廃止並びにグローバル地域文化学部グローバル地域文化学科の設置により、改正・施行する。

なお、商学部商学科の昼間主コース及び夜間主コースは、2013年度より学生募集を停止する。ただし、当該コースは、当該コースに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表IIの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2013年度第1年次入学生から適用し、2012年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2014年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表IIの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2014年度第1年次入学生から適用し、2013年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2015年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表IIの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2015年度第1年次入学生から適用し、2014年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Iに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2015年度入学生に適用する。2014年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2016年4月1日から施行する。
- 2 留学生別科は、2016年度より学生募集を停止する。ただし、当該組織に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2016年度第1年次入学生から適用し、2015年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課定表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2016年度入学生に適用する。2015年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2017年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2017年度第1年次入学生から適用し、2016年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2017年度入学生に適用する。2016年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2018年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2018年度第1年次入学生から適用し、2017年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2018年度入学生に適用する。2017年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2019年度第1年次入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2019年度入学生に適用する。2018年度以前の入学生については、従前の学費による。
なお、再入学生の入学金に関する規定のただし書きについては、2020年4月1日以降に再入学する学生に適用する。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、特別在籍料については、2019年4月1日以降に派遣を決定する学生に適用する。

附 則

- 1 この学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 第7条及び第16条は、理工学部エネルギー機械工学科の名称変更により改正・施行する。
なお、理工学部エネルギー機械工学科は、2020年度より学生募集を停止する。ただし、当該学科は、当該学科に在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する

規程は、従前によるものとする。

- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2020年度第1年次入学生から適用し、2019年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料については、2020年度入学生に適用する。2019年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2021年度第1年次入学生から適用し、2020年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

附 則

- 1 この学則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2022年度第1年次入学生から適用し、2021年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第26条に規定する連帯保証人は、2022年度第1年次入学生から適用し、2021年度以前の入学生については、従前の規程による。

附 則

- 1 この学則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2023年度第1年次入学生から適用し、2022年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 3 第26条第2項に規定する極度額は、2023年度第1年次入学生から適用する。2022年度の入学生については、従前の規定による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2023年度入学生に適用する。2022年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- 1 この学則は、2024年4月1日から施行する。
- 2 第7条の14は、国際教養教育院の設置並びにこれに伴う第7条の7に定める日本語・日本文化教育センター及び第7条の12に定めるグローバル教育センターの廃止により、改正・施行する。なお、日本語・日本文化教育センター及びグローバル教育センターは、2024年度より学生の新規受入れを停止する。ただし、日本語・日本文化教育センター及びグローバル教育センターは、当該センターに在籍する学生がいなくなるまでの間存続するものとし、教育課程に関する規程は、従前によるものとする。
- 3 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2024年度第1年次入学生から適用し、2023年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。
- 4 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2024年度入学生に適用する。2023年度以前の入学生については、従前の学費による。

附 則

- この学則は、2025年4月1日から施行する。
- 第8条の別表Ⅱの各学部人材養成目的及び教育課程表は、2025年度第1年次入学生から適用し、2024年度以前の入学生については、別に定めるもののほか、従前の人材養成目的及び教育課程表による。

- 第38条第1項の別表Ⅰに定める学費のうち、入学金、授業料及び教育充実費については、2025年度入学生に適用する。2024年度以前の入学生については、従前の学費による。

別表Ⅰ 学 費

入学金、授業料及び教育充実費

(年額)

		入 学 金	授 業 料	教育充実費
神 学 部 文 学 部 社 会 学 部 法 学 部 経 済 学 部 商 学 部 政 策 学 部 グローバル地域文化学部	第1年次	200,000円	783,000円	165,000円
	第2年次		983,000円	165,000円
	第3年次		983,000円	165,000円
	第4年次		983,000円	165,000円
文化情報学部	第1年次	200,000円	895,000円	178,000円
	第2年次		1,095,000円	178,000円
	第3年次		1,095,000円	178,000円
	第4年次		1,095,000円	178,000円
理 工 学 部 (数理システム 学科を除く) 生命医科学部	第1年次	200,000円	1,292,000円	249,000円
	第2年次		1,492,000円	249,000円
	第3年次		1,492,000円	249,000円
	第4年次		1,492,000円	249,000円
理 工 学 部 (数理システム 学科)	第1年次	200,000円	1,215,000円	249,000円
	第2年次		1,415,000円	249,000円
	第3年次		1,415,000円	249,000円
	第4年次		1,415,000円	249,000円
ス ポ ー ツ 健康科学部	第1年次	200,000円	928,000円	178,000円
	第2年次		1,128,000円	178,000円
	第3年次		1,128,000円	178,000円
	第4年次		1,128,000円	178,000円
心 理 学 部	第1年次	200,000円	946,000円	186,000円
	第2年次		1,146,000円	186,000円
	第3年次		1,146,000円	186,000円
	第4年次		1,146,000円	186,000円
グ ローバル・ コミュニケーション学部	第1年次	200,000円	896,000円	186,000円
	第2年次		1,096,000円	186,000円
	第3年次		1,096,000円	186,000円
	第4年次		1,096,000円	186,000円

- 授業料及び教育充実費については、各々2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。
- 4年を超えて在籍した場合（再修生）の学費は、第4年次の学費を適用する。
- 転入学生及び編入学生の入学金は、200,000円とし、授業料及び教育充実費は、転入学又は編入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、本学卒業生に限り、入学金は2分の1とする。
- 再入学生の入学金は、100,000円とし、授業料及び教育充実費は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同額とする。ただし、学費未納により学年末をもって除籍された者が翌年度4月30日までに再入学手続をする場合及び春学期末をもって除籍された者が次の秋学期10月31日までに再入学手続をする場合の入学金は、50,000円とする。

ダブルディグリープログラム による留学期間	特別在籍料
1 年	300,000円
1 学期	150,000円

休学在籍料

休 学 期 間	休学在籍料
1 年	120,000円
半 年	60,000円

- 母国における兵役義務による休学が認められた者は、休学在籍料の納入を要しない。

別表 I の 2 履修料

履修登録料	全 学 部	25,000円
履 修 料 (1単位につき)	神、文、社会、法、経済、商、 政策、グローバル地域文化学部	22,000円
	文化情報、スポーツ健康科学部	23,000円
	理工、生命医科学部	31,000円
	心理、グローバル・コミュニケーション学部	25,000円

- (1) 履修料の総額が当該年度の第1年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の履修生の履修登録料は、2分の1とする。
- (3) 学期をまたがって履修する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部併願する場合、履修登録料は、重複して徴収しない。

別表 I の 3 聴講料

聴講登録料	全 学 部	25,000円
聴 講 料 (1単位につき)	神、文、社会、法、経済、商、 政策、グローバル地域文化学部	15,000円
	文化情報、スポーツ健康科学部	15,000円
	理工、生命医科学部	21,000円
	心理、グローバル・コミュニケーション学部	17,000円

- (1) 聴講料の総額が当該年度の第1年次の「授業料及び教育充実費の合計額」を超える場合は、その額にとどめる。
- (2) 本学出身者及び前年度から継続の聴講生の聴講登録料は、2分の1とする。
- (3) 学期をまたがって聴講する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。
- (4) 複数の学部併願する場合、聴講登録料は、重複して徴収しない。

別表 I の 4 外国人留学生（特別学生）入学金及び研修料

	入 学 金	研 修 料 (年額)	研 修 料 (年度内の在学期間が 7月以内の場合)
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 政策学部 グローバル地域文化学部	25,000円	440,000円	220,000円
文化情報学部 スポーツ健康科学部	25,000円	460,000円	230,000円
理工学部 生命医科学部	25,000円	620,000円	310,000円
心理学部 グローバル・コミュニケーション学部	25,000円	500,000円	250,000円
国際教養教育院	25,000円	666,000円	333,500円

- (1) 研修料については、2分の1を春学期学費及び秋学期学費とする。
- (2) 特別学生が正規課程に進学した場合、正規課程の入学金は特別学生時の入学金相当額を差し引いた額とする。
- (3) 期間延長者（同志社大学外国人留学生内規第4条第2項該当者）については、重複して入学金を徴収しない。また、研修料は入学年度の額を適用する。
- (4) 秋学期入学者の学費については、入学年度の春学期入学者の学費を適用する。
- (5) 特別学生が、年度内に20単位（国際教養教育院は、30単位）を超えて学科目登録をする場合は、超過する分1単位につき上記入学金及び研修料のほかに、学部授業科目を登録するときは学則別表Iの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻を除く大学院授業科目を登録するときは大学院学則別表Iの2に定める履修料相当額を、ビジネス研究科ビジネス専攻授業科目を登録するときは専門職大学院学則別表Iの2に定める履修料相当額を、国際教養教育院科目を登録するときは学則別表Iの2に定める神、文、社会、法、経済、商、政策、グローバル地域文化学部の履修料相当額を研修料として納入すること。
- (6) 研修料の総額が当該年度の第1年次の授業料を超える場合は、その額にとどめる。

(7) 外国の大学の教育計画で在学する特別学生又は本学と特定の外国の大学との協定により在学する特別学生その他特別の事情のある場合は、部長会の審議を経てこの学費を適用しないときがある。

別表Ⅰの5 入学検定料

区 分		金 額	
一般選抜入学試験 推薦入学試験 転入学試験 編入学試験		35,000円	
大学入学共通テストを利用する 入学試験	個別学力検査を課す場合	25,000円	
	個別学力検査を課さない場合	15,000円	
アドミッションズオフィスによる入学者選抜		第1次審査	25,000円
		第2次審査	10,000円
推薦選抜入学試験 自己推薦入学試験 その他特別入学試験		35,000円	
推薦選抜入学試験における二段階選考 自己推薦入学試験における二段階選考 その他特別入学試験における二段階選考		第1次選考	10,000円
		第2次選考	25,000円
外国人留学生入学試験 その他外国人留学生特別入学試験 外国人留学生転入学試験 外国人留学生編入学試験		書類選考および学部独自試験を課す場合	15,000円
		書類選考のみの場合	10,000円
グローバル・コミュニケーション学部 (日本語コース) 入学試験		書類選考および学部独自試験を課す場合	15,000円
		書類選考のみの場合	10,000円
国際教育インスティテュート（国際教養コース）入学試験		15,000円	

別表Ⅱ 各学部人材養成目的及び教育課程表（省略）

学 部 一 般 内 規

(2024 年 4 月 1 日改正)

学 年 暦

別に定める「学年暦」は、年間の行事を示し特別の通知・掲示がない限り、このとおり行われる。行事の詳細については、その都度指示する。

学 籍 番 号

- 1 学生には、入学と同時に学籍番号が付与され、在学する期間を通じて変わらない。
- 2 第2年次転入学生及び編入学生には、第2年次生の入学年度を冠した学籍番号が付与される。
- 3 第3年次転入学生及び編入学生には、第3年次生の入学年度を冠した学籍番号が付与される。
- 4 再入学生には、再入学を許可された年次に該当する入学年度を冠した学籍番号が付与される。

学 生 証

- 1 学生証は、本学の学生であることを証明するもので、常に携帯しなければならない。
- 2 学生証は、卒業、退学及び除籍の場合は、直ちに返納しなければならない。
- 3 学生証を紛失したときは、直ちに届け出て再交付を受けなければならない。ただし、別に定める手数料を納入することを要する。
- 4 学生証は、他人に貸与又は譲渡してはならない。

履 修 科 目 の 登 録

- 1 履修する科目は、学年暦に定められた期間に登録しなければならない。ただし、在学留学が認められた場合は、これによらないことがある。
- 2 合格となった科目は、再度登録履修することはできない。
- 3 各年次で登録履修できる単位数は、春学期及び秋学期合計50単位に満たない範囲内において学部の定めるところによる。
- 4 前項の規定にかかわらず、転入学生及び編入学生の登録履修できる最高単位数は、学部の定めるところによる。

成 績 評 価

- 1 成績評価は、学年暦に定められた期間に実施される期末試験、期末試験以外の評価に基づき、多面的に行われる。
- 2 成績は、成績原簿に記録される。
- 3 不合格となった科目を再履修し、合格となった場合は、直近の不合格の評価のみ変更される。

期 末 試 験

- 1 受験上の注意
 - (1) 学費未納のままでは受験できない。
 - (2) 未登録の授業科目は、受験できない。
 - (3) 授業日数の3分の2以上の出席がない場合は、科目担当者の判断によって、受験資格を取り消すことがある。
 - (4) 試験には、必ず学生証を持参しなければならない。
 - (5) 試験に15分以上遅刻した者は、受験を許さない。また、試験開始後30分経過するまでは退室できない。
 - (6) 試験にかかる不正行為があつて、当該学部教授会がそれを認定した場合は、その試験が実施された学期中の全科目を不合格とし、これを公表する。ただし、当該学部が定める科目については除く。
 - (7) その他試験に関する注意事項等は別に定める。
 - (8) 上記(1)から(7)の注意事項は期末試験以外の評価に適用することがある。
- 2 追 試 験
 - (1) 病気又はやむを得ない事由のために、期末試験又は学部教授会が認める期末試験以外の評価を受けることができなかった者に追試験を行うことがある。やむを得ない事由は別に定める。
 - (2) 受験希望者は、追試験願を、当該科目試験日の翌日から起算して3日以内に提出しなければならない。ただし、課外活動のため受験できない場合、追試験願は事前に提出し承認を受けなければならない。
 - (3) 追試験願には、当該試験を受験できなかった事由を証明する書類を添付しなければならない。必要な証明書類は別に定める。
 - (4) 追試験ごとに1,000円の追試験料を納入しなければならない。

届 書 ・ 願 書

届書及び願書には、次のようなものがある。

- 1 届 書
 - (1) 欠 席 届 授業科目担当者名明記、理由書（診断書等）添付のこと。
 - (2) 改 姓(名)届 戸籍抄本添付のこと。
 - (3) 性別変更届 戸籍抄本添付のこと。
 - (4) 住所変更届
 - (5) 連帯保証人変更届 新旧連帯保証人併記のこと。
- 2 願 書
 - (1) 休 学 願 理由記載、適宜証明書類添付のこと。
 - (2) 退 学 願 理由記載のこと。
 - (3) 再 入 学 願 理由記載のこと。
 - (4) 通称名使用願 診断書添付のこと。

- (5) 旧姓名使用願 戸籍抄本等、旧姓名を確認できる証明書類添付のこと。
- (6) 在学留学願 留学する大学の入学許可書添付のこと。
- (7) 転学部・転学科願 理由記載のこと。
- (8) 追試験願 理由及び受験科目名記載のこと。

以上の各種届書及び願書は、所定様式により提出する。必要によっては、当該学部教授会の審議を経て処理される。

教室使用願、物品使用願等は、願い出責任者を明記のうえ、教育支援機構教務部に提出すること。

再入学

- 1 退学日又は除籍日から5年以内は、当該学部教授会の審議を経て、再入学を許可する。5年を経過したときは、試験のうえ、教授会の判定によって再入学を許可する。
- 2 再入学の時期は、学期の始めとする。
- 3 再入学を許可する学部・学科等は、退学又は除籍時の学部・学科等とする。ただし、退学又は除籍時の学部・学科等が存在しない場合及び学生募集が停止されている場合は、当該学生の再入学願を審議する学部教授会は、学長が指定する。
- 4 再入学を許可する年次、修業年限及び在学年限は、再入学前に在籍していた期間により定める。
- 5 再入学生の教育課程は、再入学を許可された年次に在籍する学生と同様とする。

転学部・転学科

- 1 転学部及び転学科は、やむを得ない事情の生じた場合に限り、第2年次から第3年次に進むとき、関係学部教授会の審議を経て許可することがある。なお、学部教授会が特に必要と認めた場合は、第1年次から第2年次に進むときも当該学部内において転学科を許可することがある。
- 2 いったん転学部・転学科を許可した学生の再転学部・転学科は認めない。
- 3 転学部・転学科願書の受付期限は秋学期講義最終日とし、許可決定の時期は、当該年度の終わりとする。

学士入学

学士入学は、転入学・編入学試験を受けなければならない。ただし、本学卒業生は、同一学部学科への学士入学は認められない。

免許資格課程登録料

免許資格課程を登録する者は、次の各号の免許資格課程登録料を納入しなければならない。

- (1) 教職課程 30,000円
- (2) 博物館学芸員課程 10,000円
- (3) 図書館司書課程 10,000円

- 2 免許資格課程登録料の詳細は、別に定める。

教育実習費

教育実習を登録する者は、登録と同時に実習費を納めなければならない。

諸会費

本学が代理徴収を行う学会、父母会及び卒業生団体の諸会費は、所定の期日までに納入しなければならない。

定期健康診断

学生は、毎年、学期始めに行う定期健康診断を必ず受けなければならない。疾病その他やむを得ない理由によって定期健康診断を受けることができなかった者は、その理由のなくなった後、速やかに受けなければならない。

附則

この内規は、2024年4月1日から施行する。

外国留学に関する諸規程

外国の大学に留学する学生の取扱いに関する内規

(設置)

第1条 本学の学部又は大学院の学生が、本学の教育課程の一環として学則第27条の2、大学院学則第20条の2、専門職大学院学則第29条又は法科大学院学則第15条により留学する場合は、この内規の定めるところによる。

(教育機関の定義)

第2条 この内規にいう外国の大学とは、外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、又はこれに相当する教育機関をいう。

2 外国の大学の調査認定は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が行う。

(留学の定義)

第3条 この内規にいう留学とは、本学の許可を受けて外国の大学に在学し、科目を履修し、又は研究指導を受けることをいう。

(条件)

第4条 この内規の適用を受けて留学する学生は、次の要件を満たさなければならない。ただし、大学院学生には適用しない。

- (1) 本学に1年以上在学していること。
 - (2) 30単位以上修得していること。
- 2 前項第2号は、当該学部教授会の認める特別の事情がある場合には、適用しない。

(学籍)

第5条 この内規の適用を受けて留学する学生の本学学籍上の取扱いは、在学留学とし、休学としない。ただし、学生が休学を認められ、外国の大学で学修する場合は、この内規は適用しない。

(期間)

第6条 在学中に留学できる期間は、1年以内とする。在学留学期間の算定は、留学先大学の別にかかわらず、当該教育課程における在学留学期間の通算にて行う。

2 当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別の事情がある場合は、1年間を限度として、在学留学期間の延長を許可する。

(履修)

第7条 留学する大学での履修については、留学前に留学する大学の授業科目を検討した上、当該学部又は研究科の指導を受けなければならない。

(学生納付金)

第8条 この内規の適用を受けて留学する学生は、留学中所定の学生納付金を納入しなければならない。

(手続)

第9条 外国の大学に留学する学生で、この内規の適用を希望する場合は、在学留学願を当該学部長又は研究科長を通じて学長に提出するものとする。

2 出発・帰国に際しては、留学出発・帰国届を当該学部長又は研究科長を経て、学長に提出しなければならない。

3 在学留学期間の延長を願ひ出る場合は、在学留学延長願を当該学部長又は研究科長を通じて、学長に提出するものとする。

(単位認定)

第10条 単位認定を受けようとする者は、帰国後速やかに、次に掲げる必要書類（留学した大学の発行するもの）を添付した取得単位認定願を、当該学部長又は研究科長に提出するものとする。

- (1) 成績証明書（時間数、単位数、科目名を明記したもの）
- (2) 指導教員又はこれに準ずる教員の所見を記したもの
- (3) 受講した科目の内容を説明した教授細目
- (4) 大学履修要項

2 当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会は、関係機関と協議の上審議し、留学した大学での取得単位を学則の定めるところにより認定することができる。

(帰国後の登録及び履修)

第11条 留学した学生の帰国直後の春学期又は秋学期における登録及び履修については、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が出国時までの履修状況等を勘案し、特別の措置を講ずることがある。なお、設置科目によっては関係機関との協議を必要とする。

(事務)

第12条 この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際センター国際課が取り扱う。

(改廃)

第13条 この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、2015年4月1日から施行する。

同志社大学外国協定大学派遣留学生に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、同志社大学外国協定大学派遣留学生制度を設け、本学の外国協定大学に学生を派遣し、もって本学建学の精神である国際主義を体得した学生を養成することを目的とする。

(定義)

第2条 この制度による外国協定大学派遣留学生とは、本学と外国の大学との大学間協定に基づき、学長の推薦により、外国の大学に留学する学生をいう。

(取扱い)

第3条 外国協定大学派遣留学生として留学をする場合は、この内規によるほか、「外国の大学に留学する学生の取扱いに関する内規」の定めるところによる。

(出願条件)

第4条 外国協定大学派遣留学生として出願できる学生は、学力、人物共に優秀で本制度の趣旨をよく理解し、留学年度の4月1日現在、学部2年次生以上の者又は大学院に在学中の者とする。

(義務)

第5条 外国協定大学派遣留学生として留学を希望する学生は、募集要項に定める出願書類を指定された期日までに提出しなければならない。

(推薦方法)

第6条 外国協定大学派遣留学生は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の推薦に基づき、教務〔国際〕主任会議の審議を経て、学長が候補者を決定し、留学先大学に推薦する。

(候補者の決定)

第7条 外国協定大学派遣留学生の最終決定は、留学先大学による当該留学生の受入れ決定に基づき、学長がこれを行う。

(留学期間)

第8条 留学期間は、留学先大学の正規の1年以内とする。ただし、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別の事情がある場合は、教務〔国際〕主任会議の審議を経て、学長が外国協定大学への在学留学期間の延長を認めることがある。

(事務)

第9条 この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際センター国際課が取り扱う。

(改廃)

第10条 この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この内規は、2015年4月1日から施行する。

学業履修について

本学のカリキュラム（教育課程）は、各学部・学科の教育上の目的を達成するために、学部ごとに定められています。本学において卒業するためには、所定の単位を修得し、この課程を修めなければなりません。

各学部のカリキュラムに定める授業科目の登録・履修にあたっての詳細な説明・手続については、本要項および各学部ごとに作成されている『登録要領』を参照してください。なお、各授業科目の内容については『シラバス』を参照してください。

障がいのある学生への受講に対する配慮

身体、精神・発達等に障がいのある学生が、他の学生と等しい条件のもとで科目を受講できるよう、「合理的配慮」について検討します。

合理的配慮を希望される場合は、スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室（SDA室）までご相談ください。

単位制

単位制とは、各学部ごとに定められた授業科目を登録・履修し、試験に合格することによりそれぞれの授業科目の所定の単位を得、修業年限中に卒業に必要な単位数を修得していく制度です。

現在の我が国の大学制度は単位制度を基本としており、下記に記載している学則のとおり、1単位は、教室等での授業時間と準備学習や復習の時間を合わせて標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。授業だけでなく、準備学習や復習の時間の重要性をよく理解しておくようにしてください。

卒業必要単位数は学部によって異なるので、所属学部の欄を参照してください。学部授業科目の単位数の計算は、次の基準によります（学則第9条3項4項）。

3 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準による。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習、実技等については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 第1号に規定する授業の方法と前号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数の基準は、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める。

4 前項の規定にかかわらず、卒業論文等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

また、本学では、文部科学省令である大学設置基準や文部科学省通知に基づき、同志社大学学則第9条の5において、多様なメディアを高度に利用して教室等以外の場所で履修させる授業（遠隔授業）により修得する単位は、各学部における卒業に必要な単位数から64単位を除いた単位数を上限として、卒業に必要な単位とすることができるものと定めています。シラバス等で表示される「学則第9条の5対象科目」の修得単位数の合計に留意して、履修計画を立てる必要があります（学則第9条の5）。

授業時間

本学における授業時間は1講時について90分とし、これを2時間と計算しています。例えば、「春学期・週2時間」とは、春学期期間中に90分の授業が週1回行われるということであり、「秋学期・週4時間」とは、秋学期期間中に90分の授業が週2回行われるということです。

講時	授業時間
1	9:00～10:30
2	10:45～12:15
3	13:10～14:40
4	14:55～16:25
5	16:40～18:10
6	18:25～19:55
7	20:10～21:40

休講

授業は、学年暦によって行われますが、担当者の公務、出張、学会、病気などによって休講となる場合もあります。休講に関する情報は本学学修支援システムDUET（以下DUETという）で確認することができます。急な休講や休講取消もありますので、DUETを適宜確認するようにしてください。なお、休講情報もなく、講義が始まらない場合は各キャンパスの教務センターへ申し出て、確かめるようにしてください。

補講

補講に関する情報は、DUETで確認することができます。日時、教室などをよく確認して受講してください。

集中講義

科目によっては、特定期間内に集中して行う講義（集中講義）があります。

授業教室

- (1) 学部授業時間割表は、科目登録・履修に必要な書類とともに、各自に配付されますが、それ以後の教室変更などは、DUETでお知らせしますので、よく注意してください。なお、秋学期開講科目の学部授業時間割表は、9月中旬にあらためて公開、配付します。
- (2) 開講当初の授業教室は、学部授業時間割表に記載しています。授業教室は登録者数の増減により変更することがありますので、DUETで変更教室を確認のうえ、授業に出席してください。
- (3) 授業教室名はすべて略号と教室番号で記載されています（次頁表）。例えば、京田辺校地の場合「1-201」は知真館1号館201番教室（2階）、「KD202」は恵道館202番教室（2階）を、また、今出川校地の場合「Z地1（ZB1）」は尋真館地下1番教室（地階）、「S32」は至誠館32番教室（3階）を表すものです。
- (4) 授業教室は、臨時に変更することがあります。この場合は「臨時教室変更」としてDUETでお知らせしますので、その講時のみ変更された教室で受講してください。

〔京田辺キャンパス〕

略号	館名
(TC) 1	知真館1号館
(TC) 2	知真館2号館
(TC) 3	知真館3号館
KD	恵道館
TS	頌真館
MK	夢告館
JM	情報メディア館
RM	ローム記念館
KR	交隣館
RG	理化学館
IN	医心館
YE	有徳館西館
YM	有徳館東館
SC	至心館
KC	香知館
HS	報辰館
SO	創考館
CG	知源館
SJ	知証館南館 心理学実験室
D	知証館南館 電気系実験実習棟
IJ	知証館北館 機械系実験実習棟
MS1	知証館北館 機械実習工場
MS2	実習工場別棟
HC	訪知館
BJ	磐上館
KHH	香柏館高層棟
KHL	香柏館低層棟
DV	デイヴィス記念館
TW	体育シャワー棟

〔今出川キャンパス〕

N	寧静館
M	明德館
S	至誠館
K	弘風館
G	神学館
F	扶桑館
CL	クラーク記念館
H	博遠館
T	徳照館
KE	光塩館
RY	良心館

〔新町キャンパス〕

Z	尋真館
R	臨光館
SS	新創館
KS	溪水館

〔烏丸キャンパス〕

SK	志高館
----	-----

〔室町キャンパス〕

KMB	寒梅館
-----	-----

〔大阪サテライト〕

OS	大阪サテライト
----	---------

情報教室（京田辺キャンパス）

略称	教室名	館名
JM101	情報メディア館演習室1	情報メディア館1階
JM102A~C	情報メディア館情報道場1~3	情報メディア館1階
JM201~206	情報メディア館201~206番教室	情報メディア館2階
JM301~306	情報メディア館301~306番教室	情報メディア館3階
JM402~406	情報メディア館402~406番教室	情報メディア館4階
TS101・102	頌真館101・102番教室	頌真館1階
TS202	頌真館202番教室	頌真館2階

情報教室（今出川キャンパス）

K21・22・25	弘風館21・22・25番教室	弘風館2階
RY307~315	良心館307~315番教室	良心館3階

情報教室（新町キャンパス）

R303・304	臨光館303・304番教室	臨光館3階
----------	---------------	-------

情報教室（烏丸キャンパス）

SK地1・地9	志高館地下1・地下9番教室	志高館地階
---------	---------------	-------

KSR	継志寮
-----	-----

授業の録音・録画等について

科目担当者が事前に許可した場合を除き、次の行為を禁止します。

- (1)授業の撮影（黒板・スクリーン等の撮影を含む）
- (2)授業の録音・録画
- (3)授業において配付した資料の複写
- (4)視聴のためにサーバ等に保存した授業動画のダウンロード
- (5)上記(1)~(4)により取得したものの第三者への譲渡・公開等

成績評価の方法について

本学の成績評価は、期末試験、期末試験以外の評価により、多面的に行います。

1. 期末試験

各学期末の定められた期間に行われる試験を期末試験といいます。期末試験は教室で行われるものとレポートを含みます。

2. 期末試験以外の評価

期末試験以外の評価の方法には、レポート、小テスト、オンラインテスト、平常点等が含まれます。期末試験以外の評価は授業内で実施されるものだけでなく、授業時間外に取り組み課題も含まれます。

3. 追試験

病気またはやむを得ない理由のために、期末試験または学部教授会が認める期末試験以外の評価を受けることができなかった場合に限り行われる試験を追試験といいます。受験希望者は以下の点に注意してください。

- a. 当該科目の試験日の翌日から起算して3日以内（窓口業務休止日を除く）に、追試験願を所属学部・研究科窓口へ提出しなければならない。ただし、課外活動のために受験できない場合、追試験願は事前に提出し承認を受けなければならない。
- b. 追試験願には、当該試験を受験できなかった事由を証明する以下の書類を添付しなければならない。
- c. 追試験ごとに1,000円の追試験料を必要とする。ただし、裁判員制度および検察審査会制度を事由とする追試験については、追試験料を免除する。なお、追試験を未受験であった場合でも追試験料は返還しない。
- d. 追試験は通常の試験と同等に評価される。減点はされない。
- e. レポートは追試験の対象にはならないが、提出締切日・時間に突発的な事故等やむを得ない事由により、提出締切時間に間に合わなくなった場合は、必ず提出締切時間までに提出先に連絡を取り、指示を受けること。
- f. 追試験も何らかの事情により受験できなかった場合には、これに対する追試験は実施しない。

対象事由例	必要な証明書類
本人の病気、怪我	医師の診断書（試験当日安静が必要である旨の記載が必要） 学校感染症の場合は、大学所定の『学校において予防すべき感染症』罹患証明書』でも可
親族（2親等内）の死亡 （適用期間は次のとおりとする。 ・死亡日を1日目とした7日以内。 ・死亡前日を1日目として遡った3日以内。）	死亡診断書、会葬案内等
教育実習	免許資格課程センター事務室の証明書
介護等体験	免許資格課程センター事務室の証明書
館園実習	免許資格課程センター事務室の証明書
社会福祉援助、精神保健福祉援助に関する実習	社会学部・社会学研究科事務室の証明書
公認心理師に係る心理実習	心理学部・心理学研究科事務室の証明書
就職試験 （採用に関わらないインターンシップや説明会等は除く。）	企業等が発行する就職（採用）試験受験証明書（注） （大学所定用紙あり）
大学院入学試験	当該大学院が発行する受験証明書
正課科目のインターンシップ	キャリアセンター、または大学コンソーシアム京都が発行する証明書
大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目の定期試験	当該科目設置大学が発行する受験証明書
国家試験	当該試験の受験票
課外活動	事前届出に基づく学生支援センターの証明書
災害	被災証明書
路線の遅延、不通 （通学証明書に記載された通学区間における路線の15分以上の延着の場合に限る。）	交通機関が発行する延着証明書
裁判員制度 ・裁判員候補者として裁判員等選任手続に参加 ・裁判員、補充裁判員として職務に従事	裁判所が発行する証明書
検察審査会制度 ・検察審査員、補充員として職務に従事	検察審査会事務局が発行する証明書

（注）対象事由が発生した場合は、企業等に証明書の作成を依頼してください。依頼にあたり不明点等ある場合は、キャリアセンターに問い合わせてください。

4. 期末試験に関する注意事項

受験上の注意

- (1) 受験のためには次の条件を備えていることが必要です。
- 有効な登録がなされた科目であること。
 - 学費納入が済んでいること。
 - 科目担当者の指定する条件を備えていること。なお、授業日数の3分の2以上の出席がない場合は、科目担当者の判断によって、受験資格を取消することがある。
- (2) 試験場においては次のことを守らなければなりません。
- 指定された試験場で受験すること。
 - 必ず学生証を持参し、机上に提示すること。万一、持参しなかった場合は、その試験の始まる前に証明書自動発行機(発行手数料100円)で仮学生証を発行すること。
 - 持込みを許された物以外はすべて鞆・袋などに入れること。なお、携帯電話(スマートフォンを含む)、パソコン(モバイルPC等を含む)、タブレット端末、スマートウォッチ等の通信機器、携帯音楽プレーヤー等の携帯型録音再生機器等(以下「携帯機器類」という。)については、電源を切って鞆や袋などに入しうこと(携帯機器類は時計代わりの使用も認めない)。
 - 試験開始より15分以上遅刻したものは受験できない。また、試験開始後30分を経過するまでは退室できない。
 - 受験者は学生証と答案用紙の氏名との照合確認を受けること。
 - 答案用紙の学生ID、氏名は必ずペン書とする。
 - 試験を放棄する場合も答案用紙に学生ID、氏名を記入して提出すること。答案用紙を持ち帰ってはならない。
 - その他すべて試験監督者の指示に従うこと。
- (3) 次の場合には、その答案は無効とみなされることがあります。
- 無記名の場合。
 - 指定された試験場で受験しなかった場合。
 - 氏名を訂正した場合。
- (4) 次の行為は、不正行為として取り扱います。
- 本人以外の者が、本人になりすまして試験を受けること。
 - 試験を受験するにあたって、机上や衣服、身体等に書き込みをすること。
 - 試験を受験するにあたって、持ち込みや使用を認められたものに書き込みをする等、本来の使用目的と異なる使い方をすること。
 - 試験時間中に、カンニングペーパー類や持ち込みを許可されていない参考書・ノート類を持ち込んだり、他の受験生の答案を見ること、他の人から答えを教わること。
 - 試験時間中に、答えを教える等の他の受験生を利するような行為をすること。
 - 答案用紙配付から回収までの私語や答案の見せ合い、交換をすること。
 - その他、試験監督者の指示に従わないこと。
- (5) 次の行為は、不正行為として取り扱う場合があります。
- 試験時間中に、使用を認められていない器具を使用して解答すること。

講時	試験時間
1	9:20~10:30
2	11:00~12:10
3	13:25~14:35
4	15:05~16:15
5	16:45~17:55
6	18:25~19:35
7	20:05~21:15

窓口受付時間(開講期間)

	月~金曜日	土曜日	
今 出 川 ※	今出川キャンパス教務センター 文学部、法学部、経済学部、今出川校地教務課、 免許資格課程センター事務局、 全学共通教養教育センター事務局	9:00~11:30 12:30~17:00 総合窓口 8:40~17:00	総合窓口のみ 8:40~11:30 12:30~17:00
	新町総合窓口 社会学部事務局、政策学部事務局	9:00~11:30 12:30~17:00 総合窓口 8:40~17:00	
	神学部事務局	9:00~11:30 12:30~17:00	閉室
	商学部事務局	9:00~11:30 12:30~17:00	
	グローバル地域文化学部事務局	9:00~11:30 12:30~17:00	
京 田 辺 ※	国際教育インスティテュート事務局 国際教養教育院事務局	9:00~11:30 12:30~17:00	閉室
	京田辺キャンパス教務センター 生命医科学部、スポーツ健康科学部、心理学部、 グローバル・コミュニケーション学部、 免許資格課程センター事務局、京田辺校地教務課	9:00~11:30 12:30~17:00 総合窓口 9:00~17:00	閉室
	文化情報学部事務局 理工学部事務局	9:00~11:30 12:30~17:00	閉室

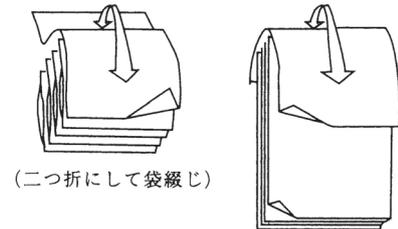
登録期間、休暇期間は受付時間が変わります。窓口受付時間が変更になる場合は、大学HP、掲示等によってお知らせします。
※ 教務センターの総合窓口では、一般的な質問の受付等を行います。

- 試験監督者の試験開始の指示の前に解答を始めること。
 - 試験監督者の試験終了の指示の後に、筆記用具や消しゴムを持ち続けていたり、解答を続けていたりすること。
 - 試験場において、他の受験生の迷惑となる行為をすること。
 - 試験時間中に、携帯電話(スマートフォンを含む)、パソコン(モバイルPC等を含む)、タブレット端末、スマートウォッチ等の通信機能を有する機器、携帯音楽プレーヤー等の携帯型録音再生機器等(以下「携帯機器類」という。)を身に付けていたり、指示された以外の場所・状態で保管していること。
 - 試験時間中に、携帯機器類・時計等の音(着信、アラーム、振動音等)を鳴らすこと。
 - その他、試験の公平性を損なう行為をすること。
- (6) 上記の(4)または(5)に該当する行為があつて、当該学部教授会がそれを不正行為と認定した場合は、その試験が実施された学期中の全科目を不合格(2004年度生以降)または0点(2003年度生以前)とし、これを公表します(ただし、当該教授会が定める科目については除く)。

期末試験として実施するレポートの注意

- (1) レポート提出時は、次のことに注意すること。
- レポートには所定の表紙(同志社生協で販売又は、https://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/exam_type.htmlでダウンロード可)を付けること。
 - 表紙およびレポート受領書は、ペン書きのこと。
 - 学生証を持参のうえ、必ず本人が提出すること。郵送は認めない。
 - 提出締切日・時間に遅れたレポートは、受け付けない。ただし、提出締切日の突発的な事故等やむを得ない事由により、提出締切時間に間に合わない場合、必ず提出締切時間までに提出先に連絡を取り指示を受けること。
 - 一度提出したレポートは、提出締切日前であっても加筆・修正はできない。
 - レポート受領書は、評価が出るまで大切に保管すること。

〈見本〉 原稿用紙 レポート用紙



- (2) レポートに関する不正行為について。

- 次のようなレポートの不正作成は、教室で行われる試験と同様に不正行為として取扱い、教授会が認定した場合は学部一般内規に従って処分の対象とします。
- レポートの作成にあたって、他人の著作物やWEB上の情報等を参照・引用したにもかかわらず、引用部分の明示や出典の記載もなく、自身で作成したように記述すること。
 - 他人が作成したレポートを自身が作成したものとして提出すること。

- c. 他人に依頼し作成させたレポートや電子的なツールやソフト等に指示し生成させたレポートを自身が作成したのとして提出すること。
- d. 他人に依頼されてレポートを作成すること。
- e. 転記目的で他人が作成したレポートの提供を受けること、また自身が作成したレポートを転記目的で他人に提供すること。
- f. その他、レポートの公平性を損なう行為をすること。

5. 期末試験以外の評価について

期末試験以外の評価においても、評価の方法により、上記「4. 期末試験に関する注意事項」が適用されることがある。同様に、上記「3. 追試験」の対象となることもあるので、詳細は所属の学部・研究科事務室窓口へ照会すること。

学業成績

成績評価

(1) 2004年度生以降

- a. 学業成績は以下の基準にしたがいA、B、C、D、Fの5段階で評価され、D以上が合格、Fが不合格です。就職用成績証明書等、本学以外で使用するために発行する学業成績証明書には、D以上の評価を得た科目とその成績に加えて、履修した全ての科目のGPA (Grade Point Average) が記載されます。

判定基準

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

- b. GPAは、A～Fの段階で評価された全科目の評価を評点を換算して、その単位数で加重平均することによって算出されます。GPAの算出方法は次のとおりです。

$$GPA = \frac{(A) \times 4.0 + (B) \times 3.0 + (C) \times 2.0 + (D) \times 1.0 + (F) \times 0.0}{(A) + (B) + (C) + (D) + (F)}$$

(A～F)はA～Fの評価が付いた科目の単位数の合計

(2) 2003年度生以前

- a. 学業成績の評価は、100点満点で60点以上が合格、それに満たないものは不合格です。ただし、就職用成績証明書等、本学以外で使用するために発行する学業成績証明書には優、良、可(英文の場合はA、B、C)による評価が使用されます。優(A)は100～80点、良(B)は79～70点、可(C)は69～60点です。
- b. 平均点は、合格点に達している科目の得点を、その単位数で加重平均することによって算出されます。加重平均の算出方法は次のとおりです。

$$\text{平均点} = \frac{(\text{各科目の得点} \times \text{単位数}) \text{の合計}}{\text{総単位数}}$$

成績発表

履修科目の成績は、春学期末(9月中旬)と秋学期末(3月中旬)に各自に通知します。それ以前の成績の照会には応じません。

採点質問

成績評価に関する質問や異議申し立てをしたい場合は、定められた成績通知日から1週間以内に、所属の学部・研究科窓口へ採点質問票を提出してください。

不合格科目

(1) 2004年度生以降

F評価であった科目を再び履修してD以上の評価を得た場合は、直近のF評価についてのみGPAに算入されません。

ただし、一部の科目については取扱いが異なる場合がありますので、各学部の配布物等を参照してください。

(2) 2003年度生以前

不合格となった科目を再び履修して合格点を得た場合は、以前の不合格点は合格点に変更されます。

卒業の可否発表

卒業の可否の発表は2月下旬から3月上旬の卒業判定教授会終了後、各学生(父母住所宛)に通知します。それまでは、成績および卒業可否についての問い合わせは一切応じません。

クレーム・コミッティ制度

科目担当者との直接的なコミュニケーションでは解決できない授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、所属の学部・研究科窓口へ相談してください。学部・研究科で相談の内容を確認後、必要に応じて各学部等のクレーム・コミッティが事実関係を調査し、クレームに関わる一連の対応について回答します。

なお、いかなる場合であっても、相談者の学生IDや氏名が科目担当者に明かされることはなく、また相談によって決して不利益を被ることはありません。

欠席届

授業に欠席し、その理由を科目担当者に伝える場合は、欠席届を利用します。欠席届の用紙は学部・研究科事務室または各キャンパス教務センターで配布していますので、必要事項を記入の上、科目担当者に直接提出してください。なお、欠席届は任意で提出するものですので、届出必要科目は各自で判断してください。

○提出の際の留意点

- ・欠席届は、欠席の事由を科目担当者へ伝える届です。本学には「公欠」の制度はありませんので、「追試験の対象となる事由」に該当する事由か否かにかかわらず、欠席届の取扱い(欠席扱いにしない・する等)は、担当者の判断に委ねられます。
- ・欠席の事由を客観的に証明する書類がある場合は、欠席届に添付して提出してください(コピーでも可)。
例) 病気の場合は「診断書」

※ただし、欠席の事由が以下に該当する場合は、まずそれぞれの窓口へ申し出て相談してください。

事由	相談窓口
学校感染症罹患による出席停止	所属の学部窓口
免許資格課程が必修としている 正課科目の実習（教育実習、博 物館実習、図書館演習）や介護 等体験に参加	免許資格課程センター事務室 （各キャンパス教務センター内）
資格取得に必修となっている 正課科目の実習に参加、など	当該科目の設置学部・研究科 事務室、所属の学部窓口
裁判員制度によるもの	所属の学部窓口
検察審査会制度によるもの	所属の学部窓口

路線の不通または暴風警報・特別警報発表に伴う 授業・期末試験の実施について

路線が不通の場合や暴風警報、特別警報が発表された場合には、授業および期末試験の実施について以下の措置をとります。

I. 路線が不通の場合

- ・「1. 対象となる路線」の定める条件に合致した場合、発生時の次の講時から授業休講・期末試験中止とします。
- ・開通後は、「2. 開通時刻と授業・期末試験開始講時」により開始講時を決定します。
- ・該当交通機関の事故等による一時的な運転見合わせの場合には、平常どおり授業・期末試験を実施しますのでご注意ください。

1. 対象となる路線

次のイ、ロ、ハのいずれかひとつの条件に合致する場合、発生時の次の講時から授業休講・期末試験中止とします。

[今出川校地]

- イ. 京都市営バスおよび地下鉄が同時に全面不通の場合
- ロ. 次表のa～dの2以上が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合

路線		
a	阪急電車	京都河原町～大阪梅田間
b	京阪電車	出町柳～淀屋橋間
c	近鉄電車	京都～大阪難波間（大和西大寺経由）
d	JR	神戸～米原間

[京田辺校地]

- イ. 京都市営バスおよび地下鉄が同時に全面不通の場合
- ロ. 近鉄電車（京都～大和西大寺間）が全面不通の場合
- ハ. 次表のa～eの2以上が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合

路線		
a	阪急電車	京都河原町～大阪梅田間
b	京阪電車	出町柳～淀屋橋間
c	近鉄電車	京都～大阪難波間（大和西大寺経由）
d	JR	神戸～米原間
e	JR	木津～京橋間

2. 開通時刻と授業・期末試験開始講時

開通後は、次表の通り、開始講時を決定します。

授業・期末試験開始講時（※期末試験の時間帯は、授業時間と異なりますのでご注意ください。）

開通時刻	開始講時
6時30分までに開通	1講時から実施（平常どおり）
10時40分までに開通	3講時から実施
15時55分までに開通	6講時から実施
15時56分時点で不通が継続中	全講時休講

※司法研究科の期末試験開始講時は次表の通りとします。

期末試験開始講時

開通時刻	開始講時
6時30分までに開通	1講時(9時30分)から実施(平常どおり)
10時00分までに開通	2講時(13時00分)から実施
12時30分までに開通	3講時(15時30分)から実施
12時31分以後に開通	全講時実施しない

II. 暴風警報あるいは特別警報発表の場合

- ・「1. 警報発表対象地域」に示す表の府県予報区、一次細分区域、市町村等をまとめた地域、または二次細分区域のいずれかひとつを対象に暴風警報あるいはなんらかの特別警報が発表された場合、発表時の次の講時から、その日の授業・期末試験の実施を中止します。
- ・ただし、発表された時点で、すでに実施中もしくは開始直前の授業・期末試験については、警報の緊急性等を考慮の上で、大学がその中止を判断します。
- ・特別警報が発表された場合、該当地域は非常に危険な状況にあります。特別警報発表地域にいる学生は、各自ただちに命を守る行動をとってください。特別警報の種類は問いません。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。また自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、自身の判断により、命を守るために最善と思われる行動をとってください。
- ・警報解除後、危険が回避されたことが確認された場合には、「2. 警報解除時刻と授業・期末試験開始講時」により開始講時を決定します。ただし、状況判断の上、別途指示することがあります。

1. 警報発表対象地域

府県予報区	一次細分区域	市町村等をまとめた地域	二次細分区域
京都府	南部	南丹・京丹波	南丹市、京丹波町
		京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
		山城中部	宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町
		山城南部	木津川市、笠置町、和束町、精華町、南山城村
大阪府	大阪府	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
		東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市
		大阪市	大阪市
		南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
		泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町

2. 警報解除時刻と授業・期末試験開始講時

警報解除後は、次表の通り、開始講時を決定します。

授業・期末試験開始講時（※期末試験の時間帯は、授業時間と異なりますのでご注意ください。）

警報解除時刻	開始講時
6時30分までに解除	1 講時から実施（平常どおり）
10時40分までに解除	3 講時から実施
15時55分までに解除	6 講時から実施
15時56分時点で警報が発表中	全講時休講

※司法研究科の期末試験開始講時は次表の通りとします。

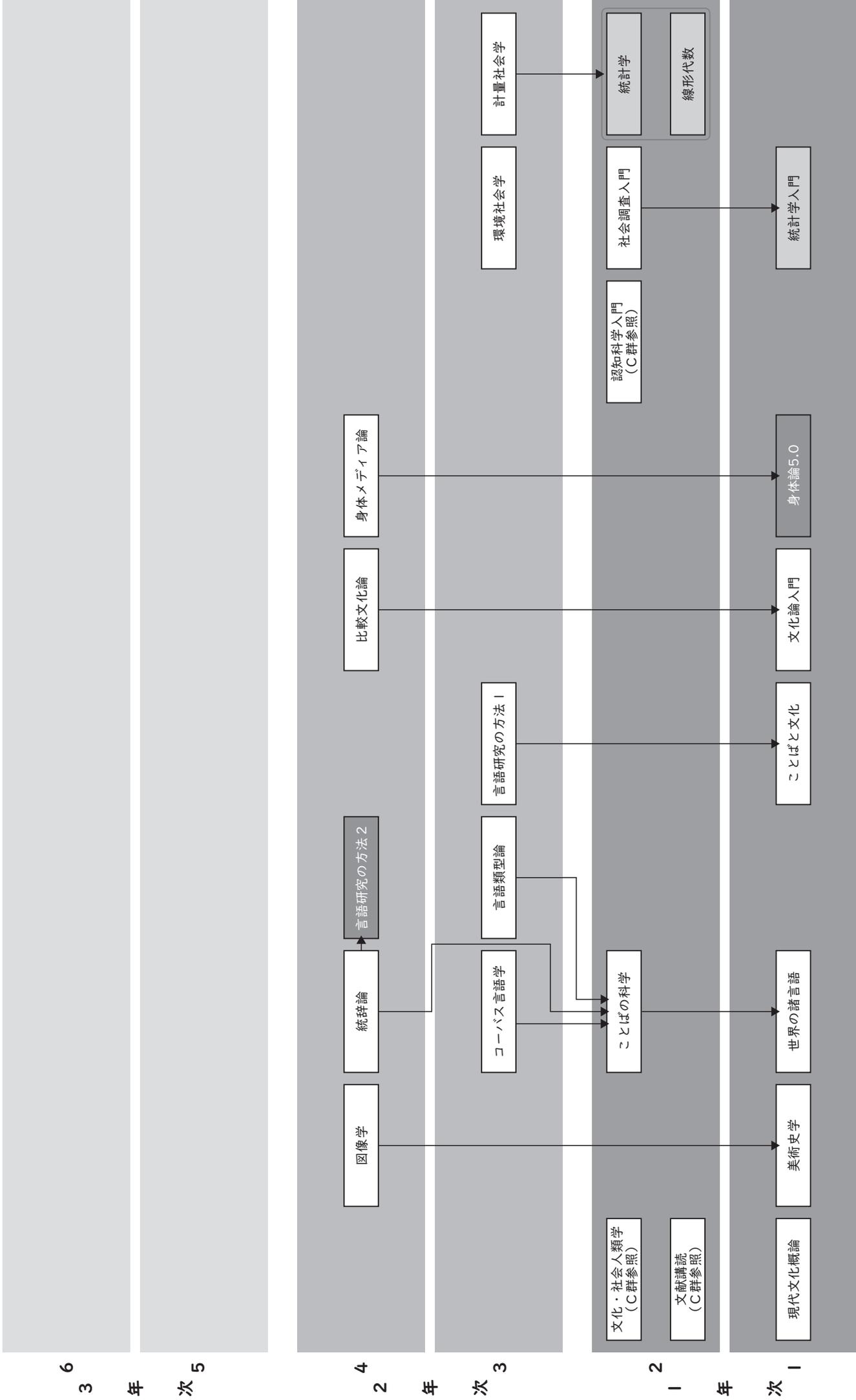
期末試験開始講時

警報解除時刻	開始講時
6時30分までに解除	1 講時（9時30分）から実施（平常どおり）
10時00分までに解除	2 講時（13時00分）から実施
12時30分までに解除	3 講時（15時30分）から実施
12時31分時点で警報が発表中	全講時実施しない。

- Ⅲ. I、Ⅱにかかわらず、授業・期末試験を行うことが困難もしくは危険であると学長が判断した場合、休講・中止とすることがあります。
- Ⅳ. I. に定めた路線において計画運休の確定情報が発表された場合、不通となる路線に応じて、授業の休講、期末試験の中止などの措置をとることがあります。
- Ⅴ. 路線の不通や暴風警報・特別警報の発表、荒天・自然災害などにより、平常どおり授業・期末試験を行うことができない時には、大学HP、同志社大学ポータル、DUET、e-class等を利用して、大学や授業担当者から、必要に応じた連絡を行います。大学HP、同志社大学ポータル、DUET、e-class等をこまめに確認してください。

以上

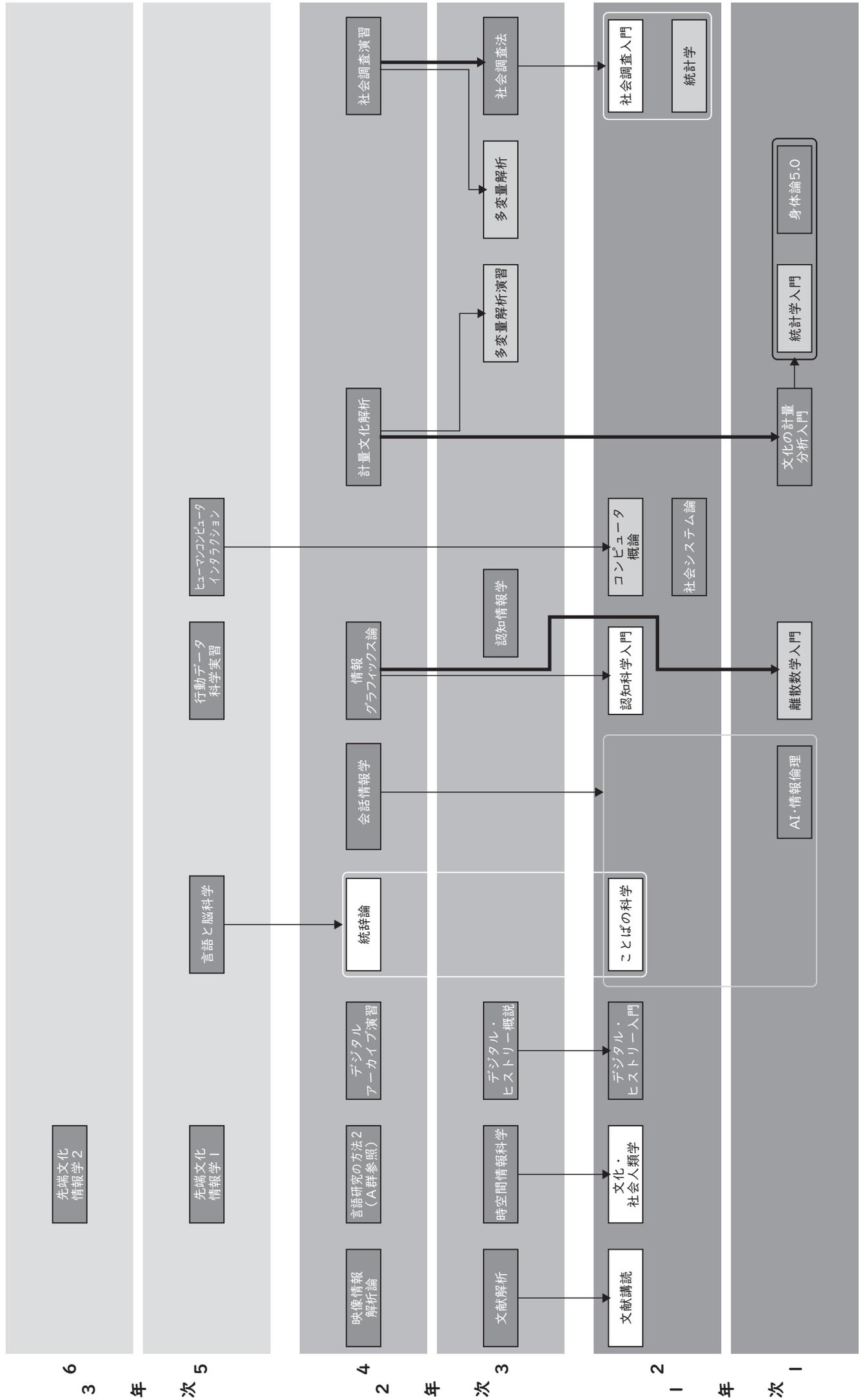
履修体系図 (2024年度以降生用) A 群 (文化科学系科目群)



A 群科目
 B 群科目
 C 群科目

→ 履修条件科目 (その科目を履修していないと履修できない)
 → 履修推奨科目 (その科目の内容を知っているとより理解が深まる)

履修体系図 (2024年度以降生用) C 群 (先端・融合系科目群)



A 群科目
 B 群科目
 C 群科目

→ 履修条件科目 (その科目を履修していないと履修できない)
 → 履修推奨科目 (その科目の内容を知っているとより理解が深まる)